

Connecting People !～笑顔でつなぐ地域の輪～

浜松市北部協働センター

第8回北部ジュニア公民館の様子（平成20年8月開催）



令和3年度北部デジタル協働センターまつり(協働センターまつり)



公民館の沿革・年表

- 昭和49年2月1日 北部公民館として開館
- 昭和51年度 優良公民館表彰受賞（静岡県）
- 昭和52年度 優良公民館表彰受賞（文部大臣）
- 昭和58年4月1日 北部公民館付設体育館開館
- 平成3年度 国際交流情報コーナー開設
- 平成13年8月 第1回北部ジュニア公民館スタート
- 平成19年4月1日 政令指定都市移行
- 平成25年4月1日 協働センター再編

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

★北部ジュニア公民館

地域の中学生在が、企画から運営まで行う、地域の子供向けイベント。学校・地域（北部生涯学習ボランティアの会）・行政（協働センター）が一つになり、異世代の交流と地域コミュニティの活性化を推進することを目的として開始。昨年度、第20回目を迎えた。例年来場者は2000人を超え、地域住民に親しまれている。

★北部デジタル協働センターまつり（協働センターまつり）

10ヶ所での協働センターまつりの在り方を検討し、芸能発表や展示発表の一部をデジタル化したことにより、通常開催時と同様の内容で開催することができた。

1. 都道府県名	静岡県	3. 公民館対象人口	42434人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN（Wi-Fi等）
2. 市区町村名	浜松市	4. 建物設置年月日	昭和49年2月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	15台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（ <input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会） <input checked="" type="checkbox"/> その他（浜松市）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1456人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 1542人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 65415人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	<input type="checkbox"/> 講義、展示会等 合計 68,413人		
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 4人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 30人	<input type="checkbox"/> 職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人 合計 37人		
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他（浜松市社会教育委員会）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> その他（認知症を正しく知ろうコーナーの常設（地域包括支援センター高丘等との連携事業））	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他（市民サービスセンター、体育館） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（77の地域活動団体を抱え、子供、障がい者、高齢者と幅広い利用者を有している。）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 萩丘地区自治会連合会、葵・高丘地区社会福祉協議会・民生委員児童委員協議会、北部生涯学習ボランティアの会、北部協働センター地域活動団体、北図書館、浜松磐田信用金庫あずきもち支店、地域包括支援センター高丘 他				

浜松市北部協働センター

OPEN 8:30～21:30

TEL 053-436-5931

H P <https://city.hamamatsu.shizuoka.jp/c-hokubu/hokubu.html>

SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

「北部ジュニア公民館」・・・地域には、幅広い世代、多国籍の住民が住んでおり、子供の人数が多い。しかし、中学生の居場所があまりなかった。そこで学校・地域・行政が一体となり、イベントの企画や運営を中学生ボランティアに任せることで、地域のボランティア育成、中学生の健全育成の重要な場となり、中学生の居場所作りにもつながると考え、活動をスタートさせた。

「北部デジタル協働センターまつり（協働センターまつり）」・・・コロナ禍でも安全・安心な環境で、地域で積極的に活動する団体の成果を発表することができるように、発表を映像化（デジタル化）し、多くの住民に視聴してもらえるようにした。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

1. 北部ジュニア公民館

（1）**地域ボランティア育成の場と健全育成の場** 中学生ボランティアが中心となって、高校生、大学生、社会人のボランティア（北部生涯学習ボランティアの会）と協力しながら、企画や運営（リーダー決め、仕事の割り振り等）をしている。

（2）**記録集の作成** 活動を後輩に引き継いでいくため、毎年の活動の振り返りや改善点を記録集にまとめている。その記録集は20年分にも及ぶ。

（3）**オンラインイベントに関する技術的指導** コロナ禍でも開催を実現させるため、動画の撮影・編集・配信等の技術を中学生ボランティアに指導しオンラインで開催を実現させた。

2. 北部デジタル協働センターまつり（協働センターまつり）

（1）**地域人材の活用** 活動団体の発表・活動PR動画等の撮影や編集を業者に依頼するのではなく、“地域の力”を活かし、地域住民の協力を得て、VTRにまとめ、協働センターまつり当日に放映した。当日の様子も撮影し、後日協働センター内で放映した。

（2）**団体同士の交流と新たな形での協働センターまつりへの参加意識づくり** 動画等の撮影や編集等デジタル化を通じ、地域活動団体同士の交流が生まれ、協働センターまつりへの積極的な関わりにもつながった。



初のオンライン開催となった
第20回北部ジュニア公民館



北部協働センターまつり
当日の様子を撮影

3. 取組による成果や効果

1. **ボランティア活動しやすい環境・体制** 来場した小学生が中学生ボランティアに対し憧れの念を抱き、将来の中学生ボランティアが自然に育成されている。ボランティア活動を通しての人間形成、自然にボランティアができる環境・体制ができている。（第20回までのボランティア延べ人数・・・中学生1566人、高校生・専門学生・大学生315人、成人1393人）

2. **協働センターが地域の学びの場・居場所** 幅広い年代、多国籍の住民が集うことで、異世代の交流と地域コミュニケーションの活性化につながり、気軽に足を運べる場、住民のよりどころとなっている。

3. **地域活動団体の活性化** 活動内容を映像化したことから、団体の活動が明確になり、新規参加者や問合せが急増した。



憧れの中学生ボランティアのお姉さん

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

★北部ジュニア公民館では、ボランティア参加者からの改善点・反省点・意見等を**イベント記録集**（中学生ボランティア記録集）に収録。取組の検証・改善を行い、次年度につなげている。記録集の作成は、**中学生ボランティアが中心となり編集**している。

★北部デジタル協働センターまつり（協働センターまつり）では、各参加団体や来場者へ**アンケートを実施**。多様な意見等を踏まえながら、**北部協働センター運営委員会**で報告、検証・改善を行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

★**Connecting People** 協働センターは、人が集い、つながる場所であれ！

★**やらまいか** ～新たな学び・チャレンジを応援しよう～

★良いアイデアは、“**雑談**”から始まる！



チャレンジを応援「ダイエット講座」

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

1. 異世代の交流により、「**豊かな心**」を育むことで、**地域の輪**を広げていく。

2. “**地域を大切に**する心”を持つ子供の育成

3. 伝統の継承と新たな挑戦 ～デジタル化～ 「**不易と流行の見極め**」



子供茶道教室から生まれた異世代交流

生涯学習や文化・歴史の継承・発信する拠点

大治町立公民館



太鼓教室



扇骨業などの道具に関わる館内展示

公民館の沿革・年表

- 昭和55年 大治町立公民館開館
- 平成23年 公民館耐震工事
- 平成24年 文化財フェア開催
- 平成26年 学校支援地域本部設置
- 平成27年 町制施行40周年記念事業開催

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

当公民館では、住民の多様なニーズに応えるため、伝統ある神楽太鼓を継承している大治太鼓保存会の太鼓教室やシニア世代向けの連続講座や大学教授を講師として招いて連携する歴史講座などを開催しています。

また、町の伝統産業や暮らしを学ぶ機会を提供するため大治町の大きな特色である扇骨業に関わる道具や昔の暮らしの道具を当公民館に常設展示をして、文化・歴史の継承・発信する施設として役割を果たしています。

1. 都道府県名	愛知県	3. 公民館対象人口	33151人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	大治町	4. 建物設置年月日	昭和55年10月31日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	200台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 204人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 15713人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()				合計 15,917人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 9人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 9人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 18人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (社会教育委員会議)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (館内に図書室がある) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (大治小学校、大治南小学校、大治西小学校、大治中学校、大治太鼓保存会、文化協会、中部大学、愛知医療短期大学、愛知淑徳大学、愛知教育大学、東栄町、大治町教育委員会学校教育課)				

大治町立公民館

OPEN 火~土:9:00~21:00 日祝:9:00~17:00

H P <https://www.town.oharu.aichi.jp/町HP/>

T E L 052-443-2671

SNS <https://m.facebook.com/town.aichi.oharu>





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

少子高齢化や情報化などによって社会環境が大きく変化し、公民館の利用者の多くが高齢化し、施設の利用が減少傾向にあることを鑑み、ライフスタイルが多様化している住民のニーズに即した事業や講座の内容を検討し、開催することが重要になっています。

また、多様な生涯学習機会の充実を図るために各種事業で連携・協働しながら、幅広い世代の住民が利用できるように環境整備に努めていきたいと考えています。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【地域学校協働活動】

学校・家庭・地域が連携協力し、地域住民等の参画による地域ぐるみで子どもを育てる体制を整え、学校教育の充実、生涯学習社会の実現、地域の教育力の向上を図るため、学校支援地域本部を設置し、各小中学校の授業の補助などの依頼に対応するため、コーディネーターが教育活動支援員として登録をしているボランティア派遣調整を行っています。また、スタディサポートクラブ事業として中学生対象に基礎基本や自学自習の学習支援を実施しています。

【社会教育事業】

子ども・家族・地域住民がふれあうことのできる活動を実施し、子どもたちのすこやかな成長を図り、家族の絆を深め、地域のつながりを広めることを目的とする体験活動事業と家庭教育推進事業を行っています。

【文化財保護事業】

町民から寄贈を受けた写真で、大治村時代から平成までを振り返ることができる写真展を開催しています。また、西公民館では、町内小学生の郷土学習の場として、今では使われなくなった昔の道具を展示する企画展を行っています。



授業補助（学校支援地域本部）



学習支援（スタディサポートクラブ）

3. 取組による成果や効果

地域学校協働活動では、住民と学校とのつながりが深まり、住民が得意分野を生かした活動を実施することができました。また、スタディサポートクラブでは参加した中学生が各個人で感じた課題や疑問について積極的に取り組むことができました。

社会教育事業の体験活動事業では、色々な自然を感じることができ、自然の大切さについて考える活動となり、家庭教育推進事業では、料理や工作を通じて親子のコミュニケーションづくりの機会を提供し、親子の絆の大切さを実感してもらえる活動となりました。

文化財保護事業では、昔の遊びを体験するコーナーや町に寄贈された民具などを説明し、児童への郷土学習の単元に関わる教育活動に寄与することができました。



体験活動事業

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験者で構成される社会教育委員会を年4回開催し、社会教育事業に関する計画や実施状況を報告します。内容に関して委員が述べた意見を事業の改善へと生かしています。また、事業ごとに参加者へアンケートを実施して、改善点などに取り組んでいます。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

住民が身近な生涯学習や文化・歴史を学べる拠点である公民館の各種事業に参加することで、人とのつながりや健康づくりなどのきっかけとなり、健康で楽しく充実した人生をすごしていただけるかを考えて事業を進めています。



家庭教育推進事業

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

今後、公民館と住民のつながりを強めて、生涯学習の機会や文化・歴史の継承・発信する拠点として地域に根ざした公民館活動を展開していきたいと考えています。また、新型コロナウイルスの影響により事業を中止せざるを得ない状況が続いたため、オンライン配信などによる事業で新規利用者を増やしていきたいと考えています。



企画展（文化財保護事業）

仮設暮らしのアウトリーチ

豊田市若園交流館



若園交流館 仮設外観



リモートでつなぐ地域の輪

公民館の沿革・年表

- ・昭和56年4月開館
- ・平成18年 指定管理者制度が開始され、豊田市文化振興財団が指定管理者となる
- ・平成26年増築 エレベーター設置
- ・平成27年増築 コミュニティホール設置
- ・平成30年 社会教育法上の公民館から地方自治法上の公共施設へ位置づけを変更。
- ・令和2年12月～令和5年2月（予定）仮設交流館
- ・令和5年4月供用開始（予定）

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 新館建替えに向けて、仮設交流館として運営
仮施設になり、貸し部屋の減少や図書スペース、コミュニティスペースなどもなくなり、人が集いにくく、活動の場が少なくなった。しかし、地域内の他施設で事業を行うことで、新たな利用者の発掘、様々な人とのネットワークの構築につなげることができた。
- リモートでつなぐ地域の輪
コロナ禍においてもできる事業ということで、リモートによるイベントを開催した。交流館をメイン会場に、実演をリモート中継、サブ会場として自治区会館では、モニターを視聴しながら参加。親子連れや子供たちは安心して、楽しく参加することができた。

1. 都道府県名	愛知県	3. 公民館対象人口	14100人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)	
2. 市区町村名	豊田市	4. 建物設置年月日	昭和56年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	200台	
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者（豊田市文化振興財団） <input type="checkbox"/> その他（ ）					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1809人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 7452人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 703人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 13558人（コピー、子育てサロン等利用者）				合計	23,522人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 5人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 0人） 合計 5人					
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）					
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（若園交流館運営委員会）					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> その他（ ）					
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他（ ） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（市民活動を促進し、市民活躍を支援するための、地域の「学びの場、交流の場、活動の場」）					
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 豊田花園幼稚園、若園こども園、若園小学校、若園中学校、豊田南高校、トヨタ車体株式会社、若園地区子ども会、市民活躍支援課、地域保健課、豊田市社会福祉協議会 ほか					

豊田市若園交流館

OPEN 火曜～日曜日・午前9時～午後9時

TEL 0565-53-0028

H P

ph-wakazono@city.toyota.aichi.jp

SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

若園交流館が改築建設中でプレハブ仮設での運営であるという状況とコロナ禍で活動場所が制限される中、交流館（公民館）〈以降、交流館と表記〉として、「学びの場」「交流の場」「活動の場」をいかに確保していくか。

また、新設の交流館は若園中学校との合築であり、このメリットを最大限に生かすためにも、中学校との連携強化は必須である。

さらに、交流館に足を運べない方、定年退職後どう地域と関わればよいか悩む高齢の方々に、いかに生きがいや、活躍の場を提供するかが課題である。コロナ禍で活動が制限される小・中学生の安全を考慮した取り組みも含め、地域での活動の継続や発展、活性化を支援する必要がある。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【中学生ボランティアの機会を！トライ★やるボラ若園（地域学校協働活動）】

●若園中学校では、地域学校共働本部（豊田市独自の名称）と交流館による中学生ボランティア制度が活発である。コロナ禍において、地域コーディネーターと交流館職員が連携し、中学生と地域が関わる機会を創出し、交流館主催のコンサートのプログラム台紙づくり、シトラスリボンの取り組み、地域の伝統をふまえた俳句募集事業などを展開。

●運営の工夫・・・活動に先がけて中学校でのオリエンテーションでボランティアの心構えを学んだ後に、希望者がボランティアの登録を行う。中学生の自主性や積極性を尊重し、求人票を掲示して、自分で応募する形としている。



中学生ボランティア
「トライ★やるボラ若園」

【仮設交流館からのアウトリーチ事業（防災、地域住民の活躍、活動支援）】

●交流館が改築建設中の仮設交流館であるため、施設外の出張コンサートをはじめ、防災講座、ドローン体験教室、星空観測会、健康麻雀大会など各種講座のアウトリーチ事業を実施。

●仮設交流館であることのマイナス条件をチャンスととらえ、これまで実施がなかった自治区会館や近隣交流館と共催し、場所を借りて講座や事業を開催。

●運営の工夫・・・自治区長や共催の事業担当者と打合せを密に行ない、相互の事情を理解し、コロナ対策など来場者が安心して参加できる環境を確保。出張コンサートでは、参加者の年齢層にあわせた選曲、中学生ボランティアにプログラムの台紙作成を依頼するなど多世代交流の機会にもつながった。



防災講座「親子でサバイバル
たき火&料理にチャレンジ」

3. 取組による成果や効果

交流館事業を交流館だけで行うのではなく、自治区会館などのより身近な施設での開催は、高齢者の外出機会を提供でき、身近な自治区会館には抵抗なく出かけられたと好評であった。コロナ禍で活動場所を探していた地元の演奏家の発掘、交流館を利用したことがない人への交流館事業の理解にもつながり、狭い仮設という不利な条件を克服できた。

また、コロナ禍での外出が心配されるなか、リモートによるイベントを実施し、複数の会場を中継しながら、イベントを実施することができた。マイナスの条件を克服した工夫は、今後の運営にも生かすことができる。



地域の人による、地域の人のための
音楽イベント「出張コンサート」

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 講座や事業終了後には、参加者アンケートを実施し、充足率、満足度の数値化。職員ミーティングでの意見共有。
- 市内28交流館で行う交流館全体研究会での事例発表。好事例の横展開。
- 交流館の運営や課題について教育関係者をメンバーとする交流館運営委員会を年間2回開催し、意見交換をし、検証・改善を行う。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- あらゆる世代が、やりがいを持って学び、楽しく交流し、生き生きと活動できる拠点であるために、職員はコーディネート力を強化し、地域住民に寄り添いながら、それぞれの持てる力を発揮できるよう支援する。
- どこへ行っても「笑顔」で対応すること。

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

2年の仮設交流館期間に連携を深めた各種団体（地域学校共働本部、自治区、近隣交流館）とのネットワークを生かし、地域住民のニーズをとらえ、地域資源のさらなる活用を図り、若園交流館単独に限らない事業を計画。

令和5年度の新館開館を好機に、行ってみたい、参加してみたいと期待される事業を実施し、地域の活動拠点として、地域、学校、企業が一体となり、地域に愛着を持ち活動、活躍できることを支援していく。



新若園交流館

『 人と人 学びあい 結びあい 』

木津川市南加茂台公民館



健康麻雀サークル活動の様子



親子でチャレンジ・星を楽しむ

公民館の沿革・年表

- ・昭和58年1月に、相楽郡加茂町（現在：木津川市）南加茂台住宅地域に開館。
- ・子どもから高齢者まですべての市民を対象として、公民館サークル連絡会に登録されている各種サークルおよび一般のサークル活動や講座の開講などを行い、学習機会や交流の場の提供に努めている。
- ・子どもから高齢者まで幅広い事業の実施や、子どもの居場所作りにつながる取組にも力を入れている。

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- ・毎日講座やサークル活動が行われ、地域住民が積極的に参加している。
- ・高齢者のニーズに応えるとともに、地域住民の交流の場となっている「健康麻雀サークル」では、サークルメンバーが講師となって初心者講座を開設するなど参加者同士の交流も活発である。

1. 都道府県名	京都府	3. 公民館対象人口	79,601人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	木津川市	4. 建物設置年月日	昭和58年1月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（〇〇地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 337人 <input type="checkbox"/> その他 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 12466人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計	12,803人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 5人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人	職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人		<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 5人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ ）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（ロビーに「声の広報」「議会だより」の音声テープを設置している。）	<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター	
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他	

木津川市南加茂台公民館

OPEN 火・金・土：9:00～22:00
水・木・日：9:00～17:00
TEL 0774-76-5959
H P <https://www.city.kizugawa.lg.jp/index.cfm/8.4946.37.310.html>
SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- ・南加茂台公民館の周辺地域は、少子高齢化が進み、住民同士の交流やサークル会員の減少などが課題となっている。
- ・コロナ禍でさらに住民同士のつながりが希薄になる中、学校、家庭、地域社会が連携・協働し、南加茂台公民館周辺の地域の子どもたちを見守り、育てていくことの必要性がある。
- ・「人生100年時代」を踏まえ、住民の学びへのニーズも多様化する中、様々な世代の地域住民の学習意欲に応える機会を提供する必要がある。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

- ・文化系や運動系など公民館サークル連絡会に登録されている36のサークルや各種団体が公民館で活動を行い、地域住民の学習や交流の場となっている。
- ・「認知症の理解と共生社会」講座や「健康麻雀」講座を開講し、高齢者のニーズに応えるとともに、地域住民の交流の場となっている。
- ・生涯学習フェスティバル公民館まつりで、サークル活動の発表や作品の展示を行い、サークル活動参加者のモチベーション向上や市民の交流の場となっている。（令和元年度～3年度は新型コロナウイルス感染症拡大状況から、中止となったが、令和4年度は実施予定で取組中。）
- ・小学生を対象とした「公民館出前子ども広場」では、地域安全サポーターやボランティアが小学校で卓球やバトミントン、将棋などを教えたり、一緒に遊んだりして世代を超えた交流や子どもの居場所作りとしての役割を担っている。



ウクレレサークル発表会



公民館出前子ども広場

3. 取組による成果や効果

- ・公民館では、毎日、講座やサークル活動が行われ、地域住民が積極的に活動に参加している。
- ・健康麻雀サークルのメンバーが講師となり、「初心者のための健康麻雀」講座を6月から6回にわたり開講する他、サークル活動は毎日行われ、参加者同士の交流も活発である。
- ・サークル活動と公民館が共催し、親子で参加する「親子でチャレンジ・星を楽しむ」では、星のランタン作りや大型望遠鏡での星空観望を行い、自然の美しさに触れるとともに家族のふれ合いの時間となった。



親子でチャレンジ・星を楽しむ

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・開講講座の参加者数等から、受講者のニーズや希望などを把握し、公民館講座や生涯学習講座のテーマに反映させる。
- ・市内の交流会館や文化センターと連携し、開講講座の受け入れや人数や駐車場利用状況などを考慮して講座開設を検討している。
- ・公民館運営審議会による評価を踏まえ、改善を図っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- ・地域住民が興味を持って楽しみ、受講講座をきっかけに参加者が自らの学びを広げたり生活を豊かにしたりすることができるような講座を検討している。
- ・子どもから高齢者まで幅広い世代に対応した講座や体験活動を開設することで、多様な学習機会を提供する。

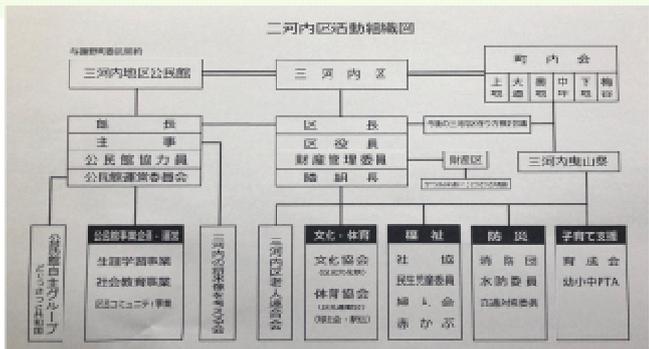


公民館出前子ども広場

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

地域住民に対する学習機会と交流機会の提供を充実させ、様々な分野にわたる学習活動の推進に努めていく。子どもから高齢者まで、幅広い地域住民を対象とした講座やサークル活動を充実させるとともに、地域の子どもの居場所作りにつながる取組も推進していく。

地域の将来を考える人材育成に取り組む公民館 与謝野町立三河内地区公民館



三河内区活動組織図



「三河内の将来像を考える会」

公民館の沿革・年表

- 昭和55年 「野田川町立三河内公民館」建設
- 平成4年 三河内地区公民館における公民館活動開始
環境保全、人権教育、人材育成について事業を行い、町内の公民館活動を牽引する
- 平成17年 3町合併により
「与謝野町立三河内地区公民館」となる
- 令和2年 地域交響プロジェクト交付金(3ヵ年)事業採択
- 令和3年 三河内の将来像を考える会を設立

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- ・町内で最初に公民館活動を実施した館である。
- ・区や町内会とも連携して活動を行っている。（左上画像）
公民館の事業企画・運営は主に、生涯学習事業、社会教育事業、区民コミュニティ事業といった、三河内区民を対象とした講座を実施している。
- ・三河内の将来像を考える会を設立（左下画像）。三河内区について学ぶことから始め、将来を担う人材育成に取り組んでいる。

1. 都道府県名	京都府	3. 公民館対象人口	1973人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	与謝野町	4. 建物設置年月日	昭和55年10月20日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (三河内地区公民館)				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 329人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 1093人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()				合計 1,422人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア協力者 3人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 5人				
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (事業内容や利用者のニーズに応じて開館時間を変更する等、柔軟に対応している。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (学校PTA、家庭教育委員会、青少年育成会、与謝野町食生活改善推進協議会野田川支部 大学とは今後連携・協働する予定。)				

与謝野町立三河内地区公民館

OPEN 月～金 9:00～22:00 H P 無し
TEL 0772-43-0357 SNS 無し



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

元々は丹後ちりめん生産に関する事業による自営業者が多い地域であったが、ちりめん生産の減少とともに近年は勤めに出る人が増加したことに伴い、PTAや地域活動に参画することが難しくなり、自主的ではなく義務的になってしまっていることから、地域の事を自ら考えて動ける、地域の将来を担う人材育成を行う必要がある。

また、三河内地域について学ぶ時間も少ないことから、同世代連携、世代間交流が出来ていない状況も課題である。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

豊かな三河内地域社会（スポーツ活動、文化活動、経済活動など）の実現のため、地域内の人間関係を豊かにし地域社会の将来を担う人材育成を実施している。

中でも令和2年度からは京都府の「地域交響プロジェクト交付金」採択を受けて「与謝野町三河内地域における協働モデル推進型プラットフォーム形成事業」を実施、「三河内の将来像を考える会（三河内未来塾）」を推進している。

【三河内の将来像を考える会 令和3年度実績】

4月 年度初総会

6月 第1回フォト散策学習会

三河内を知る（丹後ちりめん工場）

10月 第2回フォト散策学習会

三河内を知る（倭文神社と屋台倉庫）

12月 第3回フォト散策学習会（写真展開催）

2月 年度末総会

三河内の将来像を考える会の活動としては、まず「三河内区を知る」活動から始めている。



フォト散策学習会のようす①



フォト散策学習会のようす②

3. 取組による成果や効果

三河内地区の現状や課題について把握し、「三河内の将来像を考える会」を設立。

まずは地域を知ることが目的として参加者が主体的に関われる事業としてフォト散策学習会を展開、撮影した写真で写真展を開催した。

写真展の開催にあたっては三河内地域の会社や事業所、公民館運営委員会参加団体などから協力いただいた。

さらに、写真展を行ったことで区民から意見が出たり、三河内地域の今昔について一緒に考える良い機会となった。参加（延べ）人数102人。



写真展のようす

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

現在は京都府の「地域協働モデル推進プログラム」で検証・改善が行われている。

公民館運営委員会により自己点検・評価を行っていることに加えて、与謝野町公民館運営審議会において、活動内容等を報告し、適宜助言等を受けている。また、教育委員会全体で取り組んでいる事業評価においても、公民館活動・公民館管理の両面で、外部有識者による点検と評価をいただいている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

昔開催していた「ちびっこ探検隊」や、現在も実施している「いっしょにつくろうひろごはん」、区民研修、地域のバンドやウインドオーケストラと連携・開催している「音楽講座」等のように、地域の人、コミュニティ、団体との交流事業を大切にしている。



「いっしょにつくろうひろごはん」のようす

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

区や地域とのかかわりを持ち続け、地域の人が集える公民館として活動を継続していく。

まずは設立したばかりの三河内の将来像を考える会が、支援員の任期が終わった後も自走できる形づくりを目標としている。また、今後、女性の参加を促す必要があるとも考えている。



迎春飾り講習会 集合写真

豊かに人と人がつながる公民館

新温泉町浜坂公民館



町立高齢者大学



プログラミング実習

公民館の沿革・年表

- 昭和27年 浜坂町青年団が青年学級を設ける
 - ・珠算簿記、漁業講座等、職業の新知识を磨く
 - ・相撲、フォークダンス、コーラス等のレクリエーション活動を行う
- 昭和29年 浜坂町が大庭村、西浜村と合併
- 昭和30年 浜坂町公民館設置条例制定
- 平成4年 浜坂町地区公民館規則制定
- 平成17年 浜坂町、温泉町が合併し新温泉町となる
 - 新温泉町公民館条例、新温泉町公民館規則制定

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 町立高齢者大学 宇都野学園（令和3年10月）
公民館が運営する宇都野学園は、4年制学部、2年制大学院にて構成されている。写真は開学したばかりの兵庫県立芸術文化観光専門職大学を訪れ、施設見学をしているところ。
- 図書館プログラミング実習室（令和3年10月）
町立加藤文太郎記念図書館との共催により実施。**公民館職員が指導を受け持つことにより、高頻度かつ継続的な開催を実現している。異なる学校・学年の子ども達が互いに学び合う場所となり、また、親子のふれあいの契機となっている。**

1. 都道府県名	兵庫県	3. 公民館対象人口	4144人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)	
2. 市区町村名	新温泉町	4. 建物設置年月日	昭和59年9月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	256台	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1846人 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 20335人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 848人	合計	23,029人	
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	(職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人)	合計	3人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()					
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (社会教育委員会による代替)					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学		
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設	<input type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター	<input type="checkbox"/> 多目的集会施設 (ホール、会議室等)		
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他	(町立浜坂中学校、兵庫県立芸術文化観光専門職大学、新温泉町社会福祉協議会、町立加藤文太郎記念図書館)	

新温泉町浜坂公民館

OPEN 8:30~17:15
TEL 0796-82-4339

H P https://www.town.shinonsen.hyogo.jp/page/index.php?mode=page_list&cate_id=C0706
SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 公民館事業の参加者は高齢者の割合が高く、生産年齢層や青年層の参加が少ない傾向にある。「伝統と文化を基盤に、多様な人々とつながり合い、豊かな人間関係を築く人づくり」（第3期新温泉町教育振興基本計画 令和4年度～8年度）を具現化するためには、多世代の人々が「つどい」「まなび」「つながる」という公民館機能の活性化が喫緊の課題である。
- 少子化により従来の子ども会事業が持続困難となり、大多数の保護者が交流を中心とした内容への変更を望んでいる。
- 「新温泉町の明るい未来を切り拓く人づくり」（同計画）に向け、住民の自治力を向上させることが必要となっている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【親子、仲間、地域の人々との交流事業】

● **チャレンジキッズ探検隊新温泉**…進学・就職で町を離れた子どもたちが郷土に戻ってくることを目的として川下り体験、ハイキング、釣り、マリンスポーツなどの自然体験や新温泉町の歴史を学ぶ体験講座を実施し、新温泉町の魅力を伝えている。また仲間や保護者、地域住民など多様な人々と交流し、つながることによって、豊かな人間関係を構築することの大切さを伝えている。新温泉町への愛着を育む取組として、館が対象とする地域のみならず、町全域を自然フィールドとし、町民と連携して公民館が実施していることに特徴がある。



チャレンジキッズ探検隊新温泉

【地域住民の主体的に生きる力を育む事業】

● **女性教養講座**…現在においても固定的な性別役割分担の意識が依然残っており、女性の能力を十分に発揮しにくい状況がある。そのため、固定観念にとらわれず、豊かで輝く女性を目指すことを目的とし、文化や教養などの座学や体験講座、人権学習を受講生自らが年間の講座内容を計画し、実施している。



図書館プログラミング実習室

● **図書館プログラミング実習室**（加藤文太郎記念図書館で実施）…地域の偉人である加藤文太郎のひたむきに努力する技術者としての精神を受け継ぎ、参加者のプログラミング思考と粘り強く取り組む姿勢を育むため、試行錯誤しながら学び合い、教え合うワークショップ型の講座を、図書館と連携し、実施している。児童の興味・関心に応じ、職員がきめ細やかなプログラミング学習の機会を継続的に提供している。

3. 取組による成果や効果

【親子、仲間、地域の人々との交流事業】

● 自然豊かな新温泉町での自然体験や歴史を学ぶ体験により、ふるさとを愛する心の育成ができています。また、親子・地域・異年齢の人々とのふれあいが深まることにより、次世代の地域を担う子どもの育成ができています。



親子ふれあいスポーツ体験事業

【地域住民の主体的に生きる力を育む事業】

- 公民館の事業に対して、自ら進んで参画しようという意識が高揚した。
- プログラミング学習に対する関心が高まり、実習室だけでなく、家庭においても自ら取り組みもうとする児童が増えた。同時に、親子がふれあう良い機会ともなっている。

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 学識経験者、町内各種文化団体役員（人権教育協議会・青少年育成推進協議会・文化協会・婦人会）、町連合PTA協議会長、町校園長会代表者など12名で構成する新温泉町社会教育委員会を年間3回開催。（6月、11月、2月）
- 中央公民館である当公民館と、浜坂地域7地区公民館との館長会議を毎月（そのうち2回は温泉地域と合同）開催。
- 地域学校協働活動に関する内容については、町内各小学校の学校運営協議会で協議、検証している。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- 豊かに人と人がつながる。（地域の人々の中に主体的に生きる力を育み、学びの輪をつくる）
- コミュニティ・スクール（学校運営協議会）や地域学校協働活動、芸文大、社協など、学校や地域、福祉機関と連携し、お互いが協力することのできる知的・人的ネットワークを構築する。
- 持続可能で「町民良し」「公民館良し」「地域良し」の三方が充実する公民館事業を行う。



高年齢者大学宇都野
連携協議会と新温泉町の
学舎と福祉の連携

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

公民館を「みんなが輝くまちづくり」の拠点とする。そのため、インクルージョンとダイバーシティを踏まえ、全ての人が生きがいや楽しみ、誇りを持って生涯を通じて主体的に学び続けることができるようにする。さらに、町民一人ひとりが「まちづくりの主人公」であるという意識と気運を高揚させ、みんなが知恵を出し合い、協働して「まち（地域）づくり」に参画する活動を展開していきたい。



外国人々と共に担ぐ神輿（諸寄祭）

仲間づくり・町づくりに取り組む社会福祉教育活動の拠点

加古川市立尾上公民館



高齢者大学が地域の祭りに参加



中庭のウッドデッキで料理の試食

公民館の沿革・年表

- 平成21年 浜の宮公民館を閉館し、尾上公民館が開設
- 平成21年 高齢者大学「浜の宮学園」33回生が開設
- 平成27年 尾上公民館が指定管理になる
- 平成27年 運営管理委員会開設
- 平成29年 運営推進委員会開設
- 平成30年 尾上公民館10周年記念式典挙行
- 令和元年 浜の宮中学校学校運営協議会に参画

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

○尾上公民館では講座を受講するだけでなく、高齢者大学生が地域の祭りに模擬店を出店したり、登録団体とのコラボレーションと一緒に活動したり、小学生を招いて折り紙やグラウンドゴルフなどを伝授したりするなど幅広い学習を進めている。
○尾上公民館の自主講座はヨガなどの運動系、歴史講座や川柳などの文科系、料理教室などの料理系、絵画やイングリッシュの子ども教室系など多くの講座を行っている。料理教室は新型コロナウイルス感染のリスクが高いため、屋外のウッドデッキで対策を取りながら、作った料理を楽しく試食している。

1. 都道府県名	兵庫県	3. 公民館対象人口	29600人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	加古川市	4. 建物設置年月日	平成21年4月13日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	20台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (尾上公民館運営管理委員会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2314人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 45037人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 3102人 ()				合計 50,453人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 4人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 4人				
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (自主講座受講料収入)				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 () <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (全部屋1階のバリアフリーの木造建築で、床暖房完備の部屋や喫茶、中庭にはウッドデッキにテーブルを備え、すべての年代が集える場所になっている)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 尾上町連合町内会				

加古川市尾上公民館

OPEN 9:00~21:00

TEL 079-423-2900

H P

SNS

<http://onoekouminkan.com>

<https://www.facebook.com/加古川市立尾上公民館-112497973814855>





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- ・尾上公民館は駐車場も広く、全室1階のバリアフリー構造で床暖房設備の部屋や、オストメイト対応のトイレを完備した、幼児から高齢者や障がい者までみんなが使いやすい公民館である。しかしながら市の南西部に位置し、工場地帯のそばで、町の中心部から離れているため、知名度が低く、利用者の減少傾向が続いている。
- ・本館は町内会を母体とする指定管理館のため、町内会や近隣の小中学校との繋がりが深く、地域の各種団体や小中学校のPTAから選出した運営管理委員会や運営推進委員会を定期的に開催し、要望や意見を聞きながら運営している。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【運営管理委員会と運営推進委員会により、的確にニーズを捉えて事業を実施する（取組全体）】

子どもから高齢者まで多様な市民が来館し集えるようにするため、市民のニーズや意見をより反映した運営となるように、運営に係る委員会を運営管理委員会と運営推進委員会に分けて設置し、機能的に活動できるようにした。運営管理委員会は、予算や運営に係る全体的な協議を集中して行う。運営推進委員会は町内会やPTA等の実務担当者で構成したため、学校や地域団体と密な連携を行うとともに、住民のニーズを的確に捉えて、講座を企画できるようになった。

他にも、来館者を増やす工夫として、講座内容の見直し、SNS等を活用した広報、ポイントカード制の導入を行った。ポイントカードは、来館した日に一度スタンプを押すことができる。ポイント数に応じて食事券などがもらえる仕組みで効果を表している。

【公民館改造計画～子育て世代を応援しよう～（未就学児と保護者）】

子育て世代を応援するために「交流ルーム無料開放日」を毎月設け、加古川市の子育て応援情報誌に掲載し、周知している。開放日は未就学児が絵本やおもちゃで遊んだり、親同士が交流をしたり、ボランティアによる子育て悩み相談も行い、子育ての悩みを解決している。



尾上公民館ホームページ



ポイントカードの宣伝

3. 取組による成果や効果

【取組全体による成果・効果】

- ・令和2年度より来館者が増加した。（昨年度比+36%）
- ・講座満足度調査で平均95.5%の高い満足度を得ている。（昨年度比+2.6%）
- ・令和3年度より開始したポイントカード利用者が増加している。

【子育て世代を応援しようの成果・効果】

無料開放日を設けたことで、子育て世代の方が定期的集まり、顔見知りになることで様々な情報交換の場となった。また、ボランティアによる子育てや生活のアドバイスが好評である。



交流ルーム無料開放日で交流を深める

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

本館では、学識者や自治会関係者、公民館利用者や各小中学校のPTAの方々を構成員とする委員会を管理委員会と推進委員会の2つ設置しており、事業面や予算、決算などの経営面での話し合いを持っている。PTAから出た公民館の活動がわかりにくいとの意見からホームページを開設することになったり、ポイントカードの具体的な運用について話し合いをしたことによって実現にこぎついたり、意見を吸い上げて改善やよりよい案に練り上げている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

地域の拠点となるよう、温かく、親しみやすい公民館を目指している。そのためには利用者との会話を大切に、意見や要望などを真摯に受け止めたり、活動と一緒に参加したりしながら関係を築き、利用者に寄り添った公民館を目指している。また、夏には祭りの出店を計画したり、クリスマスに合わせてイルミネーションで飾ったりして市民の憩いの場になるよう努力している。



クリスマスイルミネーションでプレゼント

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

公民館があらゆる世代の集いの場となり、それぞれの世代が家族のように繋がりがあえる場所にしていきたい。受講生同士が交流し、教え合える場、高齢者が子育て世代の悩み相談や子どもたちに裁縫や昔の遊びなどを伝えたり、若い世代がスマホなどのIT機器を教えるような双方向で伝え合いのコミュニティを作っていきたい。



他の講座生が観る中でのロビー発表会

市民が主役のまちづくり

丹波市市民プラザ



大交流会時写真1



大交流会時写真2

公民館の沿革・年表

- 令和元年10月 市民プラザオープン
- 令和2年8月 来館者10,000人達成
- 令和2年12月 大交流会開催
- 令和3年4月 市民が設立した新法人による運営開始
- 令和3年8月 来館者20,000人達成
- 令和3年11月 大交流会開催
- 令和4年4月 指定管理者による管理・運営

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

丹波市市民プラザは基本理念である「市民が主役のまちづくり」の実現に向け、個性や多様性を尊重し、「参画と協働」に主眼をおき、新しい公共を担う「人づくり」と持続可能な「地域づくり」を目的とした支援を行うために設置している。

左の写真は、市民プラザが主催している「まちとわたしの大交流会」の様子である。様々な団体や属性の方が集まり、自身の活動の発表などを通じて交流を図っている。

1. 都道府県名	兵庫県	3. 公民館対象人口	62152人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	丹波市	4. 建物設置年月日	令和1年10月22日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	50台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (特定非営利活動法人 丹波ひまわり支援機構) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input type="checkbox"/> 学級・講座 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 372人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 300人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 10606人 (市民プラザがつなぎ役となり、市民活動や地域づくり活動に関する勉強会や交流会を実施)				合計 11,278人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 7人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 1人) 合計 7人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (市民活動団体の支援、NPO団体の支援、地域支援、人材育成、各種相談業務)				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (子育て学習センター、託児室、男女共同参画センター) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (大型商業施設の一部を市民プラザとして借り上げ。その中に市民活動支援センター、男女共同参画センター、子育て学習センター、託児室がある複合施設)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他				

丹波市市民プラザ

OPEN 10:00~18:00 H P <https://www.tamba-plaza.jp/>
 TEL 0795-82-8682 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 丹波市市民プラザの目指す「**ごちゃませ**」（様々な市民・団体・グループが活動内容、世代、属性を超えて企画・参加・交流することができる場の意）の交流拠点を体现するため。
- リアルな会場での参加だけでなく、オンラインやラジオを活用したウィズコロナ時代に**どこからでも、誰でも地域や人とつながることができる場**を作るため。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【知る！出会う！つながる！まちわたしの大交流会（取組全体）】

丹波市市民プラザ内の各団体（市民活動支援センター、男女共同参画センター、氷上子育て学習センター）が主催し、事業を実施。運営主管は市民活動支援センターが行い、**各種団体の展示ブースや体験ブース、発表ステージ**をはじめとしたさまざまな企画を実施した。

また、大型商業施設内に設置している利点を活用し、プラザ内と商業施設の広場スペースをサブ会場にすることで、市民プラザ来館者のみならず、**商業施設利用者も幅広く参加**していただけるイベントとして実施した。YouTubeを媒体とした**ライブ配信**や、**地元コミュニティエフエムと連携**し、ラジオを通じて会場内の様子を会場外に配信することで、**どこからでも、誰でも**がつながれる工夫を行った。**来場者数は約300名**。



大交流会 サブ会場

【地域コミュニティ活動の拠点整備（地域資源を活用したまちづくり）】

丹波市市民プラザが**プラットフォーム**となり、市民活動や地域づくり活動に関する勉強会や交流会を開催し、活動の担い手となる人材育成を行っている。また、多様な地域住民の参加・参画を促すために、情報誌やラジオ、SNS等を活用し、市民活動や地域づくり活動に関する情報を発信。さらに、活動や団体情報の蓄積、調査研究、活動への相談など総合的な支援を行っている。地域づくり活動の輪を広げながら、地域の方々と将来に地域のあり方を話し合い、持続可能な地域づくりを目指した取組を行っている。



TAMBA 地域づくり大学

3. 取組による成果や効果

【活動による成果・効果（知る！出会う！つながる！まちわたしの大交流会）】

- 多様な団体や個人が自らの活動を通じて交流することで、市民プラザの役割を体现したイベントとなった。
- 市民プラザ来館者の増加（昨年度比+7.1%）

【活動による成果・効果（地域コミュニティ活動の拠点整備）】

- 多くの市民がコミュニティ活動に関心を持ち、気軽に参加できるよう様々な活動に関する情報発信や活動に参加するためのきっかけづくりを進めた。
- 事業関係者、関係団体の拡充（昨年度比+191件）



来館者数20,000人達成

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 学識者、自治協議会関係者など15名で構成する市民活動支援センター運営委員会を開催。
- 市民活動支援センターの活動状況について振り返り、今後の計画に反映できるよう取り組む。それぞれの立場からの意見を踏まえ、基本理念に基づく運営ができるように話し合いを行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

施設内に設置している「市民活動支援センター」と「男女共同参画センター」の設置目的から、市民一人ひとりが輝き、活躍できることや、個性や多様性を尊重しながら、多様な主体と協働して行う「市民が主役のまちづくり活動」を支援していくことが大切である。



6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

地域課題や社会的な課題に対応するためには、多様な主体の連携・協働による取組が必要である。地域住民一人ひとりの個性を大切にしながら、持っている力を十分に発揮できる地域であるために、多様な主体が参加・参画できる地域づくりへの支援を充実させる。



つながる・ひろがる・みのるーおらがまちの公民館

奈良市立都祁公民館



ため池でカヌー教室

公民館の沿革・年表

- ・昭和44年 都祁村中央公民館（旧都祁村）として設置
- ・平成17年 旧都祁村と奈良市が合併
奈良市立都祁公民館となる
- ※奈良市は平成13年から指定管理者による運営
（指定管理者は奈良市生涯学習財団）
- ※合併を機に、都祁公民館も同様となる



キッズつげザー(消防団体験)

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

（左図上）「子どもゆめ基金」の助成を受けて開催した「つげまるごと自然体験&発見(カヌー教室)」の様子。他にも「森探検」「川探検」「自然素材遊び」を開催し、親子で地元の自然を楽しみ、その素晴らしさを再発見した。

（左図下）「キッズつげザー(消防団体験)」の様子。消防団として頑張っている父親たちの姿をみて、地元の都祁を愛する気持ちを育ませたいと協力を依頼し、開催した。他にも、自主防災防犯会など、保護者世代の活躍を見せる講座を企画している。

1. 都道府県名	奈良県	3. 公民館対象人口	5078人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	奈良市	4. 建物設置年月日	昭和44年12月16日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	20台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 ((公財)奈良市生涯学習財団) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 760人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 1400人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()				合計 2,160人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 2人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 3人				
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (子どもゆめ基金)				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 () <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (豊かな自然に囲まれた環境、近くに名阪国道等があり、車で来館しやすい)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 ()				

奈良市都祁公民館

OPEN 9:00~17:00
TEL 0743-82-1362

H P <https://manabunara.jp>
SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 都祁は、縄文時代の遺跡や氷室跡、社寺、城跡などの歴史遺産や豊かな自然が多く残っている地域である。
- 平成17年に奈良市と合併、その後4つの小学校が1つに合併する等、少子高齢化や人口減少が地域の課題となっている。
- 各種講座や展示・発表の機会等により広範囲な地域をつなぐ社会教育施設として、地元住民からの期待が大きい。
- 合併から10年以上経過したが、以前の小学校区を基準にした意識が強く、都祁を一体とした意識の醸成が必要である。
- 次の世代の活性化に向けて、子どもたちや子育て世代を対象とした取組が求められている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【地域の環境を活かし、地域の活性化や地域外への情報発信を進める事業】

上記の課題から、**豊かな歴史遺産・自然環境を活用した講座**を開講し、講座や広報を通じて**地域の活性化と人とのつながりを意識した流れ**を大切にしている。例えば、「都祁散策」では、歴史遺産や自然環境を楽しむコースを設定、都祁スポーツ協会と共催し、安全確保や参加者とのふれあいを重視して実施した。終了後、**HP等で散策したコースの内容を紹介**している。「つげまるごと自然体験&発見(川探検)」では、旧小学校区を意識して場所を選定し、「山探検」では、県立野外活動センターを会場に、**地元の豊かな自然環境に触れる**等、親子で楽しみ、**故郷を再認識することで、愛着や誇りを醸成**した。また最近話題の「**外来種**」の侵入が少ないこと等、参加者にとって**意外な事実を学ぶ機会**になった。例年秋に、実行委員会形式で「つげまつり」を開催していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和2年度は中止した。自主グループ活動を停止した時期もあったが、徐々に制限が緩和され、展示や発表の機会を求める声の高まりを受け、令和3年度は「都祁公民館まつり」として公民館を利用する自主グループのみの展示会を開催した。規模は縮小したが、自主グループの会員とともに手作りで開催することができた。演技発表は、準備会の時点で感染が再拡大したため残念ながら中止したが、公民館以外の公共施設を拠点とする自主グループ代表者とも、顔をあわせて協議することができ、今後への足掛かりができた。



都祁散策



川探検

3. 取組による成果や効果

- 「川探検」「カヌー教室」「森探検」「星空教室」などの講座を、地域の小学校のWebサイト等も活用して募集した。地域の環境を活かした内容の講座に親子で参加する機会をつくることができ、何気なく過ごしている**都祁の素晴らしさや楽しみ方を見つけ、共有する動き**が広がっている。「森探検」で作ったバードコールを鳴らして、鳥の声を聴いたり、夜空を見上げて満天の星を楽しんだりする機会も増えている。
- 広報紙やHPで講座の様子やスズランの群生地、谷川にかけられたこのぼり等を紹介することで、問合せだけでなく、見学・写真撮影等を目的とした訪問があり、地元住民の喜びになっている。
- 「都祁公民館まつり」では、これまでは受動的な参加だった自主グループが、主体的に取り組むことで達成感を持つことができた。現在各グループの活動等において、**より主体的で積極的な取組へ移行**しつつある。



森探検

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 講座開催時には、参加者との会話を意識すること、講座終了後のアンケート調査から参加者の要望やニーズを把握した上で、講座を振り返り、改善点を探り、今後の取組に活かすようにしている。講座の様子は随時HPで紹介し、**参加者ばかりでなくHPを見た方から感想が寄せられる**こともあり、講座企画の反映材料となっている。令和元年度開催の講座「おしゃべり会」では、「**都祁の未来を担う子どもたちを大切にしたい運営を期待したい。**」との声があった。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

これまで、地域の豊かな自然や歴史遺産、地域の人材の活用を意識した「**おらがまちの公民館（人が集い、楽しみ、つながりあう公民館）**」づくりを目標にしてきた。令和元年度より中学校区の地域教育協議会に加入し、新たに「自主グループ代表者会」を結成した。今後、「**自主グループ連絡協議会**」への移行を図っていくことで、「おらがまちの公民館」づくりへつながるよう進める。

都祁公民館	公民館の目標と年次計画	令和4年度
5年後の目標	つながる・ひらがる・みのもーおらがまちの公民館	
令和4年度	おらがまちの公民館（人が集い、楽しみ、つながりあう）	
2022年度	5年目標「公民館」づくりの実現。	
令和3年度	公民館の目標と年次計画	

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

人が集い、楽しみ、つながりあう公民館の具現化につなげていきたい。そのためにも、公民館主導の「自主グループ代表者会」から、利用者主体の「自主グループ連絡協議会」へと組織改革し、**主体的な活動を活性化**させることで成長・発展させていきたい。



プチ田舎暮らし 野菜作り



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

太地町は古式捕鯨の発祥地として、江戸時代から現在まで400年以上捕鯨が行われている。住民の大多数が捕鯨関係の仕事に従事し、町は発展してきた。現在は、鯨を中心とした観光に力を入れ町の活性化に努めている。平成18年に「太地町くじらと自然公園のまちづくり構想」を発表し、「過去・現在・未来くじらに関わり続ける町」、「住民が公園の中に住んでいるような町」、「健康であり続けたいと願う行動する町」、「子どもたちを学校と地域が一体となって育てる町」の4本柱を立て、まちづくりを進めている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【太地の歴史に関する講座（地域資源を活用したまちづくり）】

「古式捕鯨絵図から学ぶこと」、「鯨遺産として残される鯨の墓」など、鯨文化に関する講座や、戦国時代の太地や町の水産業の発展など幅広く太地の歴史について学べる講座を開設している。また、太地町は移民の町でもある。「太地の移民史～在米太地人会100周年～」など、移民をテーマにした講座も企画している。講師は、町歴史資料室の学芸員・研究員、町文化財保護審議会委員などが担当している。

【博物館・美術館と連携した講座（地域資源を活用したまちづくり）】

太地町は、人口3,000人未満の小さな町ながら、博物館（くじらの博物館）と美術館（石垣記念館）を備えている。この強みを生かし、公民館へ博物館学芸員を講師に迎え、博物館の働きについて学べる講座を開設している。学芸員にとっても、町民に博物館の活動を知ってもらう機会になっている。美術館では、太地で生まれ育ち、移民としてアメリカで活躍した画家、石垣栄太郎氏の作品を展示したり、同氏を題材にした講座も行ったりしている。町内の社会教育施設間で、人と学びの循環が起こっている。

【「在米太地人系クラブ」「関東太地会」「関西太地会」の存在】

太地町出身者の同郷組織の事務局を公民館が担当している。アメリカに「在米太地人系クラブ」があり、ふるさと太地との交流を行っている。公民館報「鯨波」に、「関東・関西太地会だより」のコーナーを設け、県外に住む太地町出身者の近況を紹介している。



美術館での講座



学芸員による講座

3. 取組による成果や効果

- ・講座を通して、町民の多くが太地町の素晴らしさを語れるようになってきている。一方的な座学だけでなく、フィールドワークやワークショップ、ディスカッションも取り入れることで、参加者同士の学びや交流が深まっている。結果として、他の講座への参加者が増加するという効果も出てきた。
- ・町内の博物館、美術館と互いに連携することにより、学芸員が活躍できるフィールドが広がっている。また、町民にとっては、学芸員という職業が身近な存在になっている。



フィールドワーク

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・すべての講座において参加者からアンケートをとり、次回以降の改善に生かしている。
- ・公民館運営審議会は年3回、公民館主事は月1回実施し、事業の検証や改善を行っている。
- ・公民館報「鯨波」に講座内容を掲載している。担当者が記録化することで、講座の企画や運営を振り返る機会になっている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- ・気軽に講座に参加できるよう、太地近隣に在住している方を中心に講師をお願いしている。
- ・公民館報「鯨波」を2か月に1回発行することを継続している。館報を各家庭等に届け続けることで、太地町民、太地町出身者のつながりを大切にしている。



太地会

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- ・太地町は、福祉の町づくりも目指している。年を重ねても生き生きと過ごせる町づくりを目標に、公民館を高齢者の集える場所にしていきたい。
- ・4本柱の一つ「子どもたちを学校と地域が一体となって育てる町」を大切に、太地の町を知り、誇れる子どもを育成できるように、引き続き学校や地域と共に取り組んでいきたい。



若者と小学生による鯨踊



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

少子高齢化、人口減少が進む大山町において、人と人とのつながりの希薄化が進み、地域の活力が低下している状況が深刻化している。高齢者に対しては、人生100年時代と言われる昨今、老々介護や独居高齢者の問題が進行しており、いつまでも大山町で健康で心豊かに幸せに暮らせる環境づくり（場の開催と運営者の育成）が求められている。また、子どもたちにとっては、子どもの少なさによる地域における子ども会活動の減少、いろいろな大人に触れ合う機会や様々な分野における体験・経験不足が子どもの自立や自己肯定感の認識に影響を及ぼしている現状がある。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

① 高齢者学級

高齢者を対象に、コロナ禍においてもできる範囲で交流をしたり関係性のつながりをつくらせたりするきっかけづくり、生きる力や生きがいを見つけ、人生100年時代の日々の生活を張りのある幸せな人生につなげていただく。月に1回、年8回程度の開催。事業構成は、午前中講座を聞き、午後には体を使った活動を行い、ボイストレーニングなど、健康寿命の延伸にもいい影響を与える運動を取り入れる。住民の学習ニーズをに応じた情報収集と実施につなげることで住民に飽きさせない、継続的な取り組みとなるよう工夫している。職員や住民を含めた運営側もファシリテーション技術など現場での体験を通し、知識と技能向上できる体制としながら、民間団体との協力体制も促進し、持続可能な環境づくりを目指している。

② セカンドホーム（通学合宿）

小学校4～6年生を対象に、地域の大人たちとの触れ合いや様々な野外体験、人間関係形成の経験を積ませるため、非日常である放課後の生活を共に過ごすことで子どもたち個々の成長につなげる。学校期間中の1週間の期間実施。子どもたちは、学校終了後、大山青年の家に向かい、夕方から朝まで合宿を行う。学年が混合のグループで洗濯や夕食づくりなど日々の生活に必要な活動のほか、野外炊飯体験、植物観察会、カヌー体験など、外で体を使い、友達と協力して取り組みを成し遂げるきっかけを与える。また、小学校や地域団体、住民ボランティアとの連携から、学校では学べないような地域独自の特色を生かした多様な学習や主体性を伸ばす指導なども展開している。



ボイストレーニングの様子



野外炊飯体験の様子

3. 取組による成果や効果

① 参加される方は、熱意をもって参加いただき、元気に過ごされている。やりがいや新しい学びに喜びを感じ、継続参加の好循環を生んでいる。また、参加者は、お住まいの集落への学びの共有やコロナの影響による引きこもりの方へのアプローチなど副次的な連携ができています。今後は、ニーズを感じているスマホ講座やオンラインの取り組みなど、幅広い参加が促せる環境づくりに取り組んでいくため、高校生・大学生を講師に招いての世代間交流やデジタル基盤整備の入り口としての取り組みも進める。

② 集団生活や学年混合のグループが子どもの自主性と自己肯定感を養い、社会性を身につけるいいきっかけとなっている。上級生がいい目標となり、継続的な参加と子どもたちの成長に寄与する事業である。今後は、運営側の連携体制に中・高・大学生との接点を持たせ、主体的に地域活動に関わり学んだことが生かせるような、それぞれの強みを生かした学びあえる環境づくりを目指していきたい。



グループワークの様子

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

大山町の社会教育実績と社会教育計画を毎年度作成し、公民館運営審議会（委員15名）にて実績の評価検証とそれに付随した計画の策定を行っている。年度当初（5月）には、評価と計画内容の確認。年度中途（10月）には、取り組み状況の確認と次年度事業のアイデア出しを実施。年度末（3月）には、実績の内容確認と次年度事業の確認を行い毎年の事業の発展につなげている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

① 公民館活動で、地域自主組織等との連携により、各地域の資源や特色を活かした学習機会の提供や事業に取り組む。② 講座・学級などについて学習内容の充実を図るとともに、若年層の来館利用につながる学習機会の提供に取り組む。③ サークル活動の活性化を図るとともに新サークル立ち上げ支援に取り組む。



地域資源を学びます

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

公民館の老朽化が進み、ハード整備の必要性が迫っている。住民の声をしっかり聞き、地域課題の解決に向けたソフト事業の充実に合わせて、事業が十分に行える環境整備を整える。また、様々な分野（福祉・防災・子育て等）の行政施策に付随し、多世代が集える住民活動の拠点として活用いただける施設を目指す。



大山公民館と桜

若者の発想を取り入れた新しいまちづくり

鳥取市立美保南地区公民館



夏休みサマースクール

公民館の沿革・年表

- ・昭和62年 美保地区から分離、美保南地区公民館開設
- ・平成 4年 美保南地区公民館竣工
- ・平成17年 子育てサロン（乳幼児の親子対象）開設
- ・平成20年 美保南まちづくり協議会設立
- ・平成29年 市立美保南小学校学校運営協議会に参画
- ・令和 2年 公民館における若者まちづくり事業の開始
（夏休みサマースクールの開催）

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 夏休みサマースクール(体験学習)
公民館とまちづくり協議会による協働事業で、小学校で実施。若者たち(大学生)が企画・運営し、公民館・地域・学校がサポートしている。5日間の日程で、1時間勉強の後2時間程度遊びやゲームなどを楽しむもので、54名が参加した。写真はゲーム（フルーツバスケット）を楽しんでいる様子。
- 地域イベント『子どもお菓子教室』（公民館事業）
ホワイトデーに向け、大学生が考案したレシピでお菓子づくり。9名の子どもたちが参加。講師の大学生とも打ち解けて楽しそうにお菓子作りをしている様子。



子どもお菓子教室

1. 都道府県名	鳥取県	3. 公民館対象人口	7842人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	鳥取市	4. 建物設置年月日	平成4年3月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	100台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (○○地区まちづくり協議会) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (市長部局補助執行による)				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 4318人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 8881人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 461人 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()			合計	13,660人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 4人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人)			合計	4人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (多世代間交流、特色ある公民館活動、食事サービス)				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 () <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (ロビーに冷温水機を備えることで、コーヒーやお茶を飲みながら談話できる憩いの場として提供している。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (のぞみ保育園、鳥取市立美保南小学校、鳥取市立南中学校、公立鳥取環境大学、美保南まちづくり協議会、美保南地区社会福祉協議会、美保南民生・児童委員会、株式会社メモワールイナバ ほか)				

鳥取市美保南地区公民館

OPEN 9:00~22:00 H P <http://chiiki.city.tottori.jp/minami-1/>
TEL 0857-53-4798 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

夏休みや冬休みの間、勉強をしに公民館へ子どもたちがやって来るが、ほとんどの時間がただなんとなく遊んでいる状態であったことから、子どもたちの勉強と一緒に遊んだりすることができる若者たち(中学生～大学生)を探していた。

子どもを育むまちづくりを進めている中、当公民館が参画している小学校のCSが先生に行ったアンケートで、「勉強を地域の方に見てもらう機会を作ってもらえないか」などの意見があったことから、若い世代の発想を取り入れた新しいまちづくりを進めていきたいと考えていた。

このため、市の「公民館における若者のまちづくり事業」を活用し、若者の新しい発想を取り入れたまちづくりに取り組むこととした。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【夏休みサマースクール（若者のまちづくり参画）】 上記課題から、夏休みの宿題と併せて体験してもらうことで子どもたちに創造力・人間力を養ってもらおうと、令和2年度から開校した。学校との連携を考慮して小学校の多目的ホールを利用している。実施にあたっては、方向がぶれないよう基本方針を示し、若者の柔軟で斬新な発想を活かすため、「若者まちづくり事業」に応募した4名の鳥取環境大学生に企画・運営を担ってもらい、公民館は子どもや地域ボランティアの募集などを担当。また、学校・関係者にプレゼンし情報を共有することで、先生による学習のサポートを得ることができた。参加した子どもたちからは、「楽しかった。来年もやってほしい。」と好評であった。令和3年度は大学生を6名に増員し、地域の中・高生10人も加わって協議を重ねながら企画を練ってきたが、直前の新型コロナウイルスの感染拡大によりサマースクールは中止した。しかしながら、楽しみにしていた子どもたちのため、サマースクールの一環として企画していた「夏休み工作教室」、「星を観る会」を単独で実施。「工作教室」は、竹灯籠の材料の調達・準備を地域のボランティアが担当、製作指導には学生が担当し、地域住民と学生が連携した取組を行った。「星を観る会」は、募集チラシの作成を中学生に、天体の映写・観察・機材調達等の運営は星の専門である鳥取環境大学天文部の学生が担当するなど若者同士が連携した取組を行った。

【地域イベント等（取組全体）】 サマースクールを機に、学生とのつながりが強まり、公民館事業(男の料理教室・子どもお菓子教室)や地域のイベント(子ども祭り・文化祭など)においても、若者が講師やスタッフとして積極的に運営に参画している。



サマースクール(アイロンビーズ)



男の料理教室

3. 取組による成果や効果

- 学生の豊かな発想や奇抜なアイデアを取り入れたことで子どもたちにより楽しんでもらえる内容となり、イベントへの子どもたちの参加者が多くなった。
- 学生・地域・保護者・先生との連帯感が生まれ、つながりが強くなった。特に学生とのつながりが強まり、いろいろな面で協力が得られる。⇒ 新しい取組へと展開。
- 地域の中・高生がサマースクールに参画して大人と一緒に子どもをサポートすることが、将来のまちづくりの担い手育成につながる。
- 若者と交流することで、若者の新しい発想・考え方などに地域住民が刺激を受け、地域の魅力の創造や活性化につながっている。



公民館改善に向けた協力

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

サマースクール実施後に、参加した学生やボランティアで反省会を開催し、担当ごとの振り返りや改善点等について意見交換を行い、次回に向けた検証・改善を行っている。それには、令和元年にまちづくり協議会が地域住民を対象に行ったアンケートの中で、「公民館が行っている生涯学習や文化活動・行事について"参加したいものがない"・"関心がない"」との回答が多かったことから、サマースクールに参加した学生と魅力ある公民館事業に向けた意見交換を行い、学生から出た意見・アイデアなどを今後の公民館運営に活かしていくこととしている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

地域住民の方たちが気軽に寄ることができ、公民館を訪れた方たちが「楽しかった」、「また来たい」と思ってもらえるよう「つながり」を大切にしている公民館でありたい。そのため、公民館ロビーの一角に教養講座等の作品を展示したり、冷温水が出るウォーターサーバーを設置し、訪れた方たちが冷たいお水や温かいお茶やコーヒーを飲みながらくつろいでいただけるようギャラリーを兼ねた休憩室を整備するなど工夫を凝らしている。



コーヒーを飲みながら談話

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- 公民館に求められる講座や学習内容が高度化・多様化している中において、公民館職員だけでは対応が困難な場合も出ており、今後は、専門的な技術・知識を有した会社やNPO法人等の発想を取り入れるなど、民間企業やNPO法人等との協働による公民館運営にも積極的に取り組んでいきたい。
- サマースクールを「子どもの居場所」として、定期的に開設できるよう検討していきたい。



企業が行うスマホ教室



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

○公民館事業の参加者と来館者の固定化や事業ターゲットの固定化（通常の開館時間が平日の8：30～17：15であり、高齢者が小学生の放課後で行う事業が多くなる）していたことにより、若者や子育て世代の意見を聞く機会が少ないという背景があった。したがって、若者、子育て世代（特に女性＝結婚を機に移住してくる方が多く、地区に知り合いや友人が少ないと思ったため）をターゲットにした【大人のアフターセブン教室】を開催している。

○地区内にある平成10年から続く産直市「雲井の里」が高齢化等により、運営等に変化がなく、新しい挑戦等が難しくなっている話があった。同時期に石見東小学校6年生から総合学習の時間で地域の魅力を発信したいという要望があったので、令和2年から両者をつないだ事業を開催している【魅力発信！雲井の里】

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【大人のアフターセブン教室】

若者、子育て世代に来てもらうため、日中ではなく、19：00以降から始まる教室を開催。公民館区以外の参加も認め、同世代の交流の場にしてもらうため行っている。また、子育て世代に参加してもらえるよう子連れ参加も認めている。毎回アンケートを実施し、次回の内容を参加者で決めていくかたちで行っている。アンケート内容に地域や公民館についての要望等の設問も設けており、次回内容以外のニーズ把握も行っている。第1回目のアンケートでは、教室の開催日時のニーズ把握を行い、開催日時が月1回程度で金曜の19時30分から開催することになった。令和3年度はコロナの影響もあり、6回（ヨガ、バランスボール運動、お皿の絵付け等）の開催となってしまったが、子どもの参加も含め、各回約20名の参加がある。公民館区以外の参加を認めていることにより、情報交換や交流の場となっている。第2回以降は男性の参加も増えてきている。

【魅力発信！雲井の里】

雲井の里の現地視察→役員との意見交換→役員等へのプレゼン発表（3グループに分かれて）→作成→贈呈式というスケジュールで行い、令和2年度はPOPとBGMづくり、令和3年度は看板づくりを行い、雲井の里に贈呈を行った。工夫した点は、6年生が自分たちができること、やりたいことを実施するという点と、単年度でなくなるものではなく、長期的に残り続けるものを作成し、雲井の里に使用してもらうようにした点である。長期的に残り続けるものを作成することにより、子どもたちが中学生、高校生になっても自分達で作ったものが見え、いつまでも気にかけてもらえるようにしたいと思っている。



大人のアフターセブン教室



魅力発信！雲井の里 プレゼン発

3. 取組による成果や効果

【大人のアフターセブン教室】

- 今まで来館されなかった層が来館するよう
- 3回目以降は自走するため参加者数数が運営に参加
- 自主サークルを立ち上げた参加者もあった
- 町内の方を講師にすることを意識したことにより、町内のこと（人、お店など）を改めて知る機会に

【魅力発信！雲井の里】

- 6年生や卒業生が雲井の里に保護者等と一緒に成果物を見に行くように
- 外観が華やかに
- プレゼン発表で採用されなかった「ゆるキャラづくり」を雲井の里独自で動いている



魅力発信！雲井の里 完成品贈呈式

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 学校教育・社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う人、学識者等12名で構成する公民館運営審議会を年間1回開催。
- 地区出身の町議会議員や各自治会長、各種団体の会長等14名が委員である公民館活動推進協議会を年4回開催している
- 活動の振り返りの中で課題や改善点等について話し合い、多様な意見をふまえながら改善を行い、公民館運営を行っている。
- 【大人のアフターセブン教室】では、毎回、アンケート調査を行い、検証・改善を図っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- 関わる人はもちろん、自身もわくわくするような楽しいことを主に考え、事業実施
- 時代、地域ニーズに合うことを実施するため常にアンテナを立てておく
- 他館はもちろん様々な団体等と連携して取り組む（負担を分散並びに多様な考え、価値を知るため）
- 各メディアに事業等の情報を伝え、地区で様々な取り組みが行われていることを知ってもらい、新たな関係者づくりや地区に誇りに持ってもらう



デジタルデバイト問題から始めた地域の若者から教わるスマホ・SNS講座

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

人口減少、少子高齢化による後継者不足や耕作放棄地の拡大等、課題は多くあり、ストレートに取り組みを行っていくことも大事だと思うが、井原公民館としてはまずは、この地区に住んでいる人達や関わってくれる人達が「住んでいて、関わっていて楽しい」ということを多く作ってきたい。そこから、楽しく住み続ける、関わり続けるにはどうするか等を主体的に考えるような仕掛けができるようにしていきたいと思っている。



島根大学との共同研究事業「井原地区の未来を考える会」

合言葉は「オール鹿島」！ 公民館からひとつづくり・地域づくりへ

松江市鹿島公民館



子ども佐陀神能教室成果発表会



川から海へ大航海in鹿島

公民館の沿革・年表

- 平成28年 鹿島複合施設竣工・鹿島公民館開設
かしまバンビクラブ(乳幼児学級) 開講
第1回鹿島町民文化祭 開催
第1回ふるさと鹿島再発見 開催
- 平成29年 地区社会福祉協議会事務局が公民館移行
- 平成30年 寺子屋かしま(夏休みの学習支援) 開講
- 令和元年 子ども佐陀神能教室 開講
- 令和2年 なごやかおとこ塾(男性の仲間づくり) 開講
- 令和3年 島根県優良公民館表彰受賞

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

- 「子ども佐陀神能教室 成果発表会」
青少年の健全育成、伝統文化の継承を目的に「ユネスコ無形文化遺産・国指定重要無形文化財 佐陀神能」の子ども教室を実施している。鹿島町内外から20名の小中学生が参加して練習に励んでいる。
- 「川から海へ大航海in鹿島」
町内3小学校の児童と保護者を対象にふるさとの郷土学習や川・海に親しむ自然体験活動として、佐陀川から日本海へ手作りいかだで航海するイベント。

1. 都道府県名	島根県	3. 公民館対象人口	6006人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	松江市	4. 建物設置年月日	平成28年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (松江市鹿島公民館運営協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1065人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 3450人 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 4418人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 124人	合計	9,057人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 3人)	<input type="checkbox"/> 兼任 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 (職員のうち社会教育士の数 0人)	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 合計 4人	
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (環境学習、人権教育、歴史学習)	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (松江市役所鹿島支所、松江市社会福祉協議会松北地域包括支援センター) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他	佐太幼稚園、講武幼稚園、恵曇保育所、御津保育所、恵曇小学校、佐太小学校、鹿島東小学校、鹿島中学校、松江市役所鹿島支所、鹿島歴史民俗資料館、松江市社会福祉協議会、鹿島自治連合会、鹿島地区民生児童委員協議会、佐陀神能保存会、中国電力株式会社 ほか

松江市鹿島公民館

OPEN 09:00~22:00
TEL 0852-55-5716

H P <https://matsue-city-kouminkan.jp/kasima/>
SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

「平成の大合併」により松江市と鹿島町が合併し、鹿島町内の恵曇・佐太・講武・御津の4地区の公民館が廃止され、新たに鹿島複合施設内に公設自主運営方式の鹿島公民館が誕生した。4地区それぞれが自立した異なる文化と生活環境を持つため、これまでは町全体で住民が集い、団結してものごとに取り組む習慣が育ちにくいのが大きな課題であったが、鹿島公民館の誕生により、「オール鹿島」を合言葉に4地区の融和が進み、地域一体となった社会教育やまちづくりの取り組みが進んでいる。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【「オール鹿島」の人づくり・地域づくり(地域の特色を生かした多様な学習)】

上記1の地域性を踏まえ、公民館が地域の一体感を創り上げるために以下の点を心掛けながら事業を展開している。

- ・4地区すべての住民が取り組める活動の実施
- ・地域それぞれが持つ個性や文化を地域全体で理解し、尊重する仕組みづくり

【特長的な活動①「寺子屋かしま・夏休み子ども教室」(住民の学習需要に基づく学習)】

町内3小学校児童を対象に、夏休み期間の学習習慣の定着や体験活動の提供を目的に実施

【特長的な活動②「川から海へ大航海in鹿島」(子どもの体験活動の充実)】

町内の小学4年生と保護者全員を対象に、手作りいかだで日本海を目指して航海する

【特長的な活動③子ども佐陀神能教室」(伝統文化継承活動)】

「ユネスコ無形文化遺産・国指定重要無形文化財 佐陀神能」の子ども教室を実施

【特長的な活動④「ふるさと鹿島再発見」(地域の特色を生かした多様な学習)】

鹿島町4地区を舞台にそれぞれの地域の歴史・文化・産業等を学ぶワークショップを開催

【特長的な活動⑤「鹿島町民文化祭」(地域の特色を生かした多様な学習)】

これまで4地区別々に開催されていた文化祭を一本化し、地域住民・子どもたちの学習成果の発表、新たな交流の場として発展



寺子屋かしま



夏休み子ども教室「あんどんづくり」

3. 取組による成果や効果

①町内3つの小学校の児童を対象に実施することで、**学校を超えた子どもたちの交流が生まれた。**

子どもの学習支援への保護者の関心も高く、令和元年度は**延べ1400名の参加があった。**

②社会貢献活動の一環として地域の企業とも連携し、いかだの製作や運搬、運営スタッフとして関わっていただくことで**ボランティア活動の受け皿としても大きな役割を果たしている。**

③子どもたちにとって身近な地域の伝統文化の継承活動を通して、**子どもたちがより地域に誇りを持つきっかけになるとともに、地域の伝統文化の担い手の長期的な育成に向けて手ごたえを感じている。**

④地域のヒト・モノ・コトにスポットを当て、**地域理解の促進や独自の魅力発信に繋がっている。**

⑤100人近くの実行委員が集まり、地域住民・子どもたちの学習成果の発表の場だけでなく**新たな交流の場として地域の一大イベントとして発展した。**

上記取り組みなどにより、**開館1年目は5千人程度だった利用者が令和元年度には2万人近くまで増加した。**



鹿島町民文化祭実行委員会

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

・地域諸団体の代表者24名からなる運営協議会を年3回開催している。

・**年間基本方針に基づいて活動を実施し、活動ごとに振り返りを定期的に行い、検証や改善を重ねている。**

・運営協議会正副会長に各地区自治会の代表に就任していただき、地域課題に即した運営ができるよう定期的に情報交換を行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

過疎化による人口減少問題を解決するため、**ふるさとに愛着を持ち、鹿島町に根差し、地域のために活動できる人材育成**を目的に子どもや保護者を対象にした活動を重点的に取り組んでいる。

同一複合施設内にある鹿島支所や包括支援センターをはじめ、**地域諸団体と連携し**、定期的にまちづくりについて議論しながら活動を進めている。



鹿島町内各種団体との意見交換

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

鹿島公民館立ち上げから6年が経過し、4地区の融和は一定の成果があると手ごたえを感じている。今後も公民館が地域の中核として様々な団体と連携し、ひとづくり・まちづくりに貢献していきたい。

コロナ禍においても学びや活動を止めず、リモートを活用した研修会の実施など新たな取り組みを導入しながらひとづくり・まちづくりを進めていきたい。



鹿島公民館運営協議会総会

共に学び 共に考え まち全体でSDGsの実現を！

岡山市立京山公民館

春の「環境てんけん」



「ESD・SDGsフェスティバル」での中学生による活動発表



公民館の沿革・年表

- ・平成 6年 京山公民館開館
- ・平成15年 「環境てんけん」活動始まる
- ・平成17年 第1回「ESDフェスティバル」開催
- ・平成18年 公民館が事務局となり、「京山地区ESD推進協議会」設立
- ・平成26年 岡山市で開催された「ESD推進のための公民館-CLC国際会議」の分科会会場となる
- ・令和 2年 「つしまみんな食堂」、「SDGs・健康ウォークラリー」開始

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 「環境てんけん」の模様
平成15年以来、継続して、多くの子どもや大人、ボランティアが参加して、地域の用水の水質や植物などの調査を実施しており、野生生物の生息環境を保全する活動に発展している。
- 「ESD・SDGsフェスティバル」の模様
市長、教育長等も参加し、地域の小中高校生をはじめ、大学生、様々な団体や企業等が参加し、それぞれの学習成果や活動の発表、持続可能な地域づくり等をテーマとして、意見交換や提案などを行っている。

1. 都道府県名	岡山県	3. 公民館対象人口	24141人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	岡山市	4. 建物設置年月日	平成6年6月24日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	10台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 16212人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 6441人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 38006人 (併設している伊島図書館利用者、公民館図書利用者)				合計 60,659人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 5人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 2人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 6人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (SDGs、共生のまちづくり)				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 () <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (木造建築で外観、内装ともに木が多く使われており温かみのある雰囲気)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (伊島認定子ども園、伊島小学校、津島小学校、京山中学校、岡山工業高等学校、鳥城高等学校、明誠学院高等学校、岡山大学、岡山商科大学、ノートルダム清心女子大学、池田動物園、ファジアーノ岡山、中国銀行津島支店、藤クリン株式会社、岡山ESD推進協議会、社会福祉法人報恩積善会、津島生活学校、伊島・津島学区連合町内会、伊島・津島学区愛育委員会、伊島学区老人クラブ、伊島・津島交通安全対策協議会、伊島・津島学区交通安全母の会、チューリップの会 (子どもの社会参加を考える会in京山)、関係行政機関)				

岡山市立京山公民館

OPEN 9:30-21:00 日曜9:30-17:00

TEL 086-253-8302

H P

SNS

<https://www.city.okayama.jp/shisei/0000011028.html>

<https://www.facebook.com/岡山市立京山公民館-702340966544006/>





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

当該地域は、大学と高等学校各3校をはじめ、オフィスビル、商業施設等が多数立地していることから、通勤・通学等による昼間人口や流動人口が多い一方で、居住者の高齢化率が高まっており、**地域環境を維持する担い手の確保、地域コミュニティの継続、伝統文化の継承が課題**となっていた。また、市内でも在留外国人が多く、**多文化共生が課題**となるとともに、国際的な課題への関心が高い傾向があった。そうした中、平成17年に「国連ESDの10年」が始まり、岡山地域が国連大学から世界で最初の「ESDの地域拠点」(RCE)に認定されたこと等が契機となり、地域内でのESDについての関心が高まっていた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【持続可能な地域づくり・人づくり(取組全体)】

公民館を拠点に、地域の38組織(コミュニティ組織、大学、市民団体、公的機関、企業等)及び個人で構成する「京山地区ESD・SDGs推進協議会(以下、「協議会」という)」を中心に、**多様な人がつながり協働していく運営を基本として**、持続可能な地域づくりに取り組んでいる。

- 「環境てんけん」活動…小学生から社会人までが一緒に、春と秋に地域環境を調査し、環境の変化を記録している。
- ESD・SDGsフェスティバル…平成17年度から毎年、協議会に参加する各組織等が一堂に会し、それぞれが行っている活動の成果や課題について学び合い、話し合っている。
- 多文化共生プロジェクト「フレンドリー京山」…地域に在住する外国人とともに企画し、外国人のためのお医者さんマップの作成や料理を通じた文化交流・理解、日本の伝統文化の紹介、互いの風習の違いを学び合う取組を行っている。
- つまみみんな食堂…孤立しがちな高齢者や子育て世代等に「食」を通じた交流の場を提供するとともに、不要となった生活用品や学校用品、食品等を持ち寄り、必要とする人に提供する活動を行っている。
- SDGs・健康ウォークラリー…地域の自然や歴史的建造物、SDGsに取り組む事業所等を巡るウォークラリーを大学生が企画・運営して開催している。



観音寺用水での



外国人と地域住民との交流行事

3. 取組による成果や効果

- 「環境てんけん」活動に参加していた中学生からの提案をもとに、住環境が悪化していた観音寺用水沿いが、官学民の連携により、地域の憩いの場(緑と水の道)として整備された。希少淡水魚の生息が確認されたこともあり、**地域全体で野生生物の生息環境を保全する活動に発展**している。(令和元年、岡山市「身近な生きものの里」に認定)
- 活動分野が、当初の環境や国際理解に加えて、少子高齢化、消費者教育、安全・安心なまちづくり、防災等、幅広くなり、**「自分ごと」として学び行動する人**が増加した。
- 従来、公民館とは縁の薄かった人・組織(児童・生徒、若者、子育て世代、企業等)の参加が増加した。高校生・大学生のボランティア参加数：令和2年度は約260人、令和3年度は約600人、ESD・SDGsフェスティバルの中で集まった若者からの意見数：令和2年度は48、令和3年度は109。活動を継続することで、世代間交流がすすみ、活動開始当初、小学生だった子どもが大人となり、再び公民館活動に参加する好循環が生まれている。



多世代で意見を出し合う「ESD・SDGsフェスティバル」のワークショップ

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ESD・SDGsフェスティバルや協議会で、成果と課題が共有されるとともに、新たな活動が提案され、活動が見直されている。
- 公民館全体の運営について協議する公民館運営協議会で、出された意見や議論をもとに事業を見直し、翌年度の事業や中期的な事業計画の策定に活かしている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

多様な人・組織が集い、学び合うことによる**参加者の主体的な取組を大切にしている**。また、**子どもや若者からの意見・提案等には極力応えて、新たな事業化に取り組むよう留意している**。

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

コロナ禍のため、従来の活動が大きく制限されることとなった一方で、孤立しがちな高齢者や子育て世代等に、「食」を通じた交流の場、日用品・食品を届け合う場、若者の社会参加の場としての公民館の役割を再認識した。**SDGsをテーマとして企業とも連携して開催した健康ウォークラリーや交流会等は今後の新たな公民館活動の方向性の一つと考えている**。岡山市は、全ての市民が生涯を通じて学ぶことによりSDGsの実現をめざす「ユネスコ学習都市」のネットワークに加盟している。京山公民館としてこの理念の実現をめざして、地域の様々な人・組織と協働して取り組んでいきたいと考えている。

学びを止めないポジティブ公民館

矢掛町矢掛公民館



夏休み学習会～水辺の教室～



高齢者とスマホを囲んで交流会

公民館の沿革・年表

- ・昭和45年 矢掛町公民館設置条例施行
「矢掛町公民館矢掛分館」(矢掛小講室内)
- ・昭和49年 7専門部を設置
- ・昭和55年 「矢掛町矢掛公民館」に名称変更
公民館主催の最初の盆踊り大会開催
- ・昭和60年 現在の矢掛会館内に事務所移転
- ・平成16年 専門部を7部門から5部門に再編
- ・平成18年～ 公民館祭を2日間にわたって開催 世代交流活動
- ・平成24年 夏休み学習会等の開始(地域学校協働活動)
- ・令和3年 矢掛公民館40年のあゆみ 発行

左図・写真の説明等など(PRポイントなども可)

・令和3年3月「矢掛公民館40年のあゆみ」発行 発行にあたり、約1年半かけて、各専門部員の代表等が編集委員となり、資料写真収集・原稿作成・対談・編集校正をした。また、令和2年には「なつかしの写真と資料展」を行った。
 ←令和3年7月に開催した地域学校協働本部事業「夏休み学習会～水辺の教室～」の様。1年～3年生児童・保護者35人と地域ボランティアが参加。小田川の清流にアユを放ち、アユのつかみ取りを実施。小田川の生き物やアユについて、子ども達が体験を通じて学んだ。
 ← 高齢者とスマホを囲んで交流会(詳細は様式3-2)

1. 都道府県名	岡山県	3. 公民館対象人口	3400人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	矢掛町	4. 建物設置年月日		6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 300人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 4500人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 300人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 315人 (運営会議等) 合計 5,415人				
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 1人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 3人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 4人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input checked="" type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (矢掛公民館運営委員会)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (適応指導教室 ひまわりの家) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等(団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 地区社会福祉協議会 自治協議会				

矢掛町矢掛公民館

OPEN 8:30～17:00 (貸館22:00) H P <http://www.town.yakage.lg.jp/kouminkan/yakage/>
 TEL 0866-83-3576 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

高齢化が進む矢掛町は、町内のICT化が進む一方で、デジタルデバイト解消が大きな課題となっている。町の防災情報やイベント情報は、SNSによるものが進んでおり、高齢者にいち早く情報を伝達することも課題となっている。そのような中、「スマホは持っているが使い方が分からない。」「スマホにしてみたいがどうしたらいいか分からない。」等のシニアの声を聴くことが多い状況である。

さらに、もう一つの課題として、コロナ禍における公民館祭の実施の仕方である。学びを止めないことをモットーに、各団体の舞台（活動）発表の場をいかにして設けるかがネックとなっていた。上記を解決するため、専門部等で話し合い、次の取組を行った。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【高齢者とスマホを囲んで交流会】（デジタルデバイト解消に向けて）

上記の課題解決のため、まず、公民館職員が、県生涯学習センターの「社会教育実践専門講座」を受講し、ICTを活用した事業づくりを学ぶところからスタートした。その中で、70歳以上の高齢者を対象とした「高齢者とスマホを囲んで交流会」を実施。講師は、業者ではなく、公民館の教養文化部員（地域の人）が隣に座り、「かゆいところに手が届く方式」で、できた喜びを共有し、高齢者が社会の変化に取り残されないよう、気軽にポジティブに向かう活動とした。

【学びを止めない持続可能な舞台（活動）発表】（ICTを活用した情報共有）

コロナ禍で公民館祭の舞台発表が令和2年度に続き困難であり、各文化団体は、日々の成果を発揮できる場所がない状況であった。そのため、各団体の発表を事前に撮影し、公民館祭当日に、来場者に見ていただけるよう、繰り返し上映することで発表に変える取組を行った。発表者にとっても、来場者にとっても有意義な時間となり、コロナ禍における文化祭の在り方を他の公民館にも提供する良い機会となった。

さらに、公民館における講演会等をYouTubeで配信する取組も始めている。



公民館祭で舞台発表上映

3. 取組による成果や効果

【各活動による成果・効果（「高齢者とスマホを囲んで交流会」）

- 高齢者が容易に操作できることに気づいたり、自分で操作ができるようになったりすることにより、満足感が高まり、中にはさらに学びたいという意欲や向上心が沸いた。
- 令和4年度には、第2弾3弾を行うこととしており、マイナンバーカードや納税等の諸手続きができるようになること、対話型の講師を高校生に依頼することで、世代間交流促進や、新たなつながりをつくることとしている。

【公民館の取組全体による成果】

- 地元矢掛高校との連携が進み始めている。高校生が地区について学ぶため公民館を来館したり、ボランティアに携わる等、今後ますます高校生と公民館とのタイアップが期待される。



公民館職員と矢掛生 大通寺にて地域を学ぶ

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 月に2回の職員会議、年2回の正副部長会、年3回の各部会を行い、公民館の現状や課題、活動ごとの振り返りや改善点を話し合い、PDCA及び持続可能を意識した公民館活動運営を行っている。
- 公民館長は、地区内の矢掛小学校運営協議会委員でもあり、地域学校協働活動についても情報交換しながら、夏休み・冬休み学習会等、協力体制をとっている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- 公民館単独では困難な大きな行事（盆踊り・体育祭）等については、自治協議会と地区社会福祉協議会の3者共催で行うこととしている。公民館を拠点に3者が連携をとり、つながりづくりを進めている。また、矢掛高校の地域コーディネーターと連携をとりながら、高校生の公民館活動参画を進めている。



公民館運営について協議

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- ICT化やデジタルデバイト解消に向けて、行事申込やアンケート集計には、QRコードを活用した業務改善を図ったり、講演会のYouTube配信を進めていく。
- 単なるデジタル化ではなく、地域の人達のやる気を大切にし、高校生等と世代交流を図りながら、変化する社会に高齢者を取り残さない仕組みを継続する。
- 50周年に向けて、地域の人の協力を得ながら、地域で子どもを育てることを大切にしていける。



40周年

「さいき部!」未来創造プロジェクト

～ 若者 × デジタル で 佐伯の未来を創る ! ～

廿日市市津田市民センター

公民館の沿革・年表

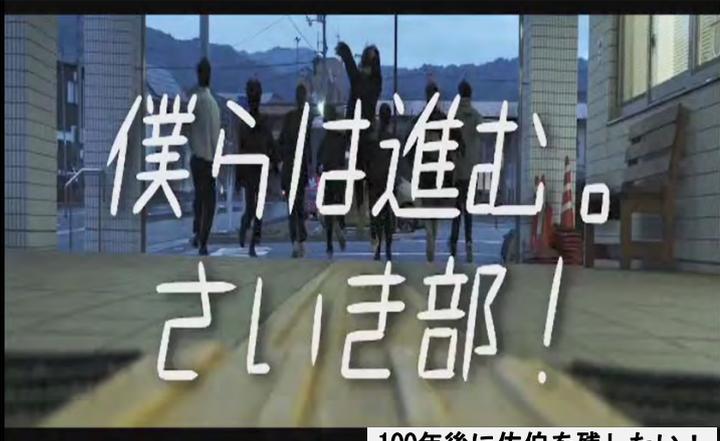
- ・昭和53年12月 旧佐伯町農村環境改善センター（町民ホール）完成
- ・平成15年 3月 佐伯町が廿日市市と合併
- ・平成19年 4月 さいき文化センター（津田市民センター）開館
- ・平成31年 1月 駐車場内に交通結節点を整備（中山間部のバス路線再編のため）
- ・令和 3年 4月 ネーミングライツパートナー契約により、「水と緑のまち さいき文化センター」の愛称使用開始

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 動画作成風景
若手の映像クリエイターのサポートのもと、初めてのデジタル動画撮影に挑戦。動画編集の技術等も学びながら、YoutubeやSNSで発信している。「やりたいこと」の実現に向けて、デジタルネイティブ世代の若者たちが楽しみながら学び、つながり、地域の未来の担い手として育ってきている。
- PR動画の一部
豊かな自然とともに「100年後にも佐伯を残したい」という若者たちの熱い思いを動画で発信。地域内外の人たちと価値観を共有し、多様なつながりを広げている。



PR動画作成 初めての撮影に挑戦中!



100年後に佐伯を残したい!

1. 都道府県名	広島県	3. 公民館対象人口	2556人	5. 来館者のインターネット接続環境	有線・無線の両方
2. 市区町村名	廿日市市	4. 建物設置年月日	平成19年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	5台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input checked="" type="checkbox"/> その他 (地域振興部に事務移管)				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1621人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 6452人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (図書館の利用者等)				合計 8,073人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 2人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 1人) 合計 3人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (市民センター企画運営委員会)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (環境保全, インターネットリテラシー, デジタルデバイドの解消)				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 (<input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (298人収容可能な多目的ホールがあります。) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (津田保育園、津田小学校、佐伯中学校、佐伯高校、NPO日本医療ソーシャルワーク研究会、社会福祉協議会佐伯事務所、津田・四和ふれあいまちづくりの会、津田・四和自主防災会、各町内会、連合女性会、津田女性会、老人クラブ連合会、津田長寿会、食生活改善推進協議会(津田地区)、佐伯公衆衛生推進協議会、青少年育成廿日市市民会議佐伯支部、佐伯支所、はつかいち市民さいき図書館ほか)				

廿日市市津田市民センター

OPEN 9:00~21:30

H P <https://www.city.hatsukaichi.hiroshima.jp/site/tsutasc/>

T E L 0829-72-0336

SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 人口減少が進む廿日市市佐伯地域（高齢化率：41.7%）に所在する津田市民センターでは、地域力向上や地元高校の存続・魅力化に住民と協働して積極的に取り組んできた。
- そうした中で、令和2年、センターの主催事業「動画作成講座」に、高校の部活動（総合科学部）の一環として参画していた**県立佐伯高校の生徒や若手クリエイターを中心メンバーとして津田市民センター事業「さいき部！」**が設立されることとなった。以降、コロナ禍で対面型事業の中止・制限が継続する中で、「佐伯を自分たちの力でなんとか元気にしたい！」という**若者たちの思いや主体的な取組を市民センターが伴走する**形で活動を広げている。「さいき部！」プロジェクトは、若者の力とICTを活用したまちづくり活動として、センターに「つどう」多くの住民が、お互いに「楽しみ」ながら「学び」、「つながり」、佐伯の未来を明るく元気にしていくことを目指し様々な主体と連携しながら展開する取組となっている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【「さいき部！」未来創造プロジェクト】若者×デジタルで佐伯の未来を創る！（主な取組）

- 人生100年時代講座「スマホ携帯電話知れば知るほど活用術」（高齢者支援）**
 - ・人生100年時代に向けて高齢者を対象に、**災害時のネット利用などの「デジタルデバйд」の解消**を目指し、コミュニケーションアプリLine等のスマートフォンの使い方を学ぶ講座を開催。「さいき部！」の**高校生たちはボランティアとして運営に参画**し、高齢者を支援した。コロナ禍での外出自粛など世代間の関わりが少なくなった地域の人たちと若者が交流し、地域活性化や絆づくりにもつながった。
- 青春応援企画！！「自分のやりたいことって？その見つけ方教えます！」（若者層の参画）**
 - ・中高生たちの「やりたいこと」を見つける講座を企画。「さいき部！」のデジタル活動をサポートする映像クリエイターの協力を得て、YouTubeのライブ配信機能を使い、今後の進路や仕事などのリアルな体験談を語り合うオンライン対談会（トークイベント）を開催した。この企画は自分たちの夢や「やりたいこと」を見つけ始めた中高生たちの活動が飛躍的に自分事としてステップアップする契機になった。
- 星空★科学ラボ「みんなで佐伯の星空を見よう！サイエンスを楽しもう！」（企業との連携）**
 - ・佐伯高校が総合光学機器メーカーの「天文部応援中！」事業に採択されたことをきっかけとし、企画に参画。高校生たちが星座や流星群について解説し、センターの屋上でスマートフォンやタブレットのアプリを用いながら天体観測するイベントを行った。また、ビスマス（金属元素）結晶を作る実験を実施し、小学生等の子供たちが楽しみながら結晶のアクセサリーを作成した。



人生100年時代講座
「スマホ活用術」で



「星空★科学ラボ」の実験

- 佐伯の魅力を発信するデジタル動画やTRPGの作成・配信（デジタル技術の活用）**

佐伯の魅力や「さいき部！」の活動を紹介する**動画の撮影・編集・配信**や、「佐伯探検」をテーマとし

た、会話をで物語を作り上げる「TRPG」（Table Talk Role-Playing Game）動画の作成・配信等、若者らしい最新のデジタル技術を活用した取組に挑戦し、Youtube配信等により、**広く世界へ向けて地域の魅力を発信**している。

【関連事業】「キャリアスタート！～カタリバミニ～」(キャリア教育・中学校連携)、「津田っ子カモン」(農業体験・交流)、「eboardゼミ」(タブレット貸出、学習支援)、「こどもがつくるまちもりうみ@つた」(子供まちづくり事業)、「教室開放」(子供の居場所づくり、学校連携)、「スマホ・PC相談室」(デジタル・デバйд解消支援(毎週金曜開催))ほか

3. 取組による成果や効果

- 「さいき部！」に参画する高校生たちが、実際に地域活動を企画・立案し、その運営を経験することにより、**地域の未来を自分事として考える**ようになった。さらに、事業に参加した中学生たちから、自分たちも「さいき部！」で活動をしたいという声が上がリ、事業への関わりが参加から参画へ発展するなどの好循環が生まれている。
- 事業に協力・協賛した関係団体から「次も一緒に活動したい」という声が上がったり、活動を知った団体から「こんなことを一緒にやれないか」という提案や依頼（例：地区の公衆衛生推進協議会からのごみカレンダーの協働作成依頼）があるなど、事業に関わる関係者の輪が広がっている。
- ソーシャルワークに取り組むNPOからの協働研究や活動助成の働きかけ等により、「スマホ携帯電話知れば知るほど活用術」講座等を実施し、**「地域福祉」や誰一人取り残さない「社会的包摂」の視点からの活動**の幅が広がる等の波及効果も見えてきた。



「やりたいこと」の実現に向けて真剣に語り合い中

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- センター職員（社会教育士）のコーディネートにより、活動後に、振り返り会を実施。参加者アンケートを分析して、成果と課題を整理し共有するほか、失敗したこと、よかったこと等、今後の取組につなげ改善するための方策やアイデアを集約しメンバーで話しあっている。**振り返り会の内容等を報告書としてまとめ、LINEに流してメンバーで情報共有**するほか、デジタルデータをアーカイブとして保存している。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- 「さいき部！」の主体は常に「若者」たちでセンター職員はその伴走者であり、部のメンバーが自分たちで企画や役割分担、進行手順の調整、同年代の参画者探し等、当事者として常に目的意識をもち、主体的に活動していけるような伴走型の支援を心掛けている。今後も「さいき部！」の活動の発展を契機に、小学生から高齢者までの多世代の住民が集い、学び、つながることができる市民センターの運営に努めたい。



動画の構成を話し合う若者たち

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

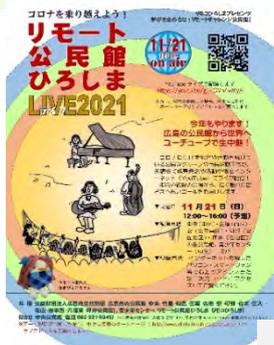
- 人口減少が進む佐伯地区の学びと交流の拠点として、地域内外の多世代・多様な人たちが乗り入れ、日常的に地域づくりのための**アイデアや相談ができる「よろず相談所」**のような場所にしていきたい。
- このために、市役所の他部局や、NPO、学校、住民や関係機関・団体等の多様な主体や人と人とのつながりを生み出し、**ソーシャルキャピタルを創出する基盤としての機能をさらに発揮**していきたい。



地域の「よろず相談所」目指します

リモート公民館ひろしまプロジェクト

広島市中央公民館



リモート公民館LIVE2021



ゲンビアートクルーズ

公民館の沿革・年表

- ・昭和24年7月30日 広島市中央公民館開館
- ・昭和53年9月15日 中央公民館新築移転，複合施設で開館
- ・昭和59年11月3日 優良公民館として文部大臣賞受賞
- ・平成8年4月1日 広島市が，(財)広島市ひと・まちネットワークに広島市内の公民館の管理運営を委託。
- ・平成18年4月1日 指定管理者制度導入
- ・平成23年4月1日 財団が統合し(財)広島市未来都市創造財団となる
- ・平成26年4月1日 (公財)広島市文化財団に移行

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

「つながることでコロナを乗り越えよう！」と，広島市内公民館で連携し，リモートで事業を行った。

●リモート公民館LIVE2021のチラシ (共催施設14館)
広島市内公民館グループによる発表会。オンラインで広島市内の公民館と青少年センター，館外での中継をつなぎYouTubeで配信した。

●ゲンビアートクルーズ
本財団の豊富な資源とネットワークを活かし，休館中(リニューアル工事中)の広島市現代美術館の職員が，オンラインでガイドやクイズなどでナビゲートする事業を展開。(共催施設19館)

1. 都道府県名	広島県	3. 公民館対象人口	29010人	5. 来館者のインターネット接続環境	有線・無線の両方
2. 市区町村名	広島市	4. 建物設置年月日	昭和53年9月14日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	おおむね10台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 ((公財) 広島市文化財団) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2213人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館，サークル活動 23792人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会，展示会等 13,741人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 6546人 (<input type="checkbox"/> ビー・図書室利用)				合計 46,292人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 4人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 3人 職員のうち社会教育士の数 0人)				合計 5人
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している，もしくは，関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (多世代交流，国際理解，平和教育，人権問題学習，関係人口づくり)				
13. 施設の特徴，魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (中央老人福祉センター，広島市シルバー人材センターほか) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (広島市内中心部に位置し，交通の便が非常に良く，部屋数も多い)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> 博物館 <input checked="" type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (とみえ保育園，市立基町・白島・幟町小学校，幟町中学校，基町高校，広島文教大学，江崎グリコ，あしがるクラブ (環境団体)，ローカルネットひろしま (パソコン)，子ども会，児童館，中区役所，中保健センター，市立こども図書館，広島城，現代美術館，青少年センターなど)				

広島市中央公民館

OPEN 8:30~22:00

H P www.cf.city.hiroshima.jp/chuo-k/

TEL 082-221-5943

SNS <https://www.facebook.com/Chuokominkan/>





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 新型コロナウイルス感染症まん延に伴う非常事態宣言以降、公民館も長期の事業中止など大きな影響を受けた。人と地域の繋がりが弱り、公民館の役割も従来の取り組みだけでは困難な状況となってきた。そんな中で、**広島市内の公民館で一早くZoomのライセンス契約を締結し、この現状の中でも実施することができるリモート事業を試みることにした。**
- 公民館がこれまで提供してきた**集合対面型の事業を補完**するとともに、幅広い学習成果の発信や**公民館の未利用層へのアプローチ**にも繋がり、アフターコロナにおいても有効な新しい事業展開の構築を図るため、市内の公民館や美術館、市民活動団体と連携し様々なリモート事業にチャレンジした。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【子育て応援スペース「オンラインちゅうごう」】（子育て支援）

コロナ禍で出産し、育児をしている若い親は、同じくらいの子育て中の親と知り合う機会がない、不安を共有する場がないなど深刻な悩みを抱えている。そのような**子育て中の親を対象に「オンライン子育て支援事業」を実施した。**

【オンラインサマースクール「おうちで大実験」】（若者のまちづくり参画）

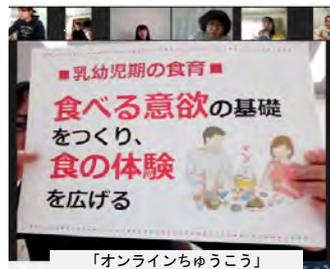
コロナ禍でボランティア活動が制限され外部との接触機会を失った大学生が、オンラインで「夏休みの**科学実験教室**」を実施。大学生が専門分野を活かそうと企画した。小学生を対象にスケルトンエッグづくりやブックトークを実施した。

【リモート公民館LIVE2021】（より多様な人材が地域づくりに参画する関係人口づくり）

グループの活動発表の場がない、練習に身が入らない等の相談から、**広島市内の公民館(13館+広島市青少年センター)が連携し、グループ発表会を実施した。**グループの発表だけでなく、**遠く離れた公民館をつなぎ地域の魅力をPRした。**市民活動団体にも参加を促し、活動のPRにつなげた。

【ゲンビアートクルーズ】（地域資源を活用したまちづくり）

広島市青少年センターと広島市現代美術館、広島市内の公民館(17館)が連携して行った。コロナ禍で思うように事業ができない中、**オンラインでつながることで「人口減少時代の新しい地域づくり」にもつながる可能性のある事業を展開し、現代美術館から遠く離れた地域の子どもたちも日常的にアートに触れることができる機会を設けた。**



3. 取組による成果や効果

【子育て応援スペース「オンラインちゅうごう」】（子育て支援）

同じくらいの子どもを持つママと話ができた等の感想が寄せられた。また、講座終了後は、対面（オフライン）で会うなど、**母親同士でつながりを深めるきっかけとなった。**

【オンラインサマースクール「おうちで大実験」】（若者のまちづくり参画）

Zoomを使って双方向のやり取りに子どもたちも楽しく参加した。大学生にとっては、企画から実施までをやり遂げ、**自信につながるとともに、公民館の存在を知り、地域に目を向けるきっかけにもなった。**

【リモート公民館LIVE2021】（より多様な人材が地域づくりに参画する関係人口づくり）

公民館まつり等が中止される中、公民館グループの活動発表の場がオンライン上で配信できた。広島市内公民館をオンラインでつなぐことで、**遠くに行けない広島市内の公民館に興味を持つきっかけになった。**

【ゲンビアートクルーズ】（地域資源を活用したまちづくり）

市内8区全てから**1館以上の公民館が連携するネットワーク事業を実施**することができた。現代美術館から遠く離れた地域の小学生が想像力を発揮し楽しく参加していた。



4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 講座終了時、アンケートを実施し、参加者の意見を聞く。
- 学識者や地域団体の会長など、29名で構成**する公民館運営委員会を年1回開催している。
- 技術面、運営面について職員間で意見交換をした。検証と改善を行い次回につなげる。



ゲンビアートクルーズ

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- 市民や大学生の意見をよく聞き一緒に考え、**協働で実施できる体制づくり。**
- コロナ禍でも学びを止めず、新しい事業（リモート事業）にチャレンジする。**
- 財団のネットワークを活用し、職員同士で連携する。



職員の打ち合わせ

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- オンラインとオフラインの両方をうまく活用した事業を展開する。
- オンラインの特性をいかして、広島市内公民館や団体とのネットワーク事業を実施する。
- 大学生等、若い世代を取り込み**公民館の関係人口を増やす。**
- DXを目指す一助になるような事業展開が必要。今後は特に**SNSの情報発信**に力を入れていきたい。



リモート公民館LIVE2021

みんなで一緒になんか面白いことやってみようやあ！

福山市服部交流館



服部交流館落成記念行事にて



服部川にてほたるの放流

公民館の沿革・年表

- 平成 2年 福山市服部公民館開設
- 平成 3年 「服部の自然を守る会」設立
- 平成 4年 第1回「服部ほたる祭り」開催
- 平成 31年 「じぶんらでなんかやってみようや会」開設
- 平成 31年 「じぶんらでなんかやってみようや会」から「Smile Time」に改名
- 平成 31年 マスコットキャラクター「ピッカリちゃん」誕生
- 令和 元年 ピッカリちゃんの相棒「ゲンジくん」誕生
- 令和 3年 旧服部小学校を改修，服部交流館落成

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

上：服部交流館落成記念行事にて出店しました

服部交流館の落成記念行事で、カフェ&だし屋を出店して地域の方にとっても喜んでもらうことができました。また、式典では司会を担当し、中学生メンバーが緊張しながらも大役を果たすことができました。活動を続ける中で地域の方から声をかけてもらうことが増え、互いにふれあいを楽しんでいます。

下：環境学習の一環としてほたるの放流を行いました

服部の自然を守る会が行うほたるの放流。親ポタルの捕獲や幼虫の飼育など、1年かけて準備しています。

1. 都道府県名	広島県	3. 公民館対象人口	1700人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	福山市	4. 建物設置年月日	令和3年12月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	10台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (○○地区まちづくり協議会) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (福山市)				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 178人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館, サークル活動 1535人 <input type="checkbox"/> 講演会, 展示会等 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()				合計 1,713人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 3人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 3人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (交流館運営委員会)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴, 魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (ほたる笑学館) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (移設と同時にほたる笑学館が併設され小学生の環境学習等に利用されている)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (駅家北小学校, 駅家中学校, 駅家北学区服部まちづくり推進委員会, 福山市北部地域振興課, 駅家北学区あかるいまちづくり委員会, 駅家北学区服部福祉を高める会, 服部南保育所)				

福山市服部交流館

OPEN 8:30~22:00
TEL (084)978-0810

H P <https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/soshiki/hokubuchiikishinkou/269889.html>
SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

地元で唯一の学校である服部小学校が令和2年3月末に閉校になることが決定し、それを受けて「地域から子どもの声が聞こえなくなるのではないかと」、「子どもたちが活動しているところを見れなくなるのが寂しい」という声がたくさん聞かれた。

子どもたちが地域で活動することで地域の方に喜んでもらうこと、**子どもたちが多世代の人と関わる中で互いに学び合える環境**をつくること、また地域のことを考え活動に主体的に取り組む中で、地域への愛着心を醸成することを目的としている。**まちづくり＝人づくりの観点**から、子どもたち自身の創造性・協調性を育て、次世代のまちづくりの担い手としても期待したい。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【はっとりGENKIプロジェクト“Smile Time”子どもの体験活動、若者のまちづくり参画】

地域の声を受け、子どもたちの力で地域を盛り上げようと企画したのが「はっとりGENKIプロジェクト“じぶんらでなんかやってみようや会（仮称）”」。活動に愛着を持ってほしいという思いから、**名称も子どもたち自身で選考**した。地域の人たちと笑顔で過ごす時間をたくさん持てますようにと“Smile Time”に決定した。

年度初めに行うミーティングでは、まず今年度やりたいことを**ブレインストーミング方式で意見を出し合い、決定**している。その際、①自分たちが楽しめて（80%）②さらに、地域の人にも喜んでもらえて（18%）③もっと言えば世界中のみんながハッピーになるようなこと（2%）と伝えている。その結果、1年目は敬老会での「のど自慢大会&カフェの出店」、2年目は「落成記念行事でのカフェの出店」、3年目の今年度は「手づくりのおぼけやしき」と「謎解き脱出ウォークラリー」に決定。

ほぼ月に1回交流館に集まり、イベント開催に向けての準備を行う。毎回、活動を面白くするためのアイデアを持ち寄ることを宿題としている。

【服部の自然を守る会（地域資源を活用したまちづくり、子どもの体験活動）】

20年以上も続く「服部ほたる祭り」や、小学生の環境学習の一環として行うほたるの放流など、**ほたるを中心に置いたまちづくり**を進めている。



のど自慢大会の準備



落成記念行事では司会に挑戦！

3. 取組による成果や効果

- ・地域の方に子どもたちの活動を見たり参加してもらったりして、喜んでもらうことができた。
- ・新聞やテレビに取り上げてもらう機会があり（中国新聞・山陽新聞・ローカルテレビ局の人気番組）、地域外の人にも子どもたちの活動を知ってもらうことができた。
- ・イベントに参加してくれる**小学校低学年の子どもたちが、メンバーが活動する姿を見て早くメンバーに入りたいと楽しみに**してくれている。
- ・毎年同じことをやるわけではないが、前年度の反省点を生かしながら企画を進めるなど、確実に成長を感じられている。
- ・**子どもたちの活動を通じて地域のおとなたちが元気をもらい励み**にもなっている。



アンガールズと一緒に！

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

地域の各団体の長などで構成する**交流館運営委員会**において事業の報告を行い、各分野からの意見を取り入れてより良い事業が行えるよう改善を図っている。プロジェクトに参画するメンバーの子どもたちに対しては、日常的なコミュニケーションの中で意見やアイデアを聞いたり、年度末のミーティングの際にはアンケートを行ったりして、次回や次年度の事業に活かすようにしている。その他、事業へ参加した方の声やアンケートについても整理し、事業の運営や内容に反映できるように努めている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

まちづくりを楽しく、面白く！やらなければならないではなく、こんなことがしてみたい、あんなことができたなら楽しいだろうな、という一人ひとりの気持ちを大事にしたい。それぞれの得意を活かして、ここにも自分の居場所があると感じてもらえるように、**誰一人取り残さないまちづくり**をめざしたい。



年度初めのミーティング

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

今は子どもたちがメインの活動だが、これからさらに参加者の幅を広げたい。今まで交流館やまちづくりにあまり興味がなかった世代を含め、**すべての世代が参加したいと思えるような企画**を子どもたちを中心に進めていきたい。また、デジタル化社会に向かっていく中、まだまだ面白い仕掛けが考えられると思うので、**デジタル技術等も積極的に活用**していきたい。



活動用の看板を作成

地域と共に学社融合 本州最西端から魅(見)せる公民館

下関市立吉母公民館



恐竜街道アート製作



吉母ふれあいまつり

公民館の沿革・年表

- ・昭和53年 吉母(よしも) 公民館開設
- ・平成25年 吉母小学校学校運営協議会に参画
- ・平成30年 ご当地かるた完成・ジャンボかるた大会開催
- ・令和4年 下関市社会教育振興大会にて事例発表

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

- 地域活性化事業「毘沙ノ鼻(びしゃのはな)・恐竜街道」吉母海岸で発見された恐竜足跡化石をテーマに、町の数か所に恐竜壁画アートやパネルアートを掲示する取り組み。地区外の福祉施設や、エコアート作家さんも参加。NHKワールドニュースで世界に発信され地域観光活動の一助を担った。
- 地域学校連携事業「吉母ふれあいまつり」学習発表会と地区文化祭を共同開催。子どもが地域の大人と一緒に実行委員で参加し、地域貢献の達成感を実感した。

1. 都道府県名	山口県	3. 公民館対象人口	684人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し	
2. 市区町村名	下関市	4. 建物設置年月日	昭和53年3月30日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	無し	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 138人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 678人 (放課後利用、図書室利用、避難所開設)	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 398人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 274人	合計	1,488人	
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人)	<input checked="" type="checkbox"/> 兼任 7人	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 4人 (職員のうち社会教育士の数 0人)	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 12人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()					
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学		
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (図書室に寄付金によるコーヒーマシンを設置・井戸端会議「吉母カフェ」)					
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (吉母自治連合会、吉見地区まちづくり協議会、民生委員会、吉母小学校、吉見中学校、水産大学校、下関市防災士連絡会、下関市立考古博物館、北九州市立白野江植物公園)					

下関市立吉母公民館

OPEN 9:00~17:00(22:00) H P

T E L 083-286-6226

SNS <https://www.youtube.com/channel/UCJQjAR8YZSFf29Ga2kUc5ig>





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 吉母地区は、人口減少による**少子高齢化が最大の地域課題**である。全校児童7名の吉母小学校。高齢化した自治会・長寿会などの地域団体との連携の在り方。公民館活動への参加者は固定化し、減少の一途を辿っている。
- 地区文化祭は「公民館まつり」の愛称で親しまれてきた地域最大級のイベント。日頃の学習成果の発表、地域交流の場であるが、年々参加者・観覧者ともに減少し、**新しい企画や運営方法の工夫**などが求められていた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【毘沙ノ鼻・恐竜街道事業（地域資源を活用したまちづくり）】

①本州最西端の地・毘沙ノ鼻（びしゃのはな）②旅する蝶アサギマダラの飛来地 ③日本最古の恐竜足跡化石発見の地など、地域資源が豊かで魅力ある町という特徴を、**小学校の地域学習**に展開。子どもたちが地域への愛着心を深め、**学んだことを地域の人に伝え**、保護者以外の住民と交流することで、**地域住民の活力**につなげる。



毘沙ノ鼻公園花壇整備
アサギマダラ飛来準備

【学社融合の教育実践～吉母ふれあいまつり～（地域学校協働活動）】

小さい公民館で行っていた文化祭を、広い小学校を利用することで**3密リスクを回避**。子どもが実行委員として関わる事で、**地域貢献の達成感**につなげる。

【地域で子どもを見守る～地域ふれあい活動～（子どもの体験活動・健康づくり）】

児童クラブが無い地域なので、**放課後の居場所づくり**に力を入れている。

市の出前講座などを活用した、地域ふれあい活動を開催。

また、店舗も無いので、気軽に井戸端会議ができる憩いの場所「**吉母カフェ**」を提供。生涯学習のきっかけづくり、ニーズの聞き取りなど、**地域課題の情報収集**に努めている。



地域ふれあい活動
クリスマスケーキを作ろう

3. 取組による成果や効果

- 活動を屋外で行うことにより、**地域の皆さんの目にとまり**関心を寄せていただいた。
- 新聞、テレビ、ラジオなどのメディア発信、SNS発信**などを積極的に活用したことで、**地域交流の輪が広がり**、地域外、県外からの来訪者が増加した。
- イベント集約化によりPTA・役員の負担軽減で**持続可能なボランティア活動**の実現。
- 牛乳パックなどで作ったエコランタンで**公民館をライトアップ**し、夜まで開館したことで、**来館者数が増加**した。
- 公民館と小学校の交流時間が増えた事で、子ども、保護者の来館時間が増加した。
- 地域の方が、子ども達のため、自身の健康のためにと、気軽に立ち寄る時間が増加した。



吉母ふれあいまつり
キャンドルナイト

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 自治会関係者、学校関係者等で構成する公民館運営審議会を開催。
- 地域学校協働活動に関しては、吉母小学校学校運営協議会に委員として参加。
- 全戸配布の公民館だよりで告知と報告。ホームページ、Youtubeなどで活動状況を公開し意見を求め活動指針としている。
- イベント毎にアンケートを実施。反省会議事でフィードバック。次回企画時の参照項目としている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

公民館の役割である「つどう」「まなぶ」「むすぶ」に対して、大切にしていること3点。

- 【1.つどう】複数の手段で**情報を発信**し、気付いてもらう、興味を持ってもらうこと。
- 【2.まなぶ】**生涯学習**は「自分らしく生きるための武器である」と伝え、多様なニーズに応えること。
- 【3.むすぶ】地域活動や学校行事に自らが参加し、**地域ネットワーク**を構築すること。



地域清掃奉仕活動

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

地域住民の「地域を盛り上げたい」というニーズをカタチにして、情報発信などで可視化すること。少子高齢化による独居世帯の孤立化、地域のつながり希薄化、若手リーダーの育成などの、地域課題について、社会教育という立場・役割で、**地域とともに活動できる公民館**でありたい。



ジャンボかるた大会

高齢化、コロナ禍、デジタル化に適応する学びの拠点

周南市 中須市民センター



しめ飾りづくり



ノースキッズ風景

公民館の沿革・年表

- ・平成 8年 3月 中須公民館として現在地に新築
- ・平成21年 4月 放課後子供教室開講
- ・平成24年 4月 中須小・中学校運営協議会に参加
- ・平成25年 3月 放課後子供教室終了(児童数減少)
- ・平成29年 4月 中須小・中学校の休校に伴い、沼城小・須々万中学校運営協議会に参加
- ・平成30年 4月 中須公民館が中須市民センターへ移行
- ・令和 2年11月 **山口県公民館報コンクール 奨励賞受賞**
- ・令和 2年12月 **軽トラ市開催(市民センター新規の事業)**

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

- しめ飾りづくり講座
民生委員や小学校と協力して、地域の高齢者の持つ技術を子ども達に継承するために一緒に飾りづくりを実施した。教職員・子ども・地域住民で**地域学校協働活動**として取り組んだ。
- 小・中学生向け 6地区合同夏休み講座『ノースキッズ』
『学校で学べない体験学習』をモットーに夏休みに毎年実施している体験学習講座。カヌーの体験とパン作り体験をセットにして開催。野外活動に工夫を凝らして**ソーシャルディスタンスを確保し、自然体験、食育体験とコロナ対策を両立**した。

1. 都道府県名	山口県	3. 公民館対象人口	618人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し	
2. 市区町村名	周南市	4. 建物設置年月日	平成8年3月4日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	—	
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input checked="" type="checkbox"/> その他 (市長部局(地域づくり推進課))					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 149人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 500人 (コミュニティバスの待合室、居場所としての来館等)	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 742人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計		1,391人	
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人)	<input checked="" type="checkbox"/> 兼任 1人 (職員のうち社会教育士の数 0人)	<input type="checkbox"/> 非常勤 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 2人		
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()					
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (市民センター運営連絡会議)					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (SDGs)	<input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学		
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (市役所支所、保育園、診療所併設) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (高齢化率約60%の地域でも学びの機会を提供し、住民が集う市民センター)					
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 沼城小学校、須々万中学校、中須保育園、中須をよりよくなる会、中須地区自治会連合会、中須地区社会福祉協議会、中須地区体育振興会、棚田清流の会、大田原自然の家、周南市教育委員会 等	

周南市中須市民センター

OPEN 8:30~22:00
TEL 0834-89-0301

H P <https://www.city.shunan.lg.jp/map/nakazu.html>
SNS <http://shunan-chiikijoho.jp/council/nakasu/>





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

●きっかけ

支所・市民センター窓口で**高齢者が度々『スマホの使い方を教えてほしい』と来所**されたこと
 コロナ禍に伴う、社会活動・地域活動の停止・縮小、オンライン化への移行
 人口減・高齢化に伴う、施設来所者・利用人数の減少
 地区内での**デジタル弱者とSNSを駆使する世代との地域活動への意見の乖離**(情報受信・発信)

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【デジタル弱者支援『スマホ講座シリーズ』の開催(高齢者の学び支援)】

複数の住民が『スマホの使い方が分からないから教えてほしい』と尋ねてきたことを契機に市民センター講座生や地区コミュニティ関係者に聞いてみると、同じ悩みを抱える住民が60歳以上を中心に多数いた。さらに、要因を紐解くと①市街地が遠く、携帯ショップに度々はいけない②子、孫に聞くのは嫌がられて聞きづらい③コロナ禍になり、遠隔地の家族・知人とオンラインでコミュニケーションを取りたいということが分かった。解決策として、**身近な市民センターで顔馴染みの職員から操作指導**を行う手法が有効だと判断し、講座を開講した。

【市の政策と連動・時代の流れに合わせた講座の展開(ICTの活用)】

スマホ講座をシリーズ化、第二弾『キャッシュレス決済講座』を**市のスマホ決済20%還元キャンペーンに合わせて実施**し、デジタル弱者である高齢者も利用できる環境を整えた。マスメディア等で頻繁に取り上げられるSDGsに着目し、ほぼ**中須産の素材のみを使用した『エコな箸づくり』**の体験会と市の脱炭素化等SDGsに関わる政策(水素利活用やバイオマス発電)を紹介する講演をセットで実施し、住民の環境に対する意識啓発を図った。

【市民センター館報の大幅リニューアルと紙面増による地域情報の発信強化(その他)】

館報(毎月発行)を大幅リニューアルした。①隔月で紙面の倍増②QRコードでネットで紙面確認可能に③特集シリーズの掲載④**館報と講座の連動**等で地域への関心を増やした。



スマホ講座指導風景



キャッシュレス決済講座

3. 取組による成果や効果

- デジタル弱者がある程度(LINEや地図、決済アプリ等)スマホを使用できるようになった。キャッシュレス講座では**高齢者のハードルを下げ、還元キャンペーンの活用を可能**にした。
- 住民のうち、高齢者がSDGsやスマホ等に興味を持つようになった。具体的には、箸を来年は自作したいので種を持って帰って近隣に配りたいという要望があったり、スマホでマイナポイントやワクチン接種証明アプリの使い方を**自分で調べて、質問しに来られる**ようになった。
- 館報に載せた地域情報や過去の写真特集を通じて、住民や関係者の**交流活発化や地域への愛着の醸成**に繋がった。過去の写真では昔を懐かしんだり、地区を出た**20~30代の若者のSNS上でも話題**になった。地域情報で魅力の再発見があったと感想をもらった。



コキアの箸作り教室

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 講座受講者や市民センター定期講座生から**アンケートや聞き取りで感想や疑問を吸い上げ**、次回以降の新設講座の企画内容を考えたり、シリーズ企画の第二弾、第三弾では前回の内容の補完を行うようにしている。
- デジタル弱者などは市内他地区でも同様の問題を抱えている為、『スマホ講座シリーズ』の**教材や指導法をパッケージ化**して、他地区でも同様の取り組みを行えるようにし、そこで得た感想・フィードバックを中須地区の次回講座内容に還元している。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

生涯学習や地域での活動の主体はあくまで住民本人であり、中須市民センターは一人一人が**自発的な学習活動に取り組む**ための『環境づくり』『きっかけづくり』をする為に講座開設や質問対応を行っている。そして、学習活動・地域活動を続けるために**住民に寄り添ったサポート**を実施し、いつまでも安心して暮らし続けられる地区及び市民センターを目指している。



スマホ講座シリーズチラシ

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

人口減少や子どもの地区離れに歯止めがかからない中でも、**学びの『きっかけづくり』の拠点**としての機能を拡充したい。特に**住民と『同じ目線に立って』**実施する講座で一緒に学習に取り組んでいきたい。そのための仕掛けとして、これから住民からのニーズがある『終活講座』や『一人暮らしの料理講座』等を『**顔なじみの職員**』が**指導**するために資格等を取得し、講座に活用したい。



住民と同じ目線で歩む

ワンチーム！ありほ

山陽小野田市有帆地域交流センター



「有帆市まつり」 子どもみこしの様子



公民館クラブ員

地域住民・保護者

全校児童

公民館 & 小学校合同学習フェスタの様子

公民館の沿革・年表

- ・昭和58年 有帆公民館（福社会館併設）開設
- ・平成7年 有帆コミュニティ体育館開館
- ・平成8年 優良公民館として文部大臣表彰受賞
- ・平成21年 地域委託型公民館運営
- ・平成27年 市教育委員会直営方式公民館運営
- ・令和元年 山口県公民館報コンクール奨励賞を受賞
- ・令和2年 山口県公民館報コンクール優秀賞を受賞
- ・令和3年 山口県公民館報コンクール優秀賞を受賞
- ・令和4年 有帆地域交流センターとして業務開始

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 江戸時代から継承されている「有帆市まつり」は地域の皆さんが協力して支えている伝統的な行事です。毎年5月の第2日曜日に有帆公民館で開催され、別府八幡宮の汐搔き祭の神事も行われ、多くの地域住民の皆さんが楽しみにされているまつりで、未来へ継承していくべき地域行事となっています。
- 公民館クラブ員と有帆小学校児童が日ごろの学習成果を披露する年に一度の有帆の学びの祭典です。ここでは、公民館クラブ員と小学校児童、地域住民、保護者の皆さんが一体となっている様子です。（有帆コミュニティ体育館にて）

1. 都道府県名	山口県	3. 公民館対象人口	3617人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	山陽小野田市	4. 建物設置年月日	昭和58年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	—
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 5609人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 16590人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 2005人 (地域団体運営会議、公民館運営会議 等) 合計 24,204人				
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 2人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 2人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (有帆公民館運営協議会)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (公民館だよりの発行)				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 有帆ふるさとづくり協議会、有帆地区自治会協議会、有帆地区社会福祉協議会、有帆セーフティーネットワーク、有帆地区人権教育推進協議会 等				

山陽小野田市有帆地域交流センター

OPEN 9:00~22:00

TEL 0836-84-4090

H P <https://www.city.sanyo-onoda.lg.jp/site/arihokuminkan/>

SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 生涯学習の場、地域づくりの拠点となる公民館運営を展開するため、地域課題や住民ニーズに応じ、積極的な事業に取り組みとともに、**地域による館運営**を目指し地域づくりを推進する。また、公民館が地域学校協働活動の第2コーディネーターとして学校・家庭・地域及び市長部局と連携・協働して「人づくり」「地域づくり」を実践し、**持続可能な地域社会**の実現を目指す。
- 小学校及び公民館がそれぞれ開催していた文化祭は、少子高齢化の影響を受け単独開催が難しくなっていたが、小学校や関係者との協議を重ね合同で開催することとなった。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【**小学校との合同学習フェスタ(地域学校協働活動)**】公民館クラブと有帆小学校が合同で学習フェスタを開催することにより、地域と小学校と保護者の連帯感を高め、これからの学校と地域の連携・協働活動を推進している。また、企画、運営を公民館クラブ員と公民館運営協議会委員、小学校育友会が主体となって実施することで**人と人のつながり**、**地域の絆**を深めるイベントとなっている。

【**まなびト・ふれ愛カフェ(地域資源を活用したまちづくり)**】従来の授業形式で話を聞く学びの場だけでなく、**学びとふれあいの場**として、カフェでお茶をするように気楽に楽しく講師や参加者と意見を交わし、1人1人が主体的に参加できる全員参加型の講座を目指している。**地域より企画員を募り企画会**を開催、色々な目線で意見やアイデアを出していただき、それらを形にしている。これまでに、地域を歩き減災マップを作る企画や《地域に残る年中行事を知り、未来に繋ぐには》を皆で考える企画など地域課題の解決につながるものも生まれた。

【**公民館・地域情報のPR(公民館だよりの発行)**】地域のつながりの希薄化が進む昨今、公民館活動や地域行事、人、歴史等について興味・関心を持ってもらい、地域社会への参加を後押しするとともに、**愛郷心を育む**。**地域の編集委員の協力**により、地域の情報・出来事を積極的に掲載し、個人の写真やコメントを各所に掲載、**地域の人となり**が伝わり、**地域の人を身近に感じるとともに**、取材等を通じて多くの方とのつながりを構築している。



企画会の様子



公民館だより「ありほ」

3. 取組による成果や効果

●合同学習フェスタは、小学校への訪問や児童との触れ合う機会が増えたことにより、**世代間交流の一助及び高齢者の生きがい**につながった。また、一過性の取組に留まらず、フェスタをきっかけに小学校の授業が公民館クラブ生の**学びの成果の定期的な還元**の場となるとともに、山陽小野田音頭の指導など、新たな取組へとつながっている。

●ふれ愛カフェにおいては、**自由に意見や想いを発言できる場**となり、受講者のコミュニケーションの範囲が広がるとともに、それぞれの問題等に対して**受講者間で熟議**を行い解決策を見出している。

●たよりの取材や活動を通して、**地域住民がふるさと有帆を意識する**ようになり、地域行事への再認識及び参加者の増加、また、「人と人のつながりづくり」が一步前進している。



企画会からできた防災さんぽの様子

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 公民館運営協議会、地域組織（地区自治会協議会、ふるさとづくり協議会、地区社会福祉協議会等）と地域の課題について協議し公民館事業に反映している。
- 公民館事業については、各事業終了後に振り返りを行い、次回の改善点に対応している。
- 今後は校区内へのアンケート調査を実施するなど、来館していない方への呼びかけにも取り組んでいく。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- 地域の人と人の「つながりやふれあいの場」としての、公民館の事業展開に心がけている。
- 公民館前の花壇を「**ふれ愛ガーデン**」として花いっぱい運動を展開し、公民館利用者に憩いの場を提供するとともにコミュニケーションのツールとして活用している。
- 地域住民と行政のパイプ役**との認識から、あらゆる事案の問い合わせに対応している。



花壇ボランティアの皆さんと

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- 子育てや防災、健康づくり、ICTの活用といった現代課題の「学び」を展開していくとともに、地域学校協働活動のコーディネーターとして学校・家庭・地域の連携協働の取組を推進する。
- 地域住民自ら**が地域課題として捉えたテーマの「学び」に取り組み、参画意識を高めることで地域住民・団体の**自主性・主体性**を育みながら住民主体のセンター運営を推進していく。



自治会館にて出前講座



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

平成4年から段階的に「学校週五日制」が導入され、松茂町では、その円滑・有益な実施を目的として公立幼小中学校長や各PTA会長ら町内教育関係者により平成8年に松茂町学校地域教育推進協議会が設立された。同協議会では、平成9年に町内児童生徒とその保護者を対象とした「完全週五日制に向けてのアンケート」を実施した結果、休日となる土曜日に、家庭・地域で体験しながら学ぶ機会が不足していることがわかった。このため、平成14年から地域で「豊かな心を育む運動」を充実させるため、ボランティアの人材バンクを設置するとともに子ども体験活動の取組が開始されたものである。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

○子ども体験活動

子ども体験活動は、子どもカルチャー教室、親子ものづくり教室、子ども自然探検隊などを開催している。平成14年に、親子木工教室、折り紙教室、囲碁・将棋教室、マジック教室などの開催からスタートした。

○子どもカルチャー教室

現在、地域の方々のご協力をいただきながら、茶道、折り紙、将棋、かるた、生花の各教室、親子もの作り教室では、おもしろ実験、科学工作、竹細工、フラワーアレンジメント、うどん作り、凧揚げの各講座、子ども自然探検隊では、小川・海辺の生物調べ、夏・冬の天文調べ、野鳥や野草調べなどのメニューで開催し、17講座44回の開催、親子で参加者は449名にのぼる。



自然探検隊：水路の生き物調べ



子どもカルチャー：生花教室、茶道教室



3. 取組による成果や効果

子ども体験活動事業は児童保護者に人気の事業となっており、地域の魅力を子どもたちに伝え、地域愛を育む事業として一定の成果を上げている。講師や指導者にも地域のボランティアの方々が多数関わっており、世代間の交流が図られている。



親子ものづくり教室：竹細工

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

松茂町教育委員会評価委員会において、社会教育活動の一環として公民館事業の評価を受け、事業の進捗管理や改善策等の検証がなされている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

本町においても少子高齢化の煽りを受け、青少年活動のみならず生涯教育事業も含め、公民館活動への人材の確保が課題となっていることから、今後の指導者やリーダー育成に力を注いでいる。

また、松茂町を愛するところの育成という点からも、活動を通じ、家庭・地域・学校・教育委員会の連携の一翼を担えるような事業展開を心がけている。



自然探検隊：天文調べ

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

松茂町公民館活動において、子ども体験活動などの青少年活動事業、生涯教育事業を通して、今後についても現在の地域との連携により一体となった取組を継続し、さらなる展開を図っていく。



子どもカルチャー：将棋教室

みんなが笑顔でつどう公民館

徳島市昭和公民館



「昭和公民館学習発表会」の様子



「ふれあいサロン」の様子

公民館の沿革・年表

- 昭和25・4 徳島市中昭和町5丁目60番地、昭和小学校内に昭和公民館創立
- 昭和36・5 徳島市中昭和町4丁目49番地に移転
- 昭和61・5 昭和地区コミュニティ推進協議会（現 昭和コミュニティ協議会）との複合館として昭和コミュニティセンター内に移転
- 平成25・11 徳島市中昭和町3丁目81番地へ移転

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

「昭和公民館学習発表会」
毎年3月に1年間の学習の成果を発表する場として、昭和公民館学習発表会を開催している。

「ふれあいサロン」を共催
民生委員児童委員協議会と共催し、「ふれあいサロン」を開催している。ゲームをしたり、お茶を飲みながらおしゃべりしたり、いろいろな人とふれあえる時間は高齢者の方々の憩いの場となっている。夏休みは子どもたちも参加している。

1. 都道府県名	徳島県	3. 公民館対象人口	9959人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	徳島市	4. 建物設置年月日	昭和25年	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（ <input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2178人 <input type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 803人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 96人（成人式）				合計 3,077人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人） 合計 2人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他（高齢者の居場所づくり・人づくり）				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他（コミュニティ協議会・児童館） <input type="checkbox"/> 自由記述（ <input type="checkbox"/> ）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 昭和小学校・昭和幼稚園・昭和保育所・育英子ども園・みずほ保育所・昭和児童館・昭和地区民児協・昭和婦人会・更生保護女性会昭和支部・昭和地区社会福祉協議会・保護司会				

徳島市昭和公民館

OPEN 9時～17時（22時） H P
TEL 088-623-1971 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

昭和公民館が所在する徳島市昭和地区は、かつては塩田が多くを占め、お寺が一寺もなく、文化財や歴史的な建造物も数少ない地域である。しかし、住民の意識は高く、学習等には積極的に参加している。人生100年時代の名のとおり、80歳を超えた方が多く活動に参加している。参加者同士のつながりも深く、高齢者同士だからこそ少しの体調の変化にも気付き、互いの健康を思いやっている。一方、男性や若・中年層の参加者が少なく、その年代に興味をもってもらえる講座を企画し、働きかけることが課題となっている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

○ 高齢者の生きがいづくり・健康づくり

阿波踊り体操（週3回）・いきいき百歳体操（週2回）・転倒防止を目的とした**フラ体操（週1回）**などの健康づくりに加え**ピアノカ&大正琴（週1回）**・童謡を歌いましょう・手芸の会・折り紙の会（月1回）などを開催し、公民館に足を運ぶ機会をできるだけ多く設けている。



「新聞紙ドーム」

○ 子どもの居場所づくり

夏休みには、お楽しみ会・おばけやしき・新聞紙ドーム・親子手打ちうどん教室。秋には地域の幼稚園・保育所・こども園の子ども達を招いてのおはなし会などを開催している。

○ 新規事業として、ウクレレ教室を開設

講師が東京在住のため、月に一度の対面レッスン・**リモートレッスン**（コミュニティセンターにて）を開催し、現在は3クラスになっている。80歳を過ぎて初めて楽器を手にした方も多く、50の手習いならぬ80の手習いを楽しんでいる。5月の学習発表会では、初めて3クラスが顔を合わせ一緒に演奏した。人気があり、問い合わせが絶えず、現在4クラス目の開設を検討中である。



発表会での「ウクレレ教室」

3. 取組による成果や効果

○ いろいろな講座・教室に参加することによって、参加者同士がつながり合い、他の活動などでも協力しあえるような関係が築けている。

○ 公民館と参加者の間で信頼関係ができ、地域の他団体の活動においても連携して取り組むことができるようになっている。



「ばあばあフラ」

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

どの講座も若い参加者が少ない。主事が在館する時間帯に教室等をしているため、子育て中や勤めている年代の方は、興味があっても参加することが時間的に難しいと思われる。そのため、今後コミュニティ協議会と統合するにあたり、交代勤務にするなどして、このような点も改善していきたい。また、若・中年層の方々がどのようなことに興味をもち、学びたいと思っているのかを見極めて講座を考えていきたい。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

地域の人のつながりを大切にしている。**講座等の参加者の意見を聞き、また次も来たいと思ってもらえるような教室運営を目指していきたい。**



地域の方々との交流

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

令和5年度には、昭和コミュニティ協議会と統合する予定である。これまでも共催してきたが、これからはより**活動の幅を広げ、地域の広い年代の人たちに参加してもらえるような活動**をしていきたい。



地域文化祭

公民館 de あそぼう！

西条市神拝公民館



公民館de遊ぼう



神拝学

公民館の沿革・年表

- ・昭和47年 旧西条市に公民館が設置される
- ・昭和54年 市民センター内中央公民館併設で移転
- ・平成6年 神拝公民館新築
- ・平成7年 第1回神拝公民館文化祭開催
- ・平成27年 放課後子ども教室開講
- ・平成29年 地域未来塾開講
- ・令和元年 神拝学開講
- ・令和2年 おげんきさん体操開始
- ・令和3年 公民館 de 遊ぼう開催

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 公民館 de 遊ぼうの様（令和4年1月の行事）
地域ボランティアの高齢者の方と子どもたちが、本を読んだり読まれたりする読み合い会。「上手に読めるね！」と言われて照れている子もいるなど、微笑ましい様子が見られた。
- 神拝学の様子
シビックプライド醸成のための講座の様子。西条自然学校講師と一緒に、アクトピア水系の散策を行い、地域の自然を残す大切さを学んだ。

1. 都道府県名	愛媛県	3. 公民館対象人口	13702人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	西条市	4. 建物設置年月日	平成6年6月30日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	10台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 808人 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 14996人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 1,193人	合計 16,997人		
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 4人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 <small>(職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人)</small> 合計 4人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (公民館協力委員会)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (地域の中心部にあり、子どもから高齢者まで利用しやすい)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <small>(神拝校区連合自治会・神拝小学校・神拝児童クラブ・神拝地区青少年健全育成協議会・神拝婦人会・神拝校区民生児童委員会・社会福祉協議会神拝支部・神拝高齢者クラブ・神拝小学校PTA・神拝地区人権教育を進める会・西条市教育委員会・西条高校)</small>				

西条市神拝公民館

OPEN 8 : 30 ~ 17 : 00

H P

<https://www.city.saijo.ehime.jp/soshiki/syakaikyoku/kanbai-index.html>

T E L 0897-53-6946

SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

・神拝地区の将来の推計人口が、**2040年には「消滅可能都市の定義」に該当する地域であるとの予想**がなされた。地域の良さを知り、シビックプライドの醸成が不可欠と考え、わたしたちの地域を学ぶ「神拝学」や地域の人を知る「公民館de遊ぼう」を開催した。

・「**何か運動をしたいけど、なかなかできる運動がない**」という高齢者の声があり、健康寿命を延ばすために、誰でも気軽に参加できるをモットーに、百歳体操を取り入れた「おげんきさん体操」の時間を設けた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【公民館de遊ぼう(世代間交流活動)】～地域の子どもは地域の宝 みんなで育てよう～
 少子高齢化が進む中で、地域で子育てをとという声が聞かれ始めたため、**地域と子どもを繋ぐ手段**として、**地域団体の協力を得て始まったのが「公民館de遊ぼう」**である。

第1回目は地域の各種団体と子どもたちとの交流会を開催。16mmフィルムの映写会の後、本の読み合い会・ジャンボすごろく大会を行った。

第2回目は「ミニポッチャ大会」を開催。子どもが上手に投げると、地域の方からは拍手喝采であった。対戦するというよりは、一緒に遊ぶという感覚で参加できるように工夫した。



公民館de遊ぼう ミニポッチャ

【神拝学(ふるさと学習)】～神拝を知ろう 神拝を学ぼう～

年間4回の教室を通して、**神拝地域を自然・歴史・まちと多方面から**学んでいる。神拝という名前の由来から未来に残したい自然や歴史・その建造物など、普段気づかない遺産があることを認識し、伝えていく必要性を感じる事業を目指している。



神拝学 タウンツーリズム

【おげんきさん体操(健康づくり)】～健康寿命を延ばそう～

毎月第2・4木曜日に決めて、百歳体操（座ってできる体操）を開催、「来れるときに来てください」という、**気軽に参加できる教室となるよう**心がけている。

3. 取組による成果や効果

【公民館de遊ぼう】

- **地域の高齢者と小学生とその保護者と3世代交流の場**となっている。
- 人と繋がる楽しさを感じてもらえたのではないかとと思われる。

【神拝学】

- **自然を守ることの大切さや、地域の歴史を知る**ことができた。
- タウンツーリズムを通じて、普段何気なく歩いている中にも、**歴史的価値のあるもの**が多く存在していることに気づくことで、**見るという訓練**ができた。

【おげんきさん体操】

- 毎回参加することで、**参加者同士の繋がりが**できてきた。



おげんきさん体操

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 自治会や地域団体の代表者と学校関係者で構成する公民館協力委員会を年間2回開催している。事業計画や実施報告を基に、**公民館活動について地域の声を聞きながら、事業の検証をする機会**としている。
- 事業参加者や公民館利用者の方の声を聞くことで、今後の改善点となるヒントを得るようにしている。
- 西条市公民館連絡協議会主催の各種会議・研修において、他館と情報交換を行い、**運営の参考**としている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

地域の中での「公民館」としての在り方を大切にしている。

地域関係団体と連携し、独自の活動だけでなく、**地域を巻き込んだ形での事業展開**に変えていく。地域を支えるのは「人」であり、その「人たち」を大切にしたいと考えている。



公民館de遊ぼう ジャンボすごろく

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

子どもから高齢者まで、様々な年代の方が、それぞれに学習できる場の提供と、世代間交流ができる事業展開をWithコロナで仕掛けていきたいと思っている。また、「**いつでも・誰でも・気軽に公民館を利用できる**」そんなスペースが公民館内に設置できないか模索中である。



キッズ教室 西条高校科学実験

緑と清流の里 たにすじ

西予市溪筋公民館



さくらまつり



川まつり

公民館の沿革・年表

- ・昭和25年 溪筋公民館開設
- ・昭和30年 野村町に合併
- ・昭和58年 溪筋公民館改築
- ・平成2年 川まつり始まる
- ・平成16年 西予市に合併
- ・平成23年 さくらまつり始まる
- ・平成27年 小学校閉校・幼稚園閉園

左図・写真の説明等など(PRポイントなども可)

- ・「さくらまつり」の様子
鳥鹿野水辺公園にて野点(のだて)を行い、お菓子をふるまっている様子。地元の中・高生が琴の演奏を披露する中、花見をしたり、談笑したりしながら思い思いの時間を楽しんだ。
- ・「川まつり」の様子
源流探検や魚つかみ体験、水生生物調査、宝さがしなどを行い、川と親しんだ。自然体験を通して地域住民が交流し、地域のことを知ったり、故郷の良さを感じたりすることができた。

1. 都道府県名	愛媛県	3. 公民館対象人口	862人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	西予市	4. 建物設置年月日	昭和58年3月6日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	100台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1567人 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 2036人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 866人	合計	4,469人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 2人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 3人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 () <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (少子高齢化が進む地域において、地域交流の拠点としてなくてはならない存在である。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (野村保育所、野村幼稚園、野村小・中学校、溪筋地区自治振興協議会、溪筋愛護班、溪筋老人クラブ、溪筋婦人会、溪筋青年団、溪筋五六会、西予市スポーツ協会溪筋分会、溪筋史談会、愛媛大学、西予市観光協会、西予市教育委員会)				

西予市溪筋公民館

OPEN 8:30~22:00 H P
 TEL 0894-75-0111 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

【さくらまつり】 当地区は、南予の水瓶である野村ダムの上流部に位置し、ダム建設に併せて改良された幹線道路沿いに、桜が2キロにわたり植樹されている。30年を経過する頃から桜に天狗巣病が発生し、徐々に元気が失われていた。それらを憂いた住民が管理者に相談したが、対応は難しく、それならば自分たちで何とかしようという機運が高まり、数年かけて除去作業に取り組んだ結果、以前のような状態にまでに回復することができた。これら一連の取組を記念し、さくらまつりを開催する運びとなった。

【川まつり】 30年程前、一人の小学生の作文に綴られた、『清流「稲生川」がいつまでもきれいであってほしい』という願いを読んだ当時の公民館主事の想いと、小学生の願いに心を打たれた漁協関係者の『ふるさとの清流を後世に』という願いが実を結び、活動がスタートした。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【さくらまつり（環境保全と地域振興）】 主催：さくらまつり実行委員会

●桜の木が植樹されて約40年余りたち、天狗巣病や宿り木などを、毎年時機を見ては、除去作業を行っている。

●利便性を考慮し、給排水設備の整っている地区中心部の鳥鹿野水辺公園へ場所を移している。また、通りすがりの方にもわかるよう『のぼり』を立て呼び込んでいる。また、地元農産加工組合との連携により、加工品の販売や、地元有志による雑貨販売など、地域の売込みにも余念がない。

●来場者へは野点を提供している。涼み台に毛氈（もうせん）を敷いて、華やかさの中に非日常感を演出している。また、昨年は、地元小中生による琴の演奏を初めて行った。桜との情景も相まって大変好評を得ている。

【川まつり（環境保全）】 主催：川まつり実行委員会

●環境マイスター制度を活用し、講師を招き「稲生川」の水生生物調査を行うことで、参加者に「稲生川」の水質のすばらしさを理解してもらっている。子どもたちにとって海水浴の経験はあっても、意外と河川で泳いだり生きた魚をつかんだりする経験は多くない。座学のみだけでなく、川ならではの体験活動に力を入れ、いつまでも心に残る活動になっている。



さくらまつり 野点



川まつり 水生生物調

3. 取組による成果や効果

【さくらまつり】

●世代間、地域間の交流の機会となっている。地域外から訪れる方も増加している。

●野点やお茶菓子の配布だけではなく、隣接する加工施設の惣菜販売も行い、地域の交流の輪が広がっている。

【川まつり】

●環境に対する住民の意識が高まり、まつりが始まった約30年前と変わらぬ水質を保つことができていることは地域の誇りである。

●帰省客、市外からの参加者も多い。昨年・一昨年はコロナウイルスにより参加制限をかけることとなったが、地域のイベントとして定着し、住民の皆さんが楽しみにされているだけでなく、イベントに併せて里帰りするなど、いつまでもふるさとを大切にしている心が育まれている。



さくらまつり 惣菜の販

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

●地区住民の主体性を重視する観点から、地域の意見を取り入れるための機会を設け、意見を引き出す工夫を行っている。反省会終了後には懇親会を実施し、役員相互の理解を深め、事業発展のための思いやアイデアを共有している。

●各実行委員会や公民館運営審議会で総括、問題点や改善点について協議し、次回開催時の改善につなげている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

郷土愛を育み、みんなで話し合い、みんなで参加、みんなで実践し、「地域の夢をかたちに」を基に公民館活動業務を行っている。人と人のつながりを大切にし、新しいことや物を取り入れながらも、地域の歴史や文化・伝統などを大切にしていきたい。



自治振 総会

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

令和5年度からの地域活動センター設置に向け、目指すビジョンを地域住民と協議していく必要がある。過疎化が進む地域にとって活動センターの位置付けは重要である。地区住民の願いをかなえ、地区の活性化を図り、地域の未来を拓いていける、地域活性化の拠点となる地域活動センターを作り上げていきたい。



溪筋公民館

ふるさとを学び、未来へ伝えていく

今治市吉海学習交流館



吉海学習交流館



ふるさと学級 島四国巡拝

公民館の沿革・年表

- ・昭和29年 吉海町公民館開設
- ・昭和42年 吉海町中央公民館新築
- ・昭和55年 大島諸島開発総合センター新築
- ・平成6年 吉海町町民会館新築
- ・平成17年 今治市に合併
吉海開発総合センター、吉海学習交流館となる
- ・平成28年 吉海開発総合センター閉館

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

「ふるさと学級」の様様

令和3年 郷土史跡学習会（島四国巡拝）の様子

吉海町郷土史会会長を講師に迎え、准四国八十八ヶ所霊場である島四国の札所や史跡をめぐり、郷土の歴史や文化を学んだ。

学習終了後には、吉海地区婦人会のご厚意により、昼食（コロナ禍のため会食はせず、お弁当を持ち帰っていた）のお接待を受けた。

1. 都道府県名	愛媛県	3. 公民館対象人口	3192人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	今治市	4. 建物設置年月日	平成6年2月28日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	-
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 783人 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 2490人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 3,261人	合計	6,534人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 2人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人)	<input checked="" type="checkbox"/> 兼任 3人	<input type="checkbox"/> 非常勤 0人 (職員のうち社会教育士の数 0人)	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 合計 5人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 () <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (町の中心部に位置し、こども園、小中学校も近く、利用しやすい。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 吉海認定こども園、吉海小学校、大島中学校、吉海地区自治会、吉海地区婦人会、今治市老人クラブ吉海地区連合会、今治市社会福祉協議会吉海支部、吉海文化協会、今治市				

今治市吉海学習交流館

OPEN 8:30~22:00 H P
TEL 0897-84-4700 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 離島であったため、進学や就職により島の外へ出ていく場合が多い。
- 自分たちが住んでいるふるさとの歴史や文化を学び、郷土愛を育ててほしい。
- 少子高齢化が進む中、こどもたちと地域住民がふれあう機会自体が減ってしまった。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【ふるさと学級（地域資源を生かした取組）】

小学校6年生を対象に、美しい自然や文化遺産に恵まれた郷土の歴史や文化を学び、地域の方々とふれあうことによって郷土を誇り、愛する心とともに、心豊かでたくましい青少年を育てることを目標に活動している。

- 村上海賊が使用していた小早船の櫓漕ぎを体験
- 准四国八十八ヶ所霊場である島四国の札所や史跡の巡拝
- 豊かな自然の中でマリンスポーツやバーベキューなど野外活動体験
- 特産品である大島石の採石場を見学、石割りを体験
- 七草を採取し、七草粥等郷土料理の調理体験

小学校や地元の漁協、郷土史会、婦人会、石材会社など地域の団体から講師を迎えるなど、地域ぐるみでこどもたちの活動を支えている。

少子化により学級生が減少していることから、令和元年度より、同じ大島の宮窪公民館学級である「まちなか探検教室」と一部合同で活動に取り組んでいる。



小早船櫓漕ぎ体験



島四国札所巡拝

3. 取組による成果や効果

ふるさと学級は令和4年度で47期を迎えており、こどもの頃の共通の思い出として多くの学級修了生の心に残っている。現在、大島の中学校は統合により1校となっており、ふるさと学級とまちなか探検教室で共に活動したこどもたちが翌年には同じ中学校のクラスメイトになるため、一足先に知り合うことができよかったという声が多く聞こえてくる。

また、大島地域の成人式は、吉海地区、宮窪地区が合同で吉海学習交流館で行っており、新成人となった多くの学級生が地元の成人式に参加してくれている。ふるさと学級において郷土の歴史や文化の学習を行うことにより、ふるさとへの誇りと感謝の気持ちを育んだ成年たちが、日本中、世界中に羽ばたき、後世にふるさとの良さを伝えていってくれている。



吉海学習交流館前での成人式記念撮影

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 学識経験者や社会教育関係者等で構成される運営協議会を年2回開催
- 利用者アンケートの実施
- 利用者、各団体等からの聞き取り調査の実施

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

人と人や組織と組織のつながりを大切にし、他世代間の交流の機会を図るとともに、高齢者の健康増進や青少年の健全育成、生活文化の伝承と発展に努める。

利用者の声に耳をかたむけ、幅広い世代に気持ち良く施設を利用していただけるように心掛ける。



しめ縄づくり体験

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

コロナ禍により、世間を取り巻く状況が大きく変わってきているが、時代に即した新しい形を模索し、たくさんの地域の方々が利用できるような施設を目指していきたい。



規模を縮小して開催した文化芸能祭

持続可能な地域学校協働活動を求めて

八女市黒木公民館

公民館の沿革・年表

- 昭和47年（1972年）11月 黒木開発センター設立（黒木開発センター内に黒木町中央公民館設置）
- 平成22年2月 一市二町二村合併に伴い八女市黒木公民館として改名
- 平成31年4月 黒木地区地域学校協働活動をスタートする（活動本部を八女市黒木公民館が担う）
- 令和2年2月 福岡県公民館実践交流会で八女市黒木公民館における地域連携活動の実践発表を行う
- 令和3年9月 第43回全国公民館研究大会 第72回九州地区公民館研究大会 第一分科会にて実践発表を行う

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

黒木公民館は、2小1中学校と地域を結ぶパイプ役を担い、公民館の強みを生かした地域学校協働活動を推進している。当館は、学校と地域がWIN = WINの関係を構築していくことを目的に、令和元年度から「学校支援」に「地域づくり」の視点を融合させた地域学校協働活動をスタートさせた。左記の写真は、黒木地区協働活動本部（八女市黒木公民館）が企画する「放課後こども学習支援」活動における「小・中学校サマースクール支援」である。小・中学校サマースクールに学習支援ボランティア人材を派遣し、子ども達の学習支援活動を実施している。ボランティア人材は、地域の教員OBや教職免許取得コースの大学生、地元の中高校生に協力を依頼している。



八女市黒木公民館

サマースクール

1. 都道府県名	福岡県	3. 公民館対象人口	10465人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)	
2. 市区町村名	八女市	4. 建物設置年月日	西暦1972年	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（ <input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ ）					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 880人 <input type="checkbox"/> その他 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 2646人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計		3,526人	
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 4人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人）	<input type="checkbox"/> 兼任 0人 （職員のうち社会教育士の数 0人）	<input type="checkbox"/> 非常勤 0人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 4人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）					
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ ）					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学		
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 自由記述（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター		
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他		

八女市黒木公民館

OPEN 9:00~17:00
TEL 0943-42-9730

HP
SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

少子高齢化が進む中、八女市の人口は減少傾向にあり、家庭と地域の関係が変化しつつある。特に地域の教育力の低下が見られ、学校など教育機関に対する依存度が年々高まる傾向にある。また地域とのつながりが薄れ家庭が孤立したり、地域との交流を通じて学ぶ機会も減少したりしている。地域社会全体で子どもの健全育成が行えるようにするため、家庭や地域の教育力の向上を実現する取組が必要である。

そこで黒木地区では、令和元年度から地域学校協働活動に取り組み、「学社連携」「学社融合」の実現に向け、地域づくりの拠点である公民館が「学校」と「地域」のコーディネイトをしている。これまで公民館が培ってきた強みである「地域のひと・もの・ことへの対応力」や「公民館の三つの機能(つどい・まなぶ・つなげる)」が、学校と地域をつないでいく原動力となると考える。

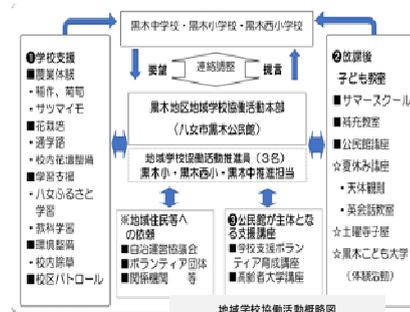
2. 取組内容(力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など)

【地域と学校をつなぐ公立公民館の取組(地域学校協働活動)】

地域と学校が連携・協働しながら、地域全体で子どもの成長を支え、地域を創生し元気にする活動として「地域学校協働活動事業」を八女市黒木公民館が中核となって推進している。また、黒木中学校区コミュニティスクール学校運営協議会と連携し、持続可能な体制を構築していくことを目的としている。具体的な取組内容は、学校支援と放課後学習支援活動及び体験活動である。

学校支援では、公民館が地域と学校を繋ぐパイプ役を担い、幅広い地域住民の参画を実現している。令和3年度は、地域と学校が関わり合い、高め合いながら活性化を図る公民館講座(高齢者講座のアウトリーチ活動、学校支援につながる公民館講座)と推進員的確なコーディネイトによる学校支援活動を展開することができた。地域学校協働活動も3年次を迎え、学校の教職員と地域活動推進員・支援スタッフの関係も更に良好になり、開かれた学校としてだけでなく、学校の働き方改革にも寄与することができている。徐々に学校支援スタッフ組織が整いつつある。本年度の大きな取組の成果として、子ども達の安心・安全な登下校のために「黒木地区子ども見守り隊」が結成できた。現在、12名の協力者による見守り隊が作られている。

放課後等学習支援活動及び体験活動では、小・中学校のサマースクール、黒木西小学校と黒木中学校の放課後補充教室、関連活動としての公民館講座(親子天体観測会、親子英会話体験、土曜寺子屋等)・黒木地区青少年体験活動(黒木こども大学)を実施し、学力補完を目指した支援を行っている。放課後補充教室については、特に中学校において3年生への受験対策として効果を上げている。小学校は、6年生を対象に中学校との接続として確かな学力定着に貢献した。



黒木地区子ども見守り隊の活動

3. 取組による成果や効果

地域学校協働活動推進の効果としては、公民館がパイプ役となることで、地域の多様な経験や技能を持つ人材や公民館利用団体等と連携した支援体制づくりの基盤ができた。また、公民館で学校支援につながる分野の講座を開催することで、地域ボランティアの志をもった人材の発掘と人材育成を図ることもできた。黒木地区地域活動本部は、実務を重んじた体制としていることで、地域と学校をつなぐ太くて強いパイプが形成され、理念から実践へと進むスムーズな流れができつつある。黒木地区地域学校協働活動は、公民館を学びの拠点とし、住民が当事者意識をもって地域のことを考え課題解決していく「持続可能な地域社会づくり」をめざした取組として評価できると考える。



高齢者講座アウトリーチ活動

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

持続可能な地域学校協働活動として継続するために、以下のアプローチを視点に検証・改善を行う。

- ①【とらえる】アプローチ…学校・地域の現状や願いを把握する。
- ②【見通す】アプローチ…学校運営協議会と連携し、ゴールとなる子どもの育ちを意図した活動に練り上げていく。
- ③【巻き込む】アプローチ…公民館講座等の工夫改善…より多くの地域住民に学校への興味関心を持たせる。地域住民が子どもと関わりを持つ場の設定(子どもの出番・役割・立場づくり)

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

公立公民館は様々な分野(学校支援・協働活動本部としての拠点・ボランティアセンター機能・人材育成・学習の共同開催・地域行事とのコラボ・講座生との交流など)で地域学校協働活動に関わっていくことができると考える。地域や公民館の状況によって協働・連携できることは違ってくるが、学校・地域・公立公民館それぞれの状況の相互理解を図ることが重要と考える。八女市黒木公民館を含め公立公民館8館は全面的に地域学校協働活動を支援していくことを確認し、公民館と学校がお互いに「知り合う」取組を実践し始めている。具体的には、講座等を通じて、公民館が子ども達や教職員と関わることで、互いに顔を見合わせることからスタートさせようと努めている。



親子天体観測教室(公民館講座)

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- 各小・中学校からの支援要請に対応できる地域人材ネットワークの構築
- 多様な世代に対応した公民館講座の工夫
- 地域・学校を活性化させるための若者の参画(高校生・大学生を積極的に活動に巻き込む)



黒木地区地域学校協働活動本部

みんなの笑顔をつくりだす 種まきの公民館

唐津市呼子公民館



子ども教室釣り体験・子どもカフェ



小川島でのリフレッシュふれあい教室

公民館の沿革・年表

- 昭和41年 呼子社会体育館竣工
- 平成19年 唐津市公民館連合会へ加入
- 平成19年 放課後子ども教室推進事業開設
- 平成25年 リフレッシュふれあい教室開講
- 平成27年 公民館で婦人会による子どもカフェ始まる
- 令和元年 新呼子公民館竣工
- 令和3年 小川小中学校への出前教室開始
- 令和4年 第73回九州地区公民館研究大会鹿児島大会分科会にて事例発表

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

・呼子の子ども教室は唐津市公民館連合会加入と同時に始まった。地域の人・もの・ことを活動テーマに年間計画を立てている。婦人会との繋がりも強く、子どもカフェは唐津市でいち早く立ち上げられた。地域の各種団体やボランティアの支援を受けながら活動している。最近では小学校との連携も深まり、学校職員の参加も多くなっている。

・小川島へのお出前教室で行っている「リフレッシュふれあい教室」は毎回20～30名の高齢者が参加し、楽しい笑顔の時間となっている。90才代の参加者もあり、毎回楽しみにされている。区長さんとの事前の調整を行いながら、小川島の高齢者に配慮した活動内容を考えている。「またきてね、またあえたね」の言葉は感動である。

1. 都道府県名	佐賀県	3. 公民館対象人口	4,000人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	唐津市	4. 建物設置年月日	令和元年5月11日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（ <input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2200人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 6000人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 300人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 800人（ <input type="checkbox"/> 図書館利用）				合計 9,300人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 2人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人） 合計 2人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> 自由記述（ <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ））				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 （呼子小学校、小川小中学校、海青中学校、NPO法人K A N N E、九州電力、区長会、青少年育成協議会、民生・児童委員会、保護司会、婦人会、近代図書館、波戸岬少年自然の家、未盧館）				

唐津市呼子公民館

OPEN 8:30 H P
 TEL 0955-82-3033 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- ・新公民館が旧呼子中学校跡地に移転されたが、従来の利用状況に変化は見られない。公民館の立地という視点からも、いくつかの地区から見ると遠方にある、交通の便もあまりよくないという問題も指摘される。また、離島を含む町でありながら、島の住民の公民館利用という観点に立っていない。
- ・旧公民館は小学校の近隣にあり、放課後の児童も集まりやすいところであった。しかし、新公民館は小学校から遠方にあり、放課後に利用する（利用できる）公民館となっていない。婦人会を中心に子どもたちを支援する体制は整っている。（子ども食堂＝子どもカフェと呼称）

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【公民館を飛び出して】 ～多くの住民と広く繋がりが持てるように～

- ・上記の課題から遠方地域の高齢者や子どもたち（島の子どもたちも）が公民館をもっと身近に感じ、多くの住民と繋がりを広げ、深めることで笑顔いっぱい公民館になるような取組を行った。

【公民館を飛び出した出前教室・出前講座】

- ・遠方地区の小友地区と小川島の高齢者を対象に年3回～7回の出前教室を「リフレッシュふれあい教室」として行っている。参加者は毎回20名～30名。内容は講話、健康教室、レクリエーション、お絵描き、工作、高齢者の人権教育等幅広い。地区の区長との事前打合せを行い、地区の行事に組み込んでもらっている。

- ・新公民館となり放課後に公民館に移動することができない子どもたちのために火曜と水曜日の放課後、公民館職員が小学校に足を運び、「出前教室」として教室を行っている。課題としては、授業終了後から教室の開始時間までの子どもたちの見守り時間の確保である。待機時間は公民館職員が早めに行き、児童と宿題等を進めている。（主な活動は土曜に公民館で行っている）

- ・離島（小川島）の子どもたちへ出前教室を行っている。離島の小中学校に陸部の子どもたちと同じ体験や学びをしてもらうために年3回の出前教室を公民館職員で行っている。全職員、全児童生徒と関わることのできる貴重な時間となっている。

- ・子ども教室は各種団体との連携を強化し子どもの見守りに留まらず、地域の子どもの絆作りにもなっている。また婦人会とタイアップした「子どもカフェ」も定着している。



小川島リフレッシュふれあい教



子ども教室・子どもカフェ（餅つき）

3. 取組による成果や効果

- ・公民館の「出前教室」は、子どもたちや高齢者との新たな絆を創り出せている。教育は機会均等であるべきであり、離島・陸部・老若男女への手だてを講じなければならない。
- ・児童の参加が多くなったことも成果である。学校と公民館との連携により放課後の子どもたちの意味ある居場所作りとなっている。
- ・小川島への「出前教室」においても児童生徒、学校関係者からずっと続けてほしいという声が届いている。
- ・公民館がコーディネートの役割を果たすことで、高齢者、子ども、成人の「笑顔作り」を目標とした公民館に近づいている。



小川小中学校への出前教室（都道府県ビンゴ）

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・年4回の公民館運営審議会において、年間を通した計画や事後の報告・検証を行なう中で、課題を見つけている。
- ・地域学校協働活動（子ども教室）においては、協働サポーターの力量向上のための研修や特につながりのある婦人会との定期的な意見交換会も行っている。また、地域学校協働活動サポーターとの定期的な打合せや相談を館長、事務員とでおこなっている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- ・基本は「みんなの公民館」と「笑顔作り」みんなとは赤ちゃんから高齢者まで。公民館に遠い人も島の人も同じ呼子の住人であることに変わりはない。そのためにはこれまで同様に学校との連携、各種団体との連携を深めることが大切である。公民館を飛び出した「出前教室」も定着させていきたい。公民館は「楽しいところ」「元気になるところ」ということを多くの人に発信したい。



公民館利用者と公民館花壇の手入れ

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- ・みんなの公民館・・・公民館に来る人、来れる人。しかし、来たくても来られないという人も存在する。そのような住民のために公民館は何を考え何ができるのかを常に考えている。「出前」はその中の一つである。地域コミュニティの中核にならなければならないのはやはり公民館だと思う。まずは、小中学校へも足を運び、学校を巻き込み、学校と共に、学校の運営の中に公民館という文字が明確になるよう連携していきたい。



水光呼子港まつり参加・子どもダンスの子どもたち

公民館に地域の“いま”を実装する

長崎市北公民館



親子向け音楽ワークショップ
「親子でシャル・ウィ・ミュージック」



親子向け手打ち蕎麦体験

公民館の沿革・年表

- 昭和44年 長崎市住吉町に開館
- 平成3年 千歳町の複合施設チトセピア内へ新築移転
- 昭和48年・平成12年 優良公民館として文部大臣表彰
- 令和2年 指定管理者制度導入
YouTubeチャンネル開設
全国公民館報コンクール審査員賞受賞
- 令和3年 全国公民館インターネット活用コンクール金賞受賞
- 令和4年 社会教育主事講習事例発表
文科省HP「公民館におけるデジタル活用の取組」掲載

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

長崎市北部の大型館として市内最大の利用者数を誇る北公民館は令和2年度より指定管理者制を導入、民間運営を行っている。中教審答申や市総合計画をふまえ、「誰ひとり取り残さない共生社会の実現に向けて、市民が生涯を通じて生き生きと学び、文化芸術を楽しみ、交流するコミュニティの拠点」を目指し、併設する公共ホールとの利用者の循環をねらった運営を行う。また、紙媒体とweb媒体を併用した広報展開は全国より注目を集め、コロナ禍においても新規講座を対面と配信を併用して実施し、生涯学習の歩みを止めることはなかった。

1. 都道府県名	長崎県	3. 公民館対象人口	52000人	5. 来館者のインターネット接続環境	有線・無線の両方
2. 市区町村名	長崎市	4. 建物設置年月日	昭和44年11月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	600台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者（有限会社ステージサービス） <input type="checkbox"/> その他（ ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 6000人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 27000人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 81000人（図書室利用を含む）				合計 114,000人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 10人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 1人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 4人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人） 合計 15人				
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input checked="" type="checkbox"/> その他（委託料と利用料金の併用制）				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ ）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他（文化芸術（併設されたホールとの連携事業））				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他（公共ホール（長崎市チトセピアホール）を併設） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（公民館と公共ホールの館長を兼任することで、文化芸術関連の講座も多く開催）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 （長崎大学 活水女子大学 長崎純心大学 長崎県立大学 公民館区青少年育成連絡協議会（館長が顧問を務める） 館区小中学校 長崎市恐竜博物館 長崎県音楽連盟 日本銀行長崎支店等）				

長崎市北公民館

OPEN 9:00~21:00

H P

<https://nnclc.net/>

T E L 095-845-6362

SNS

https://www.youtube.com/channel/UCshuFnSIAGU2r_DIP782MhQ





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

現在の北公民館では自主学習グループを中心に盛んに活動が行われている一方で年齢層が高く固定化の傾向にあり、将来的に利用者が減少し活動も先細りになるのではないかと問題意識を抱えていた。その一方でホームページのアクセス解析や市民アンケートを通して、子育て世代とその子どもたちが集い、学び、交流する場が求められていることがわかった。そこで、これらの潜在利用者層に向けた魅力的な講座を企画し適切に広報を行うことで新たな利用者層の開拓に繋げる、併せて、講座を通して地域の専門団体や人材と協働することで、多様な世代が行き交う公民館として地域のハブとして機能することを目指した。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【子育て層向けの講座の開講】

令和2年度より、ホールで活動していた県音楽連盟所属の音楽家によるワークショップや地域の飲食店の店主が講師の料理教室、プログラミング教室、託児サービス付き育児講座等を開講し、子どもから大人まで楽しめる公民館運営に取り組み続けている。

【冬のオムニバス講座「北公民館の冬じたく」】

令和3年の冬には親子向けのコンセプトを継承発展させたオムニバス講座「北公民館の冬じたく」を開講。「地域の“いま”の抱える社会的課題や知的好奇心を反映させた、地域の専門人材による10の講座」をコンセプトに実施した。

■時代に即した講座の企画

日本銀行長崎支店の金融教育講座や、ジェンダーの観点からの歴史講座、地産地消の料理講座、地域の書店と連携し図書室の資料を活用した読書講座などを開講した。

■広報ツールの工夫

小学校とのネットワークを活用しリーフレットを近隣校に配布、同時にSNSでも告知を行い、紙媒体とweb、互いの強みを活かした広報展開を行った。

■ICTの活用

コロナ禍にあっても、市によって整備されたWi-Fi環境を活用しオンラインで講座を実施した。



託児サービス付き育児講座の開講



冬の講座は対面・オンラインを併用して開催

3. 取組による成果や効果

【冬のオムニバス講座「北公民館の冬じたく」】

- ・280組480人の受講申込、うち72%は30～40代、92%はインターネットからの応募。
- ・対面とオンライン併せて、のべ400人が受講、アンケートでも好評価が多く寄せられた。
- ・コロナ禍にあっても対面とオンラインの併用により、企画した全講座を実施した。
- ・魅力的な講座の立ち上げ、新規利用者層の開拓、次世代の公民館を担う講師の発掘、オンライン開催のノウハウの蓄積などに一定の成果が認められた。
- ・本講座における講座企画から広報展開、そして活動のアーカイブ化については、社会教育主事講習や（一財）地域創造、長崎県公民館連合会の研修会などで事例発表を行ったほか、地元メディアでも大きく取り上げられた。



社会教育主事講習で事例発表

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

社会教育有識者、地域のPTA関係者などで構成される運営審議会を毎年開催し、コロナ禍においても書面開催を通して絶えず検証を続けた。加えて、館長が、研修会及び大学において事例発表や講義を行っており、自館の取り組みのアーカイブと総括、理論化を継続的に行い、再び実践へとフィードバックさせている。また利用者アンケートの実施や長崎大学の蓄積型学習で毎年受け入れている学生にカスタマーチェックを行ってもらい、利用者目線に立った公民館づくりに反映させている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

「公民館に地域の“いま”を実装する」、すなわち、現代的、社会的な課題や知的好奇心を反映させた、時代に即した事業を地域の専門人材と共に行っていくことでより魅力的で施設になると思います。そのためにも、生涯にわたって学び続けることの大事さを、同時代の感性に訴求するよう伝え方を工夫し発信し続けていく、その不易と流行のバランスが肝心だと考えています。



街歩き歴史講座で地域の魅力再発見

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

講座企画や広報手段の革新、ICTの活用などを通して、潜在的利用者へ公民館の魅力が届けることができた。今後もアップデートを続け、より広い世代に親しまれる公民館を目指し利用者拡大に努めたい。同時にコロナ禍で培ったノウハウを活用し研修会等をオンラインで開催することで、他の公民館と積極的に知見を共有し合い、新しい時代の公民館のあり方を模索していきたい。



公民館職員を対象としたオンライン研修会を主催

人や歴史や地域をつなぎ、“らしさ”探し

玉名市横島町公民館



令和4年度 社会教育×SDGs推進部会

公民館の沿革・年表

- ・昭和48年 横島町中央公民館完成
- ・平成18年 合併により玉名市横島町公民館に名称変更
- ・平成19年 玉名市横島町公民館建替・支所と複合化
- ・令和2年 コロナ禍でもできる取組を模索。
- ・令和2年 動画配信の取組が生涯学習分科会で紹介
公民館でのICT活用を進める。
- ・令和3年 市長部局や教育委員会の垣根を越え
社会教育×SDGs推進部会設置
- ・令和3年 学官民連携による地域の歴史伝承事業開始

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

横島町公民館では横島地区の住民のため、数十年続く町民行事を多数開催している。しかしコロナ禍による影響で多くの行事が中止となった。そんな中でもできる取り組みはないかと模索。玉名市の各公民館が連携し、コロナ禍でも社会教育の推進を止めないよう動画配信などに取り組んだ。また社会教育とSDGsをコラボした推進部会を立ち上げ、市職員に社会教育とSDGsについて広く知ってもらいつつ、部局を越えた連携による地域課題解決を目指し取り組んでいる。

1. 都道府県名	熊本県	3. 公民館対象人口	4966人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	玉名市	4. 建物設置年月日	平成19年3月26日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	256台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会	<input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会)	<input type="checkbox"/> その他 ()		
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 99人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 18192人	<input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計 18,291人	
	<input type="checkbox"/> その他 0人	()			
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 2人	<input type="checkbox"/> 兼任 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	
	(職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人)		(職員のうち社会教育士の数 1人)		合計 3人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (参加者へのアンケートや講師等の意見を基に、関係者内で振り返り・検証・改善を実施)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援	<input type="checkbox"/> 家庭教育支援	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動	<input type="checkbox"/> 子ども食堂	
	<input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画	<input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援	<input type="checkbox"/> 障害者の学び支援	
	<input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用	<input checked="" type="checkbox"/> 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動	<input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール	
	<input type="checkbox"/> ボランティア養成	<input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (SDGs)				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設	<input type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター	
		<input checked="" type="checkbox"/> その他 (市役所支所との複合施設)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (公民館区域に小学校が1校のみであるため、講座実施など密に連携を図っている。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校	<input type="checkbox"/> 高校	<input type="checkbox"/> 大学	
	<input type="checkbox"/> 企業	<input type="checkbox"/> NPO	<input checked="" type="checkbox"/> 各種団体	<input type="checkbox"/> 行政機関	
	<input type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input checked="" type="checkbox"/> その他	
	(玉名市立横島小学校、横島校区まちづくり委員会、横島町文化財保存顕彰会、玉名市公民館横島支館など)				

玉名市横島町公民館

OPEN 9:00~22:00

H P <https://www.city.tamana.lg.jp/q/aview/429/11086.html>

TEL 0968-84-2122

SNS 公民館独自のものはなし (市公式のみ)





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

横島町公民館のこれまでの公民館講座の内容は、**趣味・教養に関する講座が中心**であった。それが**コロナ禍により一変し**、「つどう、まなぶ、むすぶ」という公民館の方針は継続できなくなり、多くの受講者を集めるような講座の開講は困難となった。

コロナ禍でも社会教育活動が続けるにはどうすればよいか玉名市内の公民館同士で検討。横島町公民館では、**ICT活用**のほか、従来通りの多くの受講者を集める**趣味・教養講座**から、コロナ禍でも開催できる**規模・手法での人材育成の講座（人づくり講座）**へシフトすることとした。人材育成は以前から課題となっており、**コロナ禍を機に新規事業を企画**し取り組むこととした。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

●学・官・民連携による【朗読劇・よさこいクラブ（多世代間交流活動）】

横島町は400年にわたる**干拓工事により開かれた町**である。干拓史跡は国指定重要文化財であり、干拓史は住民にとってのアイデンティティとなっている。しかし、人口減少や高齢化などにより**地域の歴史伝承が課題**であった。

そのような中、地域団体から地域の子どもへ歴史伝承をする機会がないかと相談があり、公民館が小学校と地域団体をつなぎ、**クラブ活動の時間を利用した「地域の歴史を学ぶクラブ」**を令和3年度から公民館でスタートさせた。地域団体には過去に公民館で朗読劇を学んだ者や体育教諭だった者などがおりそれらの特技を活かし、地域の歴史物語を用いた朗読劇と民謡をアレンジしたBGMでのヨサコイ踊りの2つを中心としたクラブ活動を行った。

●公民館による部局を越えたつながり作り

【社会教育×SDGs推進部会（関係行政機関等との緊密な連絡・協力の促進）】

地域課題解決のためには、公民館と**市長部局との連携**が不可欠である。しかし、これまで十分な連携ができていなかったこと、SDGsの目標達成への取組を推進していくことは本公民館の課題であった。それらの課題の解決のため、令和3年度から**「社会教育×SDGs推進部会」を設置**。庁内の部局から推薦された職員を中心に、公民館の持つICTや教育的事業のノウハウなどを活用し、連携した**地域課題解決の企画にチャレンジ**している。



地域団体の朗読劇指導



部会員が配信動画を作成

3. 取組による成果や効果

【各活動によるの成果・効果（朗読劇・よさこいクラブ）】

- 児童が公民館に来館する流れができ、**子供の頃から公民館を利用する機会**を生んだ。
- 小学校や児童と地域住民との関係が深まった。●題材に地域の歴史に関するものを扱うことで**地域愛を育む機会**になった。●**高齢者の社会教育活動への参画**を推進することができた。

【各活動によるの成果・効果（社会教育×SDGs推進部会）】

- 部会を通してSDGsに職員が**関心を持つ**ことができた。●市の様々な課題と取組を知るとともに、職員に課題に対する意識の変化が生まれた。●参加した職員が課題に対して**部局を越え自由に楽しく対話**をすることの大切さを理解できた。



オフサイトのつながり創出

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

●朗読劇・よさこいクラブ

講師役を務める地域団体と、クラブ後に定期的な会議を行い、改善点や展望などを話し合っている。

●社会教育×SDGs推進部会

公民館職員による活動後の振り返りを毎回行うとともに、1年間の活動終了後は、市長・教育長等への報告会を開催している。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

地域のための公民館であることを念頭に、地域課題や住民ニーズの把握にアンテナを張ることを大切にしている。社会教育の分野は本当に範囲が広く、公民館だけではとてもカバーしきれない。だからこそ、市長部局やその他各団体・個人と関係をつくり、多くの意見を取り入れながら、地域課題に対して関係者みんなで、横島町らしい正解を探ることが大切だと考えている。



海から生まれた町、横島

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

人口減少が進む横島町において、よりよい地域づくりのためには、**住民のシビックプライド**が重要である。幸い、干拓の歴史を持つ横島町の住民には、自分たちがこの土地を作り上げてきたという**自負心が脈絡と**続いている。住民のシビックプライドを一層育てていくためにも、**地域を知る、地域を語る、地域に参画する**、そのような場として公民館が地域で注目されるよう取り組んでいく。



干拓という独自の歴史を持つ

今、木のぬくもりの中で・・・ 出会い・ふれあい・学びあい

大分市大分東部公民館



公民館の沿革・年表

- 昭和62年 九州唯一の全国モデル木造施設（9か所）として、「グリーンカルチャーセンター」として開館
- 平成元年 市民体育館 増設
- 平成2年 市民運動場 増設
- 平成23年 「大分東部公民館」に名称変更
- 平成29年 大会議室 増設

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

全国9ヶ所の国のモデル木造建設事業によって県産材普及のため建設され、九州唯一の木造建築の生涯学習施設である。杉、松、ひのきなどをふんだんに使用し、ロビー上部は伝統的な民家小屋に見られる扱首(さす)構造を取り入れている。木造建築の吹き抜けを活かしたロビーコンサートや、コケ玉づくり教室や親子キャンプ教室など、新型コロナウイルス感染症対策の中、令和3年度は28教室を実施。令和3年度は、来館者数75,421人（貸館利用者数63,085人、主催事業参加者1,850人等）であり、貸館利用者は大分市随一。

1. 都道府県名	大分県	3. 公民館対象人口	44,000人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)	
2. 市区町村名	大分市	4. 建物設置年月日	昭和62年5月11日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	15台	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (○○地区まちづくり協議会) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (市民部市民協働推進課)					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1850人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 63085人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()			合計	64,935人	
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 10人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 0人)			合計	10人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()					
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学		
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (市民体育館・市民運動場)) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (全国9か所のモデル木造施設として建設された当時九州唯一の木造生涯学習施設)					
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (城東原川地区自治会連合会、城東原川地区社会教育関係団体連絡協議会、城東原川地区人権教育推進協議会、NPO法人スマートライフネットワーク、大分県キャンプ協会)					

大分市大分東部公民館

OPEN 9:00~22:00
TEL 097-556-8818

HP <https://www.manabi-oita.jp/institutions/detail/13>
SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

大分市では平成29年に大分東部地域ビジョン会議を設置し、平成30年7月大分東部地域まちづくりビジョンとして、「緑豊かな東部地区 子どもに高齢者にやさしいまちづくり」として、①安心安全に暮らせるまちづくり・②地域コミュニティの活性化・③子育てしやすい地域づくりが必要であると提言をいただいた。今後少子高齢化が進み、地域の人口減少が予想される中、核家族で孤立しがちな家庭や放課後の居場所が少ない子どもへの支援・独居化が進む高齢者対策として、小中学校との学社連携や地域住民である児童民生委員や校区によって運営される校区公民館、子育てサロン等福祉分野との協働による取組が求められる。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

大分東部公民館は、地域の社会教育とまちづくりの核として、大分東部地域まちづくりビジョン提言の実現に向け取り組んでいる。①安心安全なまちづくりにおいては、津波等では洪水が予想されるため、防災教育の充実を図るべく、親子でハザードマップを確認し、実際の避難や災害時の食事等体験する「親子防災キャンプ」を実施している。②子どもに高齢者に優しいまちづくりとして、主催講座で子ども対象講座（プログラミング教室等）や高齢者対象教室（はつらつ健康体操等）の増加を図るとともに、各校区の老人会支援・放課後の居場所事業支援を実施している。③地域での子育て支援としては、「子育ての集い」や「おおいた家庭の日推進事業」を地域の子育て団体や児童民生委員・市福祉部局所管子どもルーム等と協働し、平成29年から市内で先駆けて実施している。

また、木材や木造建築物のよさの普及促進を目的とした、「グリーンカルチャーセンター」として開館した沿革に鑑み、コケ玉教室や親子キャンプ入門、園芸教室など自然体験や緑化推進事業を行ってきたほか、小学校でのプログラミング導入を受け学社連携事業「親子プログラミング教室」を開催し、プログラミング的思考を親子で学んでいただいたり、NPOと協働で開催した高齢者を想定した認知症予防のための「脳の健康教室」や、安心安全にスマホを利活用し、防災や電子申請等利用いただくための講座など、時代にニーズの応える取組も実施している。



親子防災キャンプ



城東原川子育ての集い

3. 取組による成果や効果

安心安全なまちづくりの取組として、実施した「親子防災キャンプ」は、事業前半は、本年1月に震度5強の地震が大分市を襲ったこともあり、非常時の対応について居住地域の防災マップを見ながら洪水氾濫時の対応について考えた。共働きで核家族が多い子育て家庭に好評であった。

また、高齢者対象の「脳の健康教室」は、実施前後でテストによる評価を取り入れ改善を確認できたり、独居高齢者が新しい人間関係を構築でき生活に変化が生まれたり地域課題の解決に寄与する結果が生まれている。木造建築を活かしたロビーコンサートなど含め、本館の強みを活かした取組が地域課題解決に寄与している。



空缶で炊飯 ～親子防災キャンプ

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

取組の検証は、施設利用者・主催講座受講者アンケートや施設予約抽選会でのヒヤリング、投書箱等でのご意見をもとに実施しており、おおむね好評をいただいている。今後は、この事業評価を客観視できる数値化の導入を行うとともに、地域小中学校への児童・生徒・保護者へのニーズ調査、地域でのヒヤリング増を計画している。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

本市では平成21年、公民館の管理・運営業務を市民部に移管し、公民館のまちづくり支援機能を強化し、社会教育推進とまちづくり支援の2つの柱を持つこととなった。これまで、学んだものを地域で生かし、そこから新たな学びに出会う「学びの循環」を行うことで、個人としての生涯学習振興と地域の課題解決に寄与してきたが、今後もこの循環を支援し、地域課題の解決を支援していきたい。



学びの循環（概念図）

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

「親子プログラミング教室」「脳の健康教室」など地域ニーズや時代の変化に沿った新たな学びを地域住民に提供することや、大分東部地域まちづくりビジョン提言の実現に向け取り組むとともに、地域での人権・同和教育のさらなる推進など、不易と流行を見据え取り組み、10年後50年後の地域づくりに役立つ公民館を目指す。



人権ツリーに願いを短冊で

楽しみがいっぱい！みんなの笑顔が集まる公民館

高千穂町中央公民館



公民館の沿革・年表

- ・昭和47年 高千穂町中央公民館
- ・昭和47年 勤労青年学級を開設（教育委員会）
- ・昭和48年 中央公民館 学級・講座の開設
- ・昭和49年 町立図書館併設
- ・平成4年 高千穂町生涯学習推進会議設置

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

本公民館では、社会教育指導員を2名配置し、**生涯学習**と**読書活動**の**推進**をしている。

● **ボックスギャラリー**展示の様様。町民や町内の**団体**などが制作した**作品**を**展示**することができる。1ヶ月間無料で貸出している。

● 公民館講座「**絵本教室**」の様様。本町は平成16年4月に**日本で初めて家族読書条例**を制定。**読書の推進**や、**読み聞かせ活動のボランティアの育成**を実施している。

1. 都道府県名	宮崎県	3. 公民館対象人口	11210人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し	
2. 市区町村名	高千穂町	4. 建物設置年月日	昭和47年5月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（〇〇地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ ）					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 352人 <input type="checkbox"/> その他 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 4033人	<input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計	4,385人	
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人	<input checked="" type="checkbox"/> 兼任 2人	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 6人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 9人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）					
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ ）					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学		
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 自由記述（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター		
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> よみよみネット <input checked="" type="checkbox"/> 高千穂町生涯学習推進会議	

高千穂町中央公民館

OPEN 9:00~22:00 H P
TEL 0982-72-7219 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 昔から地域の繋がりが強い本町でも、過疎化が進む中、人と人との交流が希薄になり、コロナ禍でそれがさらに加速しつつある。自治公民館に加入しない世帯等も増えてきている。そのような中、本公民館では、「**生涯学習講座**」の開設により、それぞれの世代の学びを支援しつつ、**地域住民の交流の場を提供**している。
- また、近年、子ども達の読書離れ、文字離れの傾向が大きくなっており、学力の低下やこころの成長に影響を及ぼしている現状を踏まえ、読書の持つ教育的効果を再認識するとともに、**読書を通じて家族の絆を深めて**ほしいとの願いから、読み聞かせ活動に力を入れ、読書活動の推進を図っている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【楽しく学んで、心豊かに未来にきらめく！生涯学習講座（取組全体）】

- 町民の皆さんが楽しく学べるをモットーに、次のような生涯学習講座を開設している。
- 「**公民館講座**」…町民の生涯学習の推進を目的に、毎年、前期と後期で開設している。令和3年度は全15講座を開設し、延べ316名が参加した。参加者は、60代から70代女性の方が多いため、今年度はさまざまな世代や男性の方にも参加していただける講座を開設する。さらに、**県立博物館と連携**し、移動博物館「どこでも博物館in高千穂」などの企画では、「図書館まつり」と同日開催し、**親子の学びの場**となった（196名来場）。
- 「**知って得する暮らしの講座**」…町民の暮らしに役に立つ学びの提供を目的に、令和3年度より開始した取り組み。令和3年度は、健康講座（1回）・防災講座（1回）を開催。参加料は無料としている。
- 「**出前講座**」…平日開催の公民館講座に参加できない方も多いため、町内の団体やグループの学習に公民館講座の講師を派遣している取り組み。講師謝金を中央公民館で負担している。
- 「**子ども講座**」…子ども達の学習の場と交流の場の提供を目的に、毎年夏休み中に開設。令和3年度は3講座を開設（こねこね石鹸をつくろう！、牛乳パックで車を作ろう！、4コマまんがを書こう！）。
- 「**中央公民館ボックスギャラリー**」…町民の皆さんが制作した作品などを多くの方に鑑賞できるように、中央公民館ロビーに設置したボックスに月替わりで作品を展示する取り組み。令和3年度は、24の個人・団体の作品を展示した。



フラダンス教室



おはなし会

【楽しく読んで、心豊かに未来にきらめく！読み聞かせ活動（子育て支援・家庭教育支援）】

高千穂町は、「家族読書条例」を制定しており、町をあげて読書活動の推進を図っており、その中でも読み聞かせ活動には力を入れている。中央公民館では、毎月**読み聞かせ会**や**絵本相談の実施**するとともに、「**家族読書だより**」を発行している。また、町内の読み聞かせグループのネットワーク組織「よみよみネット」と連携し、保育施設や小・中学校、子育て支援センター、老人ホーム、障害者就労支援施設を訪問したり、交流センターなどにおいて、読み聞かせ活動を行っている。

3. 取組による成果や効果

【各活動によるの成果・効果（楽しく学んで、心豊かに未来にきらめく！生涯学習講座）】

- 参加者からは、常に**次の開講を期待する声**が上っており、最近増加している**移住者との交流の場**になっている。
- 郷土史や史跡を学ぶ「**里歩き教室**」や「**古文書教室**」は、参加希望者も多く、**本町の歴史・文化の継承**に大きく寄与している。
- 「**知って得する講座**」は、暮らしに役に立つ話を無料で聞けることから、**開設継続の要望**が多数あった。
- 「**子ども講座**」は、**子ども達の創作活動のきっかけ**にもなり、**親子で楽しめる場**にもなっている。
- 「**中央公民館ボックスギャラリー**」は、出展者の作品制作意欲の向上に繋がっていると同時に、鑑賞された方からは「自分も作ってみたい」との声が聞かれるなど、**町民の創作活動の推進**に繋がっている。

【各活動によるの成果・効果（楽しく読んで、心豊かに未来にきらめく！読み聞かせ活動）】

- 読み聞かせ活動や啓発をさまざまな場所で定期的に行っていることで、**読書に興味・関心がある子ども**が増えているとともに、家庭での読み聞かせも普及しており、**温かい家庭環境づくり**にも繋がっている。



古文書講座

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 本町には、生涯学習を推進するため、「高千穂町生涯学習推進会議」を毎年開催し、**生涯学習の推進に繋がる取組**を協議している。また、社会教育委員会、図書館協議会、公民館運営審議会においても、**町民のニーズに応えた効果的な生涯学習の在り方**を有識者や関係団体の方々と交えて協議している。
- 町内の読み聞かせグループのネットワーク組織「よみよみネット」の会議を定期的に行い、効果的な読み聞かせ活動について協議している。また、読み聞かせの仕方などを学ぶ読み聞かせ研修なども積極的に行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- 公民館講座については、楽しみにしている町民の方も多く、常に**町民のニーズを把握**しながら内容を考えている。
- 公民館を訪れることを楽しみにしている町民の方も多く、職員も「**楽しく触れ合う**」ことをモットーにしている。
- 過疎地域であって町民の学ぶ場や発表の場が少ないため、**公民館で企画して学ぶ場や発表の場の提供**していきたいと考えている。
- 子ども達の豊かな心を育む取組**を積極的に継続して行っていきたいと考えている。



ガーデニング教室

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- 町民の**ニーズに応えた講座**の開設や**町民の皆さんが寄りやすい公民館**にしていきたい。
- 来館者や講座の参加者には一人暮らしの高齢者が多く、また、読み聞かせ会には転勤して来られた母子などが多い。そのような方々が、地域で孤立せず**人とつながりやすい場所**にしていきたい。
- スポーツが苦手な子どもたちも、スポーツ以外で夢中になれるものを発見できる**きっかけづくり**をしていきたい。



夏休み子ども講座

人がつながる！世界とつながる！共生の町 山川 指宿市立山川校区公民館



異文化交流会



プログラミング教室

公民館の沿革・年表

平成18年1月 指宿市，山川町，開間町の1市2町の合併により「新指宿市」が誕生。

平成18年2月 山川・徳光校区公民館を山川文化ホール内に設置。

平成24年5月 徳光校区公民館が分離し，山川校区公民館が山川文化ホール内に単独設置となる。

令和2年4月 山川小，大成小，徳光小，利永小の4校が統合し，「新山川小」が誕生。

令和2年7月 山川支所が山川文化ホール2階へ移転する。

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

異文化交流会

指宿在住のベトナム人との交流を通じ，市民の国際感覚意識を高めるとともにベトナム人へ日本の文化や指宿の良さを理解してもらい相互交流を図ることを目的に実施。

プログラミング教室

校区の小学生を対象に，小学校で必修化になったプログラミング学習を実施。学ぶ楽しみ，自分で考える楽しみを実感しながら，自ら目的を定め，ロボットプログラミングを実践することで，必要な知識や経験を得る喜びを体験。

1. 都道府県名	鹿児島県	3. 公民館対象人口	1758人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	指宿市	4. 建物設置年月日	平成18年2月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（ <input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 357人 <input type="checkbox"/> その他 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 2315人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 518人	合計	3,190人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	<input type="checkbox"/> 非常勤 1人	<input type="checkbox"/> 職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人	<input type="checkbox"/> 職員のうち社会教育士の数 0人	合計 2人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他（公民館運営委員会）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）	<input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 自由記述（ <input type="checkbox"/> ）	<input type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> その他（山川文化ホール内に開設（2階は指宿市役所山川支所））	<input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター		
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 指宿市PTA連絡協議会 <input type="checkbox"/> 地域女性連絡協議会 <input type="checkbox"/> 水産加工組合 <input type="checkbox"/> 山川漁協 <input type="checkbox"/> 九州電力

指宿市立山川校区公民館

OPEN 9:00～22:00 H P
TEL 0993-34-1117 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

山川校区は、天然の良港である山川港を中心に、古くから海上交通の起点として交易の場となっていたこともあり、異文化を快く受け入れるオープンな地域性が特徴である。

公民館が主催する各種講座も、そのような地域色を反映したユニークなものや、地域のニーズに応えるものなど、バラエティーに富んだ充実した内容となっている。特に異文化交流会は「外国人実習生に職場と宿舎以外の居場所を作りたい」という地域住民の思いを受けて始まった活動で、地域住民と外国人実習生のつながりづくりの場となっている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

①異文化交流

公民館講座として、異文化交流をテーマとした自主講座受講生を中心に、地元・山川の鯉節工場で働くベトナム人実習生との相互理解と草の根交流を図ることを目的に実施。全員で調理を行い、試食しながら講話を聴いたり、外国の文化として歌を披露してもらいながら相互交流し、異文化理解を図っている。

また、市の国際交流担当課と連携して令和2年度から図書コーナーを設置し、ベトナム語に翻訳されている本や日本語学習のための参考書などを置いてベトナム人実習生が自由に利用できるようにしている。この図書コーナーには他にも絵本や料理本などもあり、地域の子どもたちや公民館の利用者など様々な方が利用している。この図書コーナーに来た方がベトナム語の本や日本語の参考書などを目にするだけで、ベトナム人実習生をより身近に感じることができ、相互理解にもつながっている。

②旧山川町全体の豊かな資源と企業を生かした講座運営

自然エネルギーの一つである地熱を活用した山川地熱発電所があることから、小学生を対象に、地熱に関連する場所や施設を見学しながら郷土の豊かな資源活用について学ぶ講座を実施。子どもたちは講師の話聞きながら質問をしたり、メモをとったりするなど積極的に学習することができた。また、地元の豊かな資源や魅力の再発見にもつながった。



異文化交流会



地熱の関連施設を見学

3. 取組による成果や効果

①特徴的な取組による成果・効果

異文化の理解、仲間づくり、思考力の成長、学習への意欲向上

②これまでの取組全体による成果・効果

上記以外にも「海岸清掃と海がめの放流会」を通して環境保全や命の大切さを学んだり、地元図書館と連携した「クリスマスのおはなし会」を開催したりしている。多種多様な講座をきっかけとして、受講生は新たな気付きや学びの機会を得ることができるとともに、受講生同士の「つながり」が生まれ、自主講座への移行後も特色ある学びが継続されている。



海がめの放流会

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

生涯学習講座や公民館講座では、受講生にアンケートをとっている。

公民館の事業の改善を図るために、公民館運営委員会で委員や社会教育課の指導・助言を受けながら、運営や成果について、点検・評価を行っている。指導・助言に対しては、館長・公民館主事が中心となり、改善に努めている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

人口減少・少子高齢化など地方独自の課題はあるが、より多くの住民が講座に関心を持ち、参加してもらえるよう多種多様な講座を企画し開講している。また、講師やボランティア人財確保のため、図書館や小学校、PTA役員OB、漁協など地域の関係団体とのつながりを強化し、生涯学習まちづくりのネットワークを拡充するよう努めている。



生涯学習講座 お菓子&軽食づくり

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

移住者や外国人を含め、山川に暮らす全ての人々が年齢や国籍の枠を超えて、「ねっかいで（みんなで）」公民館に集い、笑顔で交流し、学びあい、助け合いながら山川で暮らす喜びを感じてもらえるような公民館運営をしていきたい。また、今後も漁協や水産加工組合、九州電力（地熱発電所）など、地元企業と連携・協働した講座を実施していきたい。



異文化交流会



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

隼人姫城地区において、地区の公民館活動のテーマは「ふるさとづくり」である。新興住宅地であることから新旧居住者の交流、地域の一体感が必要であったことや、地域の子どもの郷土愛を育み「ここがふるさと」と感じてもらうために、公民館では様々な取組を行っている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

・姫城しゅじゅどん会

地区の公民館活動のテーマである「ふるさとづくり」を強く意識した取組として、平成15年、当時の隼人町教育委員会から「青少年育成モデル事業」への取組依頼があり、活動の体系化・組織化がなされ本事業が発足。活動内容を精選しながら現在も続くものである。

現在は活動テーマを「農業体験を通じた異世代交流と食文化伝承」として、子どもから大人まで共に行う農業体験と地域の伝統食を通じた交流活動で構成される。

地域女性連は食に関する体験指導、老人クラブ・地区有志は農作業に関する体験指導、子ども育成会は参加呼びかけと受付、シルバー人材センターは農地管理・農作業補助など年間を通じた活動において、各種団体と連携・分担し地域ぐるみで青少年育成に携わっている。

・子育てサロン「すももクラブ」

民生委員・児童委員や地域のボランティアたちと創作活動や読書会・学びの場などを提供している。特に大切にしているのが親同士が交流する「おしゃべりタイム」である。

・姫城地区文化祭

利用団体の学習成果発表と住民交流を目的に、中学生をはじめ多くの住民が参加し、公民館最大のイベントに発展した。（令和2年度から新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

これまでの活動

H15 かかり作り,みかんがり,そば打ち
H16 かかし作り,そば打ち
H18~ 米作り体験,そば栽培
H23~ 収穫祭
H24~ シルバー人材センターと連携
H26~ さつまいも栽培
H30~ じゃがいも栽培

姫城しゅじゅどん会 これまでの活



子育てサロン「すももクラブ」

3. 取組による成果や効果

様々な体験活動によって、子どもたちは農業や食に対する理解を深めている。また、食べ物や自然に対する感謝、郷土愛が育まれている。

地区内中学校の協力もあり、中学生の参加が多くなってきていることや美術部の活動の一環として看板づくりなどを行い、事業の活性化に繋がっている。

参加した子どもたちと地域の大人が顔見知りとなり、普段も挨拶を交わす地域のつながりができる。また、大人と触れ合うことで礼儀を学ぶ機会にも繋がっている。



さつまいも植え

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

青少年育成事業、姫城地区文化祭に関しては、実行委員会を組織し、計画から行事の実施までを行っている。実行委員会のメンバーは、地区の有志がボランティアで長年勤め、行事ごとに反省点を出し合い常に改善を重ねてきた。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

活動には高齢者も多数参加して子どもたちとの交流を楽しみにしており、経験や知識を子どもたちや保護者などの若い世代へ体験を通して伝えられることに大きな喜びを感じ、生きがいにもなっている。

大人にとっても地域の特性や伝統文化を見直すきっかけとなり、地域住民同士の連帯感が強くなっており、子どもたちの活動を通して「ふるさとづくり」が進められている。



稲刈り

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

「子どもから大人までが共に農作業で汗を流し、その後一緒に食事をして交流を深める」という精選した目標と活動であることから永年活動が続いてきた背景がある中で、次世代の後継者育成や、これからの地域を支えるであろう子どもたちの興味関心を維持する活動をどれだけ取り入れるかが課題である。

また、根本的な理念は変えずに、様々な団体との連携を更に広げ、活動の内容に変化を持たせることに取り組んでいきたい。（例えば、SDGsの視点を入れるなど）



収穫祭

広げよう！ 出会い、ふれあい、地域の輪

鹿屋市大始良地区学習センター

公民館の沿革・年表

- ・昭和55年 大始良地区学習センター開館
- ・昭和55年 まちづくり大会（生涯学習発表会）の開催
- ・昭和58年 地域づくり推進事業「声かけ運動」発足
- ・平成4年 グラウンドゴルフ大会の開催
- ・平成26年 防災行政無線放送施設設置
- ・平成28年 鹿屋寺子屋の開設（大始良夢現塾）
- ・令和元年 鹿屋寺子屋の開設（南っ子応援団放課後見守り）
- ・令和2年 鹿屋寺子屋の開設（西俣寺子屋塾）

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 40年前から継承される「声かけ運動」
地域住民の連帯の輪を広げ、健全な青少年の育成を推進するため、昭和58年から取り組んでいる住民運動である。保護者や民生委員が市の巡回指導車で区内を巡回しながら補導や広報を行い、安全・安心な地域づくりに寄与している。
- 地域学校協働活動（鹿屋寺子屋事業など）
学校活動の支援や地域の伝統行事を知る活動を通じて、地域を好きになってもらうように講師の先生方や児童民生員が見守っている。平成30年12月3日地域学校協働活動文部科学大臣賞受賞



歴史ある学びの館



声かけ運動

1. 都道府県名	鹿児島県	3. 公民館対象人口	6,396人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	鹿屋市	4. 建物設置年月日	昭和55年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 3266人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 3542人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 306人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 3534人 (<input type="checkbox"/> ピー利用・図書室利用)				合計 10,648人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 2人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 2人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (鹿屋寺子屋事業)				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input checked="" type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input type="checkbox"/> その他 () <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (校区外通学の児童が、保護者の迎えを待つ間の利用がある。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 ・鹿屋市役所各課 ・鹿屋市大始良中学校、大始良小学校、西俣小学校、南小学校 ・国立鹿屋体育大学 ・南部幼稚園、和光保育園、西南保育園、星塚保育園 ・J Aきつき大始良支所 ・高齢者クラブ				

鹿屋市大始良地区学習センター

OPEN 8:30~22:00 H P
TEL 0994-48-3150 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 小・中学生，高齢者を中心に，それぞれに応じた学びの機会と情報を発信する場所が必要である。
- 第一次産業を基幹産業とする地域で，後継者不足や共働きの労働力人口が多く，青年・壮年・中年期の利用者が少ない。
- 住民のニーズとして長期に持続できる講座を希望する方が多く，生涯学習の意識が高い。
- 生涯学習発表大会（まちづくり大会）は，市民講座，同好会，小・中学校及び各幼稚園等の参加を得て開催し，出演者を含む来館者は延べ2,000人程である。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【キャッチフレーズ】あいさつと声かけで人づくり

【具体的な取組】

●生涯学習推進協議会の活性化

11町内会，幼稚園等，4つの小・中・高校の校長先生及び各種団体や地域の代表者との連携を密にするとともに，活動内容について当センターだよりに掲載して広報に努めている。

●高齢者学級の充実

年6回を計画し，前半は「知識型講座」，後半は「健康講座・健康体操」の2部構成で実施している。閉講式ではアンケートを実施し，次年度の講座内容に生かしている。

また，公民館運営審議会での答申に沿い，現代的課題に応じた学習機会の提供として，スマートフォン活用講座や防災講座を取り入れている。

●地域学校協働活動の更なる進化

平成30年12月に「かのや学校応援団大始良地域学校支援活動」の成果に対して文部科学大臣表彰を受けた。学校等と連携してより充実した活動を実施している。特に，寺子屋事業は現在の3カ所から，新たに高齢者のサロンを活用した見守りと学びの場を模索している。

●安全・安心な館の運営

地域の方の協力を得て，環境美化を図っている。



高齢者学級での健康体操



伝統の継承と見学する寺子屋生

3. 取組による成果や効果

●各部会による生涯学習推進事業の活性化

生涯学習推進協議会には4つの部会があり，それぞれが事業を行っている。特に生涯スポーツ部会が実施する「ふれあいグラウンドゴルフ大会」においては，企画・運営から当日の司会進行までを部員が行い，地域のリーダーとして活躍している。

●地域伝統行事の継承

地域学校協働活動を通して，子どもたちに受け継ぐべき伝統行事を地域と学校が協働して，継承する取組ができあがった。子どもたちが地域について考える「気づき」となった。

●ボランティア活動の定着

環境美化に地域の皆さんが協力していただき，安全・安心な館の運営に成果をあげている。



ふれあいグラウンドゴルフ大会
優勝チーム

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 生涯学習推進協議会の総会と4つの部会での行事立案・実施における意見交換や実施後の検証（次年度へ）
- 市民講座や同好会などの活動日誌から見えてくる講座生のニーズに対する分析と評価
- 地域学校協働活動（学校応援団）に対する支援者と学校からの要望の整合性を把握するための聞き取り

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- あいさつと声かけを大切にしている。
- 来館された方が帰る時に，「今日は楽しかった。勉強になった。」と言っていただける館の運営に努めている。
- やり方や考え方は，ひとつではなく同じではない。臨機応変な対応を心掛けている。



市民講座「ペン習字」

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- 館の発信力強化・・・館に人が来ることは基本である。市民講座など時間帯によっては来館できない地域住民がIT技術によりいつでも参加（見れる）できる公民館。
- 地域資源の活用・・・大始良には多くの史跡が残されている。「地域づくり」「地域の活性化」に向けた「まち歩き」に取り組む。



含粒寺（南町）



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN



文部科学省総合教育政策局地域学習推進課

文部科学省HP

公民館の振興についてはコチラ⇒

